

2023.6.15 理事会
2023.6.30 評議員会

令和4(2022)年度

事業報告書

社会福祉法人 恩賜財団 東京都同胞援護会

目次

I	2022年 事業報告	1
II	事業 経営	7
	1. 保育支援系施設の経営	7
	2. 高齢者支援系施設の経営	28
	3. 障害者支援系施設の経営	66
	4. 児童・女性支援系施設の経営	84
	5. 医療事業施設の経営	96
	6. 収益事業の経営	100
	7. 社会貢献事業	101
	8. 人材育成事業	102
III	職員福利厚生制度	103
IV	理事会及び評議員会	104
V	事務局主要業務	110
VI	施設長会及び各種委員会	114
VII	業務の適正を確保するための体制及びその運用状況の概要	132
VIII	事業報告の付属明細書	133

I 2022年度 事業報告

2022年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策に追われた年となりました。一方で、ロシアのウクライナ侵攻により、エネルギーや原材料の輸入価格高騰に拍車が掛かり、食料などの生活必需品も値上げラッシュが続きました。物価高の影響緩和のため、政府はガソリン価格の抑制や輸入小麦の価格据え置き、電気・都市ガス料金の負担軽減策など物価高対策を講じてきました。2022年度も社会情勢の変化に備えつつ、本会を取り巻く環境変化を見極めながら中長期計画に添って「持続的成長」を目指した経営を行ってまいりました。

本会はこれまで地域に根差した事業を着実に継続してまいりましたが、昨年度から新規事業として取組みを始めた杉並区久我山1丁目の「都有地活用による地域の福祉インフラ整備事業」について、運営事業者として施設整備事業計画(グループホーム併設の知的障害者通所施設)を作成し、令和7年4月開所に向けて区内関係施設並びに保護者向け説明会を実施いたしました。また、杉並区の「すべての家庭が希望する認可保育園に入園できる環境を整えていく」という地域ニーズに応えるため、杉並区井草5丁目に本会にとって10か所目の認可保育所となる「同援いぐさ保育園」をスタートさせました。

財務状況につきましては、電気ガス料金の上昇や物価の高騰、養護老人ホームの措置入居者の減少、新型コロナウイルス感染症の影響による介護保険施設の稼働状況が低迷するなどのマイナス要因もありましたが、物価高騰に対する補助金などのプラス要因や予算管理の徹底した取組みにより、昭島病院をはじめ多くの事業所の収支は良好に推移しました。その他、集合住宅賃貸事業をはじめとした不動産賃貸事業や印刷事業などの収益事業は安定的に収益を確保し、本会の財務基盤の下支えとなりました。令和4年度の事業活動増減差額は5億5794万円を計上することができましたが、昭島病院の高度医療機器の入替計画をはじめ、老朽化した建物を整備し、今後も福祉ニーズに応え続けていくために、引き続き財務基盤の強化に努めてまいります。

次に施設運営につきましては、新型コロナウイルスが猛威を振るい、各所で事業所内クラスターが発生し、感染の広がりによる事業継続の難しさを痛感する一年となりました。検査キットや防護服などの衛生用品、介護用品や使い捨て食器などの生活必需品が不足している施設に対して、必要な物資を補給できるよう事業所間における協力体制を整えるとともに、クラスター発生時の職員確保のための応援派遣体制を構築するなど、法人職員が一丸となり、利用者支援サービスの事業継続に努めてまいりました。昭島病院については、新型コロナウイルス感染症に対する院内感染防止対策を強化しながら積極的な紹介患者の受入れを行い、年間を通じた平均病床稼働率は77.8%を維持し、コロナ禍の影響を最小限に止めることができました。

地域への取組みについては、昨年に引き続き、活動そのものが限定的とはなりましたが、感染防止に努めながら、生活困窮家庭の子どもへの学習支援や地域見守り配食などの社会貢献活動を行ってまいりました。昭島病院においても、東京都や保健所の要請に対応し、近隣病院等からのコロナ陽性者、コロナ疑い患者、アフターコロナ患者の受け入れなどを積極的に行ってまいりました。

人材確保については、法人全体で新規採用職員52名、正規転換10名(計62名)を確保しました。また、採用活動に加え、全ての保育園において、業務負担軽減のためスマートフォン又はタブレット(いずれも園保有の公用機器)で入力できる記録システムの導入・運用を行ったほか、保育士を完全週休二日制とし、年間休日を120日以上とするなど、職員の働く環境の見直しも行いました。

人材育成については、各支援系グループで分野別専門研修を実施したほか、施設長等人事考課の実施者を対象とした施設マネジメントに関する研修を隔月で行い、「職員を大切に」という理念のもと、心理的安全性が高く、職員が有する能力を高め合える組織づくりを目指しました。

さらに、本会では、高齢者の雇用の安定を図るという社会情勢に対応するため、令和10年4月から定年年齢を65歳とすることとし、「定年年齢引き上げ移行に関する取扱規程」を制定するとともに、それまでの間再雇用職員と正規職員との待遇差を段階的に解消することとしました。急速な高齢化が進行している中で、本会としても事業運営の活力を維持していくために、働く意欲のある高年齢者がその能力を十分に発揮できるよう、高年齢者が活躍できる環境整備を図っていくことが重要であると考えております。

施設の利用者ならびにご家族の皆様をはじめ、関係者、地域の皆様から様々なご支援を賜りましたことに心より御礼申し上げます。

社会福祉法人 恩賜財団東京都同胞援護会
理事長 飯山 幸雄

令和4(2022)年度 施設利用状況報告

2023年3月31日現在

グループ名	種別	施設名	利用状況							備考		
			定員	(3月利用者実績数)	1日利用者平均	年間利用者数(延人数)	年間実施延日数	(年間利用率)	(年間利用率)		前年対比年間利用率	
保育支援施設	保育所	むさしの保育園	169	165	165.2	48,397	293	97.7%	98.7%	-1.0%		
		本園	140	139	137.9	40,411	293	98.5%	98.7%	-0.2%		
		方南分園	29	26	27.3	7,986	293	94.0%	98.9%	-4.9%		
		昭和郷保育園	100	118	116.3	34,084	293	116.3%	113.8%	2.5%		
		大山保育園	130	127	127.9	37,484	293	98.4%	98.0%	0.4%		
		昭和郷第二保育園	190	196	196.1	57,470	293	103.2%	104.2%	-1.0%		
		みなと保育園	63	53	52.5	15,374	293	83.3%	91.6%	-8.3%		
		同援みどり保育園	125	127	126.1	36,936	293	100.8%	104.0%	-3.2%		
		つつじが丘保育園	110	120	120.6	35,334	293	109.6%	112.2%	-2.6%		
		同援さくら保育園	108	108	107.5	31,497	293	99.5%	100.3%	-0.8%		
		同援はいじま保育園	50	59	58.7	17,210	293	117.5%	115.3%	2.2%		
		同援いぐさ保育園	60	29	27.0	7,768	288	45.0%	—	45.0%	4/1事業開始	
保育施設計			1,105	1,102	1,097.9	321,554	—	99.4%	103.7%	-4.3%		
高齢者支援施設	救護施設	昭島荘	100	102	100.5	36,676	365	100.5%	99.9%	0.6%		
	養護老人ホーム	万世敬老園	180	113	125.3	45,723	365	69.6%	80.2%	-10.6%		
	軽費老人ホーム	サンホーム	50	50	49.7	18,128	365	99.3%	99.7%	-0.4%		
	小計			330	265	275.5	100,527	—	83.5%	89.1%	-5.6%	
	特別養護老人ホーム(短期入所生活介護事業含)	フジホーム		104	97.3	99.4	36,278	365	95.6%	96.4%	-0.8%	
		ニューフジホーム		104	94.7	96.4	35,177	365	92.7%	88.9%	3.8%	
		原町ホーム		52	49.1	51.4	18,767	365	98.9%	101.6%	-2.7%	
		ゆたか苑		54	51.3	51.5	18,792	365	95.3%	95.1%	0.2%	
		ひかり苑		54	53.5	53.4	19,481	365	98.8%	97.5%	1.3%	
	小計(介護施設)			368	345.9	352.1	128,495	—	95.7%	95.0%	0.7%	
	認知症対応型老人共同生活援助事業(グループホーム)	グループホームかえで		18	14.5	17.2	6,272	365	95.5%	97.6%	-2.1%	
		原町グループホーム		18	16.7	15.8	5,768	365	87.8%	95.9%	-8.1%	
	通所介護(予防)事業	フジ・デイサービスセンター		25	10.8	12.8	3,938	308	51.1%	60.5%	-9.4%	
		東大和市ふれあいデイセンターひかり苑		12	5.2	5.9	1,822	307	49.5%	56.1%	-6.6%	
	地域包括支援センター	新宿区榎町高齢者総合相談センター		—	707件	23.0件	7,137件	310	—	—	—	
		昭島市中部地域包括支援センターあいぼつく		—	635件	23.7件	6,949件	293	—	—	—	
	居宅介護支援事業所	フジホーム		—	—	—	2,000	243	—	—	—	
		原町ホーム		—	—	—	830	294	—	—	—	
		ゆたか苑		—	—	—	434	241	—	—	—	
	小規模多機能型居宅介護事業	原町小規模多機能居宅介護センター		25	23	20.9	7,634	365	83.7%	93.7%	-10.0%	
昭和郷小規模多機能居宅介護センター			25	23	22.7	8,277	365	90.7%	87.3%	3.4%		
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	昭和郷訪問介護センター		—	23	20.3	7,418	365	—	—	—		
小計(介護在宅)			123	116.2	115.6	44,393	—	—	—	—		
公益事業	フジホーム診療所		—	—	—	—	—	—	—	—		
	介護職員初任者研修事業		—	—	—	—	—	—	—	—		
	さくらガーデン(サービス付き高齢者向け住宅)		49	49	47.4	17,309	365	96.8%	93.2%	3.6%		
高齢者施設計			870	776.1	790.6	290,724	—	88.8%	91.2%	-2.4%		

注1 定員については母子支援施設は世帯数で他施設は人数。

注2 地域包括支援センターは、相談件数を記載。件数は、相談内容により重複している。なお、利用者数の合計には算入していない。

グループ名	種別	施設名	利用状況									備考	
			定員	(3月利用者実績数)	1利用者平均	年間利用者数(延人数)	年間実施延日数	(年間利用率)	(年間利用率)	前年対比			
障害者支援施設	障害者支援施設(入所)	さやま園(居住)	施設入所支援	96	95.0	94.1	34,352	365	98.0%	98.6%	-0.6%		
	障害福祉サービス(通所)	さやま園	生活介護	(96)	100	95.6	95.0	25,562	269	99.0%	99.6%	-0.6%	
			短期入所	4		0.5	0.1	47	365	3.2%	5.5%	-2.3%	
			生活介護	40	70	30.4	30.1	7,305	243	75.2%	75.5%	-0.3%	
		小茂根福祉園	就労継続支援B	30		21.9	22.6	5,489	243	75.3%	80.2%	-4.9%	
			立川福祉作業所	生活介護	30	80	19.7	21.5	5,222	243	71.6%	76.8%	-5.2%
				就労継続支援B	44		46.5	46.4	11,275	243	105.5%	101.0%	4.5%
		東村山生活実習所	就労移行支援	6		1.0	2.0	490	243	33.6%	36.2%	-2.6%	
			生活介護	30	40	27.8	28.7	7,094	247	95.7%	101.0%	-5.3%	
		短期入所	就労継続支援B	10		8.0	8.0	1,987	247	80.4%	85.6%	-5.2%	
			短期入所	2		0.0	0.1	36	365	4.9%	1.4%	3.5%	
	心身障害者福祉ホーム	さくらんぼ		—	278	7.7	2,818	365	—	—	—		
	心身障害者福祉センター	さいわい福祉センター		—	615	19.9	7,272	365	—	—	—		
	共同生活援助事業(知的障害者グループホーム)	アミニティ富士見		6	6	6.0	2,190	365	100.0%	87.6%	12.4%		
		グリーンハイツ		6	5	4.4	1,620	365	74.0%	83.2%	-9.2%		
		フレンズ・モエ		4	4	4.0	1,460	365	100.0%	100.0%	0.0%		
		パル		6	6	4.5	1,641	365	74.9%	83.5%	-8.6%		
		それいゆ小川		7	7	7.0	2,555	365	100.0%	100.0%	0.0%		
		ファーム竹丘1		6	5	5.6	2,040	365	93.2%	100.0%	-6.8%		
		ファーム竹丘2		7	7	7.0	2,555	365	100.0%	100.0%	0.0%		
		風のね		10	10	10.0	3,650	365	100.0%	100.0%	0.0%		
		レジオンス巣鴨		4	4	4.0	1,460	365	100.0%	95.8%	4.2%		
		はなみずき		4	4	4.0	1,460	365	100.0%	100.0%	0.0%		
		ユーカリ		4	4	4.0	1,460	365	100.0%	100.0%	0.0%		
		夢オハナ		6	6	6.0	2,190	365	100.0%	100.0%	0.0%		
		結オハナ		6	6	6.0	2,190	365	100.0%	100.0%	0.0%		
特定相談支援事業		さやま園		—	8	—	140	—	—	—	—		
	立川福祉作業所		—	20	—	244	—	—	—	—			
	さくらんぼ		—	2	—	25	—	—	—	—			
公益事業	豊島区東部・西部障害支援センター		—	—	—	—	—	—	—	—			
障害者施設計			368	1,343.4	448.7	135,829	—	91.4%	92.4%	-1.0%			
児童・女性支援施設	母子生活支援施設	サンライズ武蔵野		20	19	16.7	6,104	365	83.6%	56.4%	27.2%		
		緊急一時保護事業		1	2	0.2	72	365	19.7%	35.9%	-16.2%		
		サンライズ万世		20	20	19.3	7,040	365	96.4%	84.7%	11.7%		
		緊急一時保護事業		2	0	0.4	130	365	17.8%	13.4%	4.4%		
	児童養護施設	双葉園		50	48	47.0	17,142	365	93.9%	96.4%	-2.5%		
		(地域小規模) 双葉園		(38)	(36)	35.1	12,794	365	92.2%	96.0%	-3.8%		
		(地域小規模) 高嶋の家		(6)	(6)	6.0	2,184	365	99.7%	95.6%	4.1%		
		(地域小規模) くすのき		(6)	(6)	5.9	2,164	365	98.8%	100.0%	-1.2%		
	昭島市子どもトワイライトステイ事業		2	0	—	5	365	—	—	—			
	婦人保護施設	いこいの家		40	14	14.8	5,408	365	37.0%	29.2%	7.8%		
児童厚生施設	昭島市児童センターばれっと		—	127.1	103.4	34,213	331	—	—	—			
児童・女性施設計			135	230.1	201.8	70,114	—	75.1%	75.1%	0.0%			
施設合計			2,478	3,451.6	2,539.0	818,221	—	92.5%	94.6%	-2.1%			
医療	病院	昭島病院		199	13,453	484.8	149,561	365	—	—	—		
		入院		199	5,203	154.8	56,501	365	77.8%	80.0%	-2.2%		
		外来		—	8,250	330.0	93,060	282	—	—	—		
	昭島病院訪問看護ステーション		—	300.8	12.8	3,366	263	—	—	—			
収益	印刷	事業局		—	—	—	—	—	—	—			
	不動産賃貸	不動産賃貸事業・病院駐車場事業		—	—	—	—	—	—	—			
合計(福祉施設31、病院1、事業局1、その他事業32)			2,677	17,205.4	3,036.6	971,148	—	—	—	—			

令和4(2022)年度 職員配置状況報告(職員実人員数)

グループ名	種別	施設名	2023年3月31日				22年度	2022年3月31日				21年度	備考
			正規職員	契約	非常勤	職員数合計	(年間勤換算平均)	正規職員	契約	非常勤	職員数合計	(年間勤換算平均)	
保育支援施設	保育所	むさしの保育園	34	1	20	55	44.8	39	0	16	55	47.8	調理委託(本園)
		昭和郷保育園	18	4	14	36	32.9	21	2	14	37	31.6	調理委託
		大山保育園	26	0	17	43	37.3	24	1	19	44	38.1	
		昭和郷第二保育園	32	7	19	58	47.9	31	8	22	61	51.0	調理委託
		みなと保育園	15	2	8	25	22.4	16	2	8	26	23.2	
		同援みどり保育園	26	3	18	47	37.0	25	3	15	43	37.5	
		つつじが丘保育園	22	0	21	43	34.9	25	0	16	41	35.8	調理委託
		同援さくら保育園	24	1	23	48	33.7	27	2	18	47	38.1	調理委託
		同援はいじま保育園	11	1	12	24	19.9	12	1	13	26	20.7	調理委託
		同援いぐさ保育園	11	0	6	17	15.1	—	—	—	—	—	
保育施設計			219	19	158	396	325.9	220	19	141	380	323.8	
高齢者支援施設	救護施設	昭島荘	29	8	9	46	44.2	35	5	9	49	45.6	調理委託
	養護老人ホーム	万世敬老園	16	7	16	39	34.8	17	6	17	40	35.8	調理委託
	軽費老人ホーム	サンホーム	12	2	7	21	16.7	12	3	5	20	16.7	
	特別養護老人ホーム(短期入所生活介護事業含)	フジホーム	37	6	19	62	59.1	38	12	19	69	63.0	調理委託
		ニューフジホーム	43	5	18	66	61.1	41	7	21	69	61.6	調理委託
		原町ホーム	20	5	10	35	34.2	20	7	9	36	35.2	調理委託
		ゆたか苑	25	1	9	35	31.3	24	1	11	36	30.2	調理委託
		ひかり苑	17	9	10	36	34.9	21	7	14	42	37.1	
	認知症対応型老人共同生活援助事業(グループホーム)	グループホームかえで	3	4	12	19	14.4	1	6	10	17	14.6	
		原町グループホーム	7	2	8	17	15.6	7	3	8	18	16.1	
	通所介護(予防)事業	フジ・デイサービスセンター	2	0	9	11	9.8	2	0	13	15	12.0	
		東大和市ふれあいデイセンターひかり苑	1	3	3	7	5.6	1	3	3	7	6.3	
	地域包括支援センター	新宿区榎町高齢者総合相談センター	10	1	0	11	9.8	8	1	0	9	10.4	
		昭島市中部地域包括支援センターあいぼっく	3	0	4	7	6.1	3	0	4	7	6.1	
	居宅介護支援事業所	フジホーム	3	1	1	5	4.9	3	1	1	5	4.9	
		原町ホーム	2	0	0	2	2.0	2	0	0	2	2.0	
		ゆたか苑	1	0	0	1	1.9	2	0	0	2	2.0	
		昭和郷	0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0.5	21/10/1事業休止
	小規模多機能型居宅介護事業	原町小規模多機能居宅介護センター	5	0	9	14	12.1	5	1	8	14	12.7	
		昭和郷小規模多機能居宅介護センター	3	5	7	15	11.7	3	4	6	13	11.7	
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	昭和郷訪問介護センター	4	4	2	10	9.3	4	2	5	11	10.2		
公益事業	フジホーム診療所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	介護職員初任者研修事業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	さくらガーデン(サービス付き高齢者向け住宅)	1	0	11	12	6.3	1	0	11	12	6.1		
高齢者施設計			244	63	164	471	425.8	250	69	174	493	440.8	

グループ名	種別	施設名	2023年3月31日				22年度	2022年3月31日				21年度	備考	
			正規職員	契約	非常勤	職員数合計	(年間平均換算)	正規職員	契約	非常勤	職員数合計	(年間平均換算)		
障害者支援施設	障害福祉サービス	さやま園	55	20	43	118	96.9	63	15	37	115	98.8		
		小茂根福祉園	30	2	0	32	31.5	30	2	1	33	30.6		
		立川福祉作業所	12	4	15	31	25.1	12	4	12	28	24.2	調理委託	
		東村山生活実習所	14	7	9	30	25.9	11	7	8	26	24.4	調理委託	
	心身障害者福祉ホーム	さくらんぼ	20	0	17	37	29.6	19	2	15	36	29.2	調理委託	
	心身障害者福祉センター	さいわい福祉センター	22	0	12	34	24.7	21	1	9	31	26.6		
	共同生活援助事業 (知的障害者グループホーム)	アミニティ富士見	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—		
		グリーンハイツ	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—		
		フレンズ・モエ	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—		
		バル	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—		
		それいゆ小川	—	(2)	—	0	—	—	(2)	—	0	—		
		ファーム竹丘1	—	(2)	—	0	—	—	(2)	—	0	—		
		ファーム竹丘2	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—		
		風のね	4	3	5	12	10.0	4	3	5	12	10.0		
		レゾンス巣鴨	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—		
		はなみずき	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—		
		ユーカリ	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—		
		夢オハナ	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—		
	結オハナ	—	(1)	—	0	—	—	(1)	—	0	—			
	特定相談支援事業	さやま園	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
立川福祉作業所		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
さくらんぼ		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
公益事業	豊島区東部・西部障害支援センター	(4)	—	(4)	(8)	—	(4)	—	(4)	(8)	—			
障害者施設計			157	36	101	294	243.7	160	34	87	281	243.8		
児童・女性支援施設	母子生活支援施設	サンライズ武蔵野	10	2	5	17	13.6	9	2	7	18	12.5		
		サンライズ万世	11	2	2	15	13.4	10	2	2	14	12.6		
	児童養護施設	双葉園	(地域小規模)	39	2	9	50	55.2	38	3	11	52	52.1	
			高嶋の家	6	0	0	6		4	0	0	4		
		(地域小規模)	くすのき	4	0	0	4		3	0	0	3		
	婦人保護施設	いこいの家	11	0	1	12	11.1	9	1	1	11	11.3	調理委託	
	児童厚生施設	昭島市児童センターぱれっと	0	2	11	13	6.4	1	2	10	13	7.1		
児童・女性施設計			81	8	28	117	99.7	74	10	31	115	95.6		
施設合計			701	126	451	1,278	1,095.1	704	132	433	1,269	1,104.0		
医療	病院	昭島病院	205	0	123	328	266.4	205	0	121	326	255.7		
		訪問看護ステーション	4	0	3	7		4	0	3	7			
収益	印刷	事業局	14	1	0	15	15.0	13	1	0	14	14.0		
	土地・建物賃貸	不動産賃貸事業 病院駐車場事業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
合計			924	127	577	1,628	1,376.5	926	133	557	1,616	1,373.7		

注1 嘱託医等の業務委託や派遣職員は算入していない。

注2 共同生活介護・共同生活援助(風のね除く)の職員配置は、委託事業のため職員数および常勤換算には含まない。

Ⅱ 事業経営

1. 保育支援系施設の経営

認可保育所10園を経営しました。

グループ総括

◆ 利用者支援サービスの充実

・令和3年度より保育園長によるミライ委員会を発足させ将来の保育園構想について検討を行い、今年度は見直しを行った保育グループの理念・方針・目指す保育等を各園で実践してきました。

・保育園の安全対策について、新型コロナウイルス感染症の流行を受けてBCP(事業継続計画)に基づき対応していききました。また次年度から義務付けとなる安全計画について、職員へ周知見直し等の準備を行いました。

・新保育システムを導入し、連絡ツールアプリを使用することで、日々の連絡や保育の様子を写真や動画付で配信することが可能となり、保護者への情報提供がスムーズに行えました。また、アンケート機能も使用し保護者の声を反映することができました。

◆ 地域社会への取組み

・関係機関と連携を取りながら育児困難家庭・要配慮児への対応に努めました。またグループで「発達多様性と理解と支援」というテーマで研修を受け、実践へとつなげました。

・新型コロナウイルス感染症の流行が継続する中、地域子育て支援について、オンラインだけでなく、感染対策をしながら対面でも実施しました。人とのつながりが減ってきた中で、子育て世代の保護者にとっては良い機会となり、そこから入園や一時保育等につながりました。

・一時預かり事業(一般型)及び定期利用は新型コロナウイルス感染症流行の影響や、待機児童減による保育園への入園がしやすくなったこともあり、稼働率は低くなりましたが、一定の貢献ができました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・多様なサービスを提供できる人材の育成のために、オンライン等を活用し保育グループ研修や各施設の計画に基づいた研修を実施しました。特に「目指す保育・職員像」の実現に向けて各園で工夫して園内研修を実施しました。

・昨年度実施した職員のパブリックコメントの結果を受け、働きやすい職場づくりについて出来ることから各園で取り組みました。その一環として変更した新しい保育システムの運用について、システム委員を中心に課題を取りまとめ、改善策を全園で共有しながら、より充実したシステムの運用へ向け工夫を重ねました。これにより業務効率化へ一歩を踏み出しました。

・新型コロナウイルス感染症の流行もあり実習生の受け入れが少なかったことで、グループ全体で採用が困難な年度となり、人材の確保に苦戦しました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・新型コロナウイルス感染症流行の影響もあり少子化に拍車がかかる中、区部では年度当初に0歳児未充足の園が出ましたが、各園が自施設のアピールに努めたことで年度途中には解消できました。

・物価高騰により光熱費や給食食材費に影響が出ましたが、可能な限り感染症拡大防止や物価高騰対策を支援する補助金を活用しました。

・保育システムを新しくしたことでペーパーレスとなり資源の削減が行えました。

・同援いぐさ保育園の開園に伴い、グループ内で繰り入れを行いました。運営に当たり必要な物はグループ内で声を掛け合い譲ってもらうなど、協力体制のもと、予定よりも繰入額を減額することができました。

令和4(2022)年度 事業報告(保育所)

施設名 むさしの保育園

定員 169 名

【事業実績】

施設利用率

97.7 %

*施設入所支援目標利用率 98.2%

◆利用者支援サービスの充実

・「気持ちに寄り添いみんな笑顔」の合言葉を常に振り返り、子ども一人ひとりが遊びを選べる環境づくりに取り組みました。ウィズコロナとなり、感染症対策を行いながらも方法を工夫し、可能な限りの園行事を実施しました。
・新保育システム「コドモン」を導入し、家庭と園との相互の様子を伝え合い信頼関係を形成していきましました。また、お知らせやアンケート機能を活用することで、保護者の意見等に素早く対応ができるようになりました。
・利用者の安全・安心を守るために換気を効率よく行い、疾病が発生した場合は情報公開を速やかに行い、感染症対策に取り組みました。また、年度末には安全計画を策定し、次年度からの実施に向けて、職員に周知しました。

◆地域社会への取組み

・地域子育て支援の拠点として、感染症対策を行いながら、一時保育・育児講座を実施し、「はじっこ」の活動を再開しました。地域の関係機関と連携しながら、子育て相談や発達・育児に関して情報を発信し、子育て支援に取り組みました。
・HPを活用し、保育園の様子や地域活動の様子を発信することで、保育所体験や園見学の参加につなげることができました。

◆福祉人材の育成と職場環境の整備

・「目指す保育・職員像」をクレドカードにし、職員に配布しました。また園内研修や保育グループ内施設見学を通して、職員相互の保育観を繰り返し話し合うことで、保育の質の向上に努めました。
・働きやすい職場づくりを目指し、職員一人ひとりが改善意識を持てるよう、継続的に話し合いを重ねていきました。また、役職職員は職場の心理的安全性が高められるよう取り組み、離職率の低下に努めました。

◆財務基盤の強化へ向けた取組み

・安定した運営に向けて、稼働率の維持に努めましたが、年度途中の欠員は補充しきれず、分園2歳児は1年を通して1名未充足となりました。地域活動や高齢者等雇用など補助金を積極的に活用し、収入の維持に努めました。
・SDGsに関して園内に掲示をし、節減・節約・リユース等を心掛けるよう努めました。電気をこまめに消す等努めましたが、物価高騰や感染症対策のための換気の実施等により、明確な成果が得られませんでした。引き続き、節減・節約などに努めていきます。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
乳児保育室大型棚	1,848		
購入等合計	1,848	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
		乳児保育室大型棚	1,599
購入等合計	0	購入等合計	1,599
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	90	92	93	95	95	95	95	95	95	95	94	94	1,128
女児	71	72	73	73	72	70	69	70	71	71	71	71	854
合計	161	164	166	168	167	165	164	165	166	166	165	165	1,982

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R02(2020)年度	23	32	31	27	25	27	165
R03(2021)年度	23	32	32	27	26	26	166
R04(2022)年度	22	31	32	27	26	27	165

令和4(2022)年度 事業報告 (保育所)

施設名 昭和郷保育園

定員 100 名

【事業実績】

施設利用率

116.3 %

*施設入所支援目標利用率 116.0%

◆ 利用者支援サービスの充実

・令和4年度は定員を満たしてスタートすることができました。入所希望で待機児もいることから、職員とも話し合いを持ち、柔軟な入所の受け入れを行いました。

・新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら、保護者参加の行事も人数制限や形態を変えながら実施し、保護者から大変喜ばれました。また、新保育システムを活用し園での子ども達の様子を写真や動画で随時発信し、保育の可視化に努めたことにより、日々の保育に対して保護者の理解や安心を得ることができました。

・新型コロナウイルス感染防止対策に努めながら、子ども達が保育園でできることを多く増やすよう努めました。様々な経験や体験が子どもの成長や発達には欠かせないことから、職員間でよく話し合いを持ち、コロナ禍で今まで中止・縮小していた行事等も再開しました。

・幼児クラスでインクルーシブ保育(障害のあるなしを前提とせず全ての子どもを対象とし、一人ひとりが異なることを踏まえ、そのニーズに応じた保育)の導入を始めました。劣等感をいだいている子どもや保護者もいる中において、この取組みは始まったばかりですが、これからも継続して取り組みます。

・BCPの見直しを行い、様々な場面を想定した訓練を行いました。また、既存のマニュアルを改めて見直し、安全安心な保育が遂行できるよう努めました。

・アレルギー児へのマニュアルを見直し、アレルギー対応について職員へ周知徹底を図ることで、安全に食事の提供ができるようになりました。

◆ 地域社会への取組み

・地域の未就園児の親子が保育園を利用する保育所体験を実施し、10組の親子に体験していただきました。また、一時保育も実施し、保護者のニーズに合わせて利用頂きました。講師を招いたり、当園の栄養士や保育士のスキルを活かした育児講座、ミニコンサートなども開催し、参加した親子からも大変喜ばれました。

・病後児保育室の利用も徐々に増え、保護者が安心して働くことができるよう支援しました。

・障がい児はもとより、医療的ケアの必要な子どもの受け入れを目指して取り組みました。

・東日本矯正医療センター准看護師養成所の実習の受け入れを行い、地域貢献に努めました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・働きやすい環境になるよう、職員の意見を聞きながら改善に努めました。保育環境とともに、職員も気持ちよく働けるよう職員への環境整備にも力を入れました。その結果、職員自らも環境を整える習慣が付き、職場の雰囲気も大きく変化しました。

・昭和郷保育園の保育について皆で話し合いを重ねていき、保育環境についても職員の意見を取り入れていくことにより、共通の目的を持ち、園全体で取り組むことができました。

・講師による対面と、オンラインでの研修、職員間で学び合う園内研修では、保育の実践に繋がり、効果が得られました。

・実習生の受け入れを積極的に行い、採用に繋げることができました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・入所希望も多く、待機児解消のため、園児を柔軟に受け入れることで稼働率は上がりました。

・地域活動事業などを積極的に取り組むことで補助金の増額に繋がりました。

・SDGsの取り組みにおいて節電・節水に努めましたがガス代の高騰も相まって、その効果は得られませんでした。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
電気式食器消毒保管庫	528	電気式食器消毒保管庫	528
厨房室簡易自動消火装置交換	1,969	保育室床張替工事	2,750
購入等合計	2,497	購入等合計	3,278
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
保育室床張替工事	2,828	厨房室簡易自動消火装置交換	1,526
購入等合計	2,828	購入等合計	1,526
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	49	51	52	53	53	53	53	53	53	54	54	54	632
女児	62	62	64	64	64	64	64	64	64	64	64	64	764
合計	111	113	116	117	117	117	117	117	117	118	118	118	1,396

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R02(2020)年度	11	16	22	22	23	23	117
R03(2021)年度	11	16	20	22	22	23	114
R04(2022)年度	11	16	23	23	22	23	118

令和4(2022)年度 事業報告 (保育所)

施設名 大山保育園

定員 130 名

【事業実績】

施設利用率

98.4 %

*施設入所支援目標利用率 100.0%

◆ 利用者支援サービスの充実

・感染状況に応じて対策を講じながら「同援保育グループが目指す保育」の達成に向け、職員で話し合い保育内容の充実に取り組みました。
・子ども一人ひとりの興味・関心に合わせ、思いに寄り添い、保育内容を深めることができました。また、子ども達からの「～やりたい」という思いを大切にしながら、自ら遊びを選択し遊び込める環境づくりに取り組みました。
・できるだけ個別や小集団での関わりを大切に、気持ちに寄り添い自己肯定感が持てるよう支援しました。
・感染症対策や災害、防犯の非常時に迅速に対応できるよう、事業継続計画(BCP)の見直しや訓練を行い実践に活かせるように努めました。
・新保育システムを活用し、写真や動画などで日々の保育の様子を伝え、情報提供に努めました。

◆ 地域社会への取組み

・障害児の受け入れも積極的に取り組み、育児困難家庭の状況把握に努め支援に繋げる事ができました。
・子育て環境の把握に努め、必要に応じて関係機関と連携し、支援に繋げることができました。
・感染症対策を講じながら、離乳食クッキングや夏まつり、卒園児交流会などを実施することで、地域の方に保育園を知ってもらうことができました。また、入園希望見学会の際に育児相談を実施し、支援に繋げることができました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・多様なサービスを提供できる人材を育てるために、法人研修・キャリアアップ研修・区研修などに参加しました。また、自ら研修を選択し参加することで、職員の学ぶ意識も高まり質の向上を図ることができました。
・「目指す保育・職員像」の実現に向け園内研修で意見交換をし、カリキュラム会議で毎月振り返りを行い、学びを深め保育実践に繋がられるよう努めました。
・職員間でお互いを認め合い、個々が持っている得意分野を活かせるように心がけました。また、業務改善に取り組み、チューター制度などを活用し働きやすい環境づくりに努めました。
・実習生が少なく新規採用に繋げることができませんでした。次年度は人材確保に向けて取り組みを更に強化していきます。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・入所状況は、定員に対し0歳児は4.5月各月△3名 6月は△1名、1歳児は7月△1名、2歳児は12月△1名、1月△2名、5歳児は4月以降△2名が続き、稼働率を100%にすることが出来ませんでした。
・保育システムを活用して、保護者への様々な情報提供をアプリで配信したことで、ペーパーレスとなり資源の削減に繋がりました。
・職員の適正人数配置を行い、節電や節水などの経費削減に努めました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
ホームページ作成	800		
購入等合計	800	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
		ホームページ作成	666
購入等合計	0	購入等合計	666

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	66	67	68	68	68	68	67	67	66	64	64	64	797
女児	59	59	60	60	61	61	63	63	63	63	63	63	738
合計	125	126	128	128	129	129	130	130	129	127	127	127	1,535

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R02(2020)年度	15	20	23	24	24	22	128
R03(2021)年度	15	19	23	24	22	22	125
R04(2022)年度	15	20	21	25	24	22	127

令和4(2022)年度 事業報告 (保育所)

施設名 昭和郷第二保育園

定員 190 名

【事業実績】

施設利用率 103.2 % *施設入所支援目標利用率 104.9%

◆ 利用者支援サービスの充実

・保育グループが目指す保育を会議、園内研修を行いながら正規職員はもちろん非常勤職員にも共有し、子ども一人ひとりの保育を園一体で行っていけるよう取り組みました。少しずつですが、職員同士の声かけが増えクラス同士の助け合い・連携が進んでいます。
・幼児クラスで新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生しましたが、予防の徹底を継続して取り組んだことで乳児クラスには飛び火せず、収束することができました。
・BCPの見直しを行うとともに市の災害のガイドラインを保護者へ共有しました。また、安全計画を作成し、次年度から理解して取り組めるように働きかけることができました。
・新システムに移行し、紙ベースから保護者自身の携帯で日々の連絡等が確認ができるようになり、保護者からは何時でも見られるということで好評でした。写真を添付したり、動画の配信ができるので子どもたちの姿をよりリアルに感じることができ、喜ばれています。
・新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたことで、行事や保育の内容を通常に近い形で取り組むことができました。

◆ 地域社会への取り組み

・待機児対策として定期一時保育が定着し、保育園に入園できなかった保護者の仕事復帰に貢献することができました。また、一時保育(一般型)については利用希望をできるだけ受け付け、保護者支援に繋がるよう努めました。
・地域支援については、動画配信や新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたこともあり、「ベビーマッサージ」や「親子フラダンス」を行いました。その際に育児相談(離乳食の進め方等)に対応し、支援をすることができました。
・世代間交流を積極的に取り組み、近隣の高齢者施設や小学校との交流を行ったところ、保育園での子どもの姿や保育園の役割を知ってもらえる良い機会となりました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・キャリアアップ研修を中心にオンライン等の研修を多く受講することができました。
・園内研修では、現場にすぐ活用できる絵画や保育に関する研修を行いました。新型コロナウイルス感染症が落ち着き、対面で行うことができ、質問など積極的に行い保育に繋げることができました。
・オンラインで行える研修については、非常勤職員にも受講する機会ができ、保育に繋げることができました。
・保育グループのミライ会議で保育理念等の見直しや、「目指す保育・職員像」について話し合い決定したことを受けて、園内で実現に向けてリーダーを中心に取り組みを始めました。
・時間内にできない仕事については、できるだけ計画的に超過勤務の申請を行い取り組めるように働きかけました。行事は声を掛け合い、助け合って取り組むようにリーダーが積極的に働きかけることができました。
・「コドモン」を導入し、書類や保護者とのやり取りが効率的に行えるようになりました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取り組み

・190名定員のところ196名受け入れることができ、安定した運営ができました。
・「コドモン」導入に伴い、ペーパーレスになり資源の削減ができました。
・光熱水費が高騰する中で、よりいっそう日中の節電に努めました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
園舎外壁塗装工事	1,028	園舎外壁塗装工事	1,028
購入等合計	1,028	購入等合計	1,028
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	93	93	93	93	93	94	95	95	95	95	94	94	1,127
女児	99	100	101	103	103	103	104	103	103	103	103	102	1,227
合計	192	193	194	196	196	197	199	198	198	198	197	196	2,354

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R02(2020)年度	28	30	34	37	34	35	198
R03(2021)年度	28	30	35	36	37	34	200
R04(2022)年度	26	30	34	36	33	37	196

令和4(2022)年度 事業報告 (保育所)

施設名 **みなと保育園**

定員 **63** 名

【事業実績】

施設利用率 **83.3** % *施設入所支援目標利用率 95.2%

◆ 利用者支援サービスの充実

・家庭と連携して、子どもの最善の利益を考慮した養護と教育が一体となった保育を実践していくことができました。コロナ禍の行事の取り組みについて職員間で話し合い、特に保護者参加の行事は乳幼児と一緒に参加できるよう、感染予防の徹底と保護者への協力要請等を行った中で実施し、直接子どもの姿を見ていただくことができました。子ども達もいきいきとした姿を見せ、動画などでは伝えられない子どもの意気込み・楽しさ等が伝えられたこと、目の前でその頑張りに対して応援や声援・拍手をいただけたことが成果でした。

・保育施設における様々な事故や事件も多く発生したことで、感染予防・アレルギー・不適切保育・事故対策・散歩等についてもマニュアルを見直しました。

・災害時に備え、BCPの確認や区の広域避難所までの避難経路等も直接確認することができました。

◆ 地域社会への取組み

・育児講座は対面で行うことができました。実際に来園いただいたことで、より保育園を知ってもらう事ができました。

・保育所体験は、昨年同様近隣の公園での触れ合いを中心に実施し、昨年よりも園の取り組みを知っていて下さる方も増え、行事へ招待することもできました。

・地域向けの和太鼓は園内での実施にすることで、9月より毎月行うことができました。部屋の広さや音の問題もありましたが、実施する事で大変喜ばれました。

・地域との関係づくりのために港区の取り組みに参加しました。港区応援企画(フードパントリー)や地区の広報誌にも掲載していただき少しずつ繋がりができてきました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・WEB研修を有効に活用し、職員一人ひとりが積極的に研修に参加することができました。また、人権についての動画も職員で視聴し、改めて個の人格を否定せず尊重できるような学びができました。

・保育グループの理念について、園内研修を行うことで園目標をしっかりと考え、みなと保育園の目標でもある「受け止める」について毎月事案を基に話し合いました。会議で話し合うことで、子どもへの関わり方が少しずつ共有できてきました。

・安心して働くことのできる職場環境づくりを心掛け、職員の定着に努めました。

・時間の使い方を考え、皆で協力し合い仕事ことができました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・物価・光熱費の高騰等を意識し、園内の節電や消耗品の節約に努めました。

・コロナ禍で延長保育や土曜日保育の利用も減りましたが、職員の協力のもと諸経費を抑え経費削減に努めました。

・新型コロナウイルス感染症補助金を有効に活用し、衛生面を強化し子ども・職員の感染を最小限に抑えることができました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	30	31	31	32	34	34	35	35	35	35	35	34	401
女児	18	18	19	18	19	20	20	20	20	19	19	19	229
合計	48	49	50	50	53	54	55	55	55	54	54	53	630

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R02(2020)年度	6	9	12	12	11	11	61
R03(2021)年度	6	9	12	9	12	11	59
R04(2022)年度	6	9	10	12	4	12	53

令和4(2022)年度 事業報告 (保育所)

施設名 同援みどり保育園

定員 125 名

【事業実績】

施設利用率

100.8 %

*施設入所支援目標利用率 104.0%

◆利用者支援サービスの充実

・待機児解消のため、弾力入所を行いました。
・新型コロナウイルス感染症がなかなか収束せず、8月にはかなりの罹患者が出てしまいました。その中でも職員全員で考えながら、子ども達が様々な経験を持つことができるように保育を進めていくことができました。
・子どもの人権や主体性を尊重し、一人ひとりの成長に応じた適切な養護と教育を行いました。
・保育グループとの理念・方針・目指す保育を実践していけるよう「丁寧な保育」を行い、乳児クラスは小グループでの保育を行い、幼児クラスでは子ども達が自分たちで心を動かし、主体的に活動できるような保育を進めていきました。その為に保育室の使い方等を検討し環境を整え、安心して過ごせる生活の場にしていきました。
・災害訓練を行い防災・減災、事業継続計画(BCP)の充実に取り組みました。

◆地域社会への取組み

・高齢者施設とリモートでの交流を行いました。対面での交流はできませんでしたが、久しぶりに交流できたことで、とても良い体験となりました。
・地域社会の子育ての拠点としての活動も新型コロナウイルス感染症の感染対策をしながら、少しずつ行いました。少人数で在園児と関わりを持つこともでき、子育ての相談等も聞くことができました。今後地域の育児拠点となれるよう、感染状況を見ながら取り組みます。

◆福祉人材の育成と職場環境の整備

・多様なサービスを提供できる人材の育成のため、園内外の研修に積極的に参加しキャリアアップに努めていきました。園内研修では「保育」について、職員が意見交換をする機会を持ち、「丁寧な保育」について具体的に動画も使いながら保育内容を話し合える場を設けることができました。また福祉人材としての倫理教育の強化やコンプライアンスも重視するとともに、気になる子や家庭に対してのアプローチの仕方や関係機関等の情報も共有しました。
・一人ひとりに合わせた人材育成を行い、安心して働くことのできる職場環境をつくり、若手職員の定着に努めていきました。また「働き方改革」として業務内容を見直し、働きやすい職場環境づくりを進めていきました。
・新たに保育アプリ「コドモン」を導入し、保護者へ保育内容の視覚化や職員の業務省力化に繋がりました。

◆財務基盤の強化へ向けた取組み

・0歳児クラスが未充足の状態でのスタートでしたが、9月には充足することができました。
・諸物価高騰に伴い補助金は出ましたが、施設の経営には影響がありました。
・施設整備計画を意識し、省エネ対策や経費を削減することで財務基盤の強化に努めました。
・働き方改革を受けて業務の見直しを行い、効率的に働けるようリーダー層を中心に取り組みました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
小ホールエアコン交換	921	小ホールエアコン交換	975
購入等合計	921	購入等合計	975
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
PC(×3)	600		
購入等合計	600	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
		流し台	548
購入等合計	0	購入等合計	548

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	69	70	71	71	72	74	74	74	74	75	75	75	874
女児	55	53	53	53	53	54	54	54	54	52	52	52	639
合計	124	123	124	124	125	128	128	128	128	127	127	127	1,513

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R02(2020)年度	12	19	24	25	25	25	130
R03(2021)年度	12	19	24	25	25	25	130
R04(2022)年度	12	19	24	25	24	23	127

令和4(2022)年度 事業報告（保育所）

施設名 つつじが丘保育園

定員 110 名

【事業実績】

施設利用率

109.6 %

*施設入所支援目標利用率 110.9%

◆ 利用者支援サービスの充実

・保育所保育指針に沿った全体的な計画を基に保育目標の達成に努めました。
・3歳児途中退園分は未充足のままとはなりましたが、0歳児待機児解消となる弾力入所を継続し、地域に貢献するとともに本園に蓄積された専門知識を活かし保育所の役割を果たしました。
・コロナ禍でできることを模索し実行してきたことを活かし、子どもたちの生きる力などを育める保育に努めました。
・空調設備取り換えや前庭舗装、排煙窓のオペレーター修繕を行い、利用者・職員の安全安心かつ快適な環境の充実に努めました。
・事業継続計画(BCP)の見直し及び訓練では、例年以上に具体的な訓練を取り入れることを意識して、変化をつけた内容を実施しました。

◆ 地域社会への取組み

・コロナ禍でできることとして、オンラインの活用や見学に来た地域の方に情報を発信し、育児相談などを行いました。
・育児困難家庭への対応や障害児の積極的な受け入れを行うにあたり、関係機関との連携の強化に努め、専門機関につながるケースが増えました。次年度は実践力を高める園内研修を計画しています。
・地域の高齢者施設や自治会との交流はコロナ禍で実現できませんでしたが、近隣の高齢者の要望などを受け、孤立化した方々と関わりを持ちました。情報発信を継続し、コロナ禍が落ち着いてからも円滑に交流できるよう準備しています。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・研修はオンラインと並行して必要に応じて対面式の研修にも参加しました。キャリアアップ研修を受講した職員から新しい情報も入り、SDGsを食育活動に取り入れ実践するなど成果も見られました。
・働きやすい職場環境の整備では、ICT化を進め書類の形態や記録の取り方などを検討し業務改善に努めました。しかし、育休中職員の代替え分の人数はいても職員の負担感があつたため、非常勤職員を雇い入れ行事や保育の取り組み方を見直すことで負担の軽減に努めました。職員の提案を取り入れ参画させ、自分たちで考えて実行するスタンスが身につくよう取り組みました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・安定運営のために、省エネ対策や経費削減に努めました。
・園児数による適正な職員配置を行いました。
・あらゆるリスクに備え安全安心に過ごせる環境を整備する一方で、非常食を無駄にしないよう給食に活用する等、同時に強いコスト意識を持って取り組みました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
エアコン取替工事	2,000	エアコン取替工事	1,980
排煙窓オペ取替工事	900		
購入等合計	2,900	購入等合計	1,980
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
前庭舗装改修工事	6,930	冷凍冷蔵庫	1,191
		排煙窓オペ取替工事	1,149
購入等合計	6,930	購入等合計	2,340
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
冷凍冷蔵庫	1,200	前庭舗装改修工事	4,037
大型遊具修繕	660	大型遊具修繕	781
購入等合計	1,860	購入等合計	4,818
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
シューズボックス	520	シューズボックス	451
購入等合計	520	購入等合計	451

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	72	72	73	73	74	74	74	75	75	74	74	74	884
女児	48	48	48	48	47	47	47	46	46	46	46	46	563
合計	120	120	121	121	121	121	121	121	121	120	120	120	1,447

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R02(2020)年度	17	20	20	21	23	24	125
R03(2021)年度	17	20	20	22	23	23	125
R04(2022)年度	15	20	20	19	23	23	120

令和4(2022)年度 事業報告 (保育所)

施設名 同援さくら保育園

定員 108 名

【事業実績】

施設利用率 99.5 % *施設入所支援目標利用率 100.0%

◆ 利用者支援サービスの充実

・子どもたちの「心に寄り添う」ことを大切にしながら、「思いっきり遊ぶ」を実現させ、安心感・信頼感を持ち、乳幼児期にふさわしい体験が得られるように努めました。
・今年度も災害・感染症の流行等の非常時に対応する為、事業継続計画(BCP)の見直しとともに、安全計画も作成し被害を最小限に抑えるように細心の注意を払う努力をしてきました。
・保護者の一日保育士体験は、半日各クラスで1名(一日2名)の参加として希望者のみ実施しました。また、保護者参加型の運動会は幼児クラスのみクラス別ですが小学校の校庭で行うことができました。乳児クラスの運動会は園庭で行い配信しました。発表会は2歳児から園内で行い保護者は2名参加でしたが、年長クラスのみ4名までの参加としました。
・乳幼児の交流も、新型コロナウイルス感染症の状況をみて徐々に拡大したことで、異年齢の自然な関わりが増えてきました。

◆ 地域社会への取組み

・地域に向けて一時保育・園庭開放・育児講座を計画しました。昨年よりは参加者が少しずつ増えてきました。
・保育所体験は入園見学を希望された方に声をかけ参加いただきました。育児不安やこれから出産される方には安心感とともに様々な情報を提供できました。
・中学生の職場体験が中止になったので、卒園児に声を掛け、夏休みや春休みの期間に半日職場体験を実施しました。1日1~2名でしたが、異年齢との関わりや、懐かしい保育士との関わりをとても喜んでいました。
・高齢者との交流は今年もできませんでしたが、保育園で行ったダンスや発表会のDVDを見てもらったり、餅つき会で鏡餅を作りお届けする等の繋がりを持ちました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・チューター制度・職員育成・キャリアパス体系を活用して職員間の繋がりを深め、若手職員の育成と定着につなげました。また、その情報をリーダー層が共有し更なる育成に繋げるようにしました。
・園内研修で不適切保育について取り上げ、その後もアンケートを基に話し合いを重ねながら、業務の標準化を図りました。
・保育の環境を整え、さらに動きやすく働きやすい環境に改善しました。
・オンラインでのキャリアアップ研修に多くの職員が参加することができました。
・新型コロナウイルス感染症が流行し特別休暇を取得する職員が多いため、リフレッシュ休暇の取得が困難になる職員がいる等、偏りが出てしまいました。
・正規職員の雇い入れができない中、休日保育は他施設に支援を要請できたことで、職員の負担を若干減らすことができました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・光熱費や食材費が高騰しましたが、豊島区の補助金を活用しその影響を抑えることができました。今後も水道光熱費・消耗品の節減・節約を心掛け、経費削減に努めます。
・働き方改革により「労働の質と量」の見直しを行うことで、効率的に働くことを模索する姿勢が職員に定着してきました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
全館床メンテナンス工事	5,346	給食配膳用ワゴン(×7)	751
		全館床板メンテナンス	4,873
購入等合計	5,346	購入等合計	5,624
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
トイレ修繕	1,150	トイレ修繕	1,150
購入等合計	1,150	購入等合計	1,150
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
空調設備更新工事	23,100	空調設備更新工事	22,770
購入等合計	23,100	購入等合計	22,770
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	51	51	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	622
女児	54	55	55	56	56	56	56	56	56	56	56	56	668
合計	105	106	107	108	108	108	108	108	108	108	108	108	1,290

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R02(2020)年度	12	19	19	20	20	21	111
R03(2021)年度	12	18	19	20	20	20	109
R04(2022)年度	12	18	19	20	20	19	108

令和4(2022)年度 事業報告(保育所)

施設名 同援はいじま保育園

定員 50 名

【事業実績】

施設利用率 117.5 % *施設入所支援目標利用率 116.0%

◆利用者支援サービスの充実

・新しく保育グループで掲げた「大切にしたい保育」についての学びを研修や会議で行い、利用者満足につながりました。
・感染症対策を行いながら全体的な計画をもとに本園の特徴的な取り組み(家庭的な保育、縦割り・個性を大切にする保育、様々な実体験を通した活動)を職員とともに深め、保護者からも共感の声を多く頂きました。
・子どもの主張に応答的に対応する個別保育を大切にしたいものの、環境づくりについては次年度に課題を残しました。
・BCPに沿った訓練を実施し非常災害に備え、感染症対策は適宜行い、流行を防ぎました。
・コロナ禍の中でも保護者の保育への参加を積極的に進め、満足の声を多く頂きました。

◆地域社会への取組み

・新設のホームページを活用し、広報活動や地域支援活動の幅を広げました。
・屋上を定期的に開放するまでに至らずその点は課題を残しましたが、一時保育・育児講座・相談事業も感染症対策を行いながらできるだけ途切れないように行い、地域への定着につながりました。
・感染症対策を行いながらボランティア・職場体験実習生の受け入れを柔軟に行い、保育拠点活動につなげ、卒園児ボランティアという新たな一歩も踏み出しました。
・災害時の一時滞在所として機能できるよう定期的に訓練を行いました。
・近隣保育園と連携し、地域に開かれた子育て支援につながりました。
・地域の中で自分たちの役割を考え、また子どもたちとも一緒に考えていくという点では、次年度に課題を残しました。

◆福祉人材の育成と職場環境の整備

・保育の質、専門性向上を強化するために、園内研修や園外研修の共有を積極的に図りました。
・実習生の確保が難しく、次年度に課題を残しました。
・個々の得意分野を活かしたり認め合うという事で組織力は上がってきたものの、それを維持していくことに課題がありました。それを定着させ職員の働き甲斐につなげていきます。
・新しく掲げた「人物像」「保育」の学びを深め、有資格であることに自覚を持った関わりができるように職員間で学び合いました。

◆財務基盤の強化へ向けた取組み

・適正な職員配置を心がけ、事業費、事務費を見直し、経費の削減や収入増につなげました。
・地域活動の活性化や、一時保育を可能な限り受けるようにし、園児の安定した入所や収入につなげました。
・職員一人ひとりが地球環境に配慮し、限りある資源を大切に使う意識を高めるよう努めました。
・保育の中で、廃材を利用したりリサイクル運動を取り入れるなど、利用者とともにSDGsの認識を高めました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
事務所洗面工事	500		
購入等合計	500	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
		事務所洗面工事	336
		非常用階段子供用手すり設置工事	735
購入等合計	0	購入等合計	1,071
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	33	33	33	33	33	33	33	33	34	34	34	34	400
女児	24	26	25	25	26	26	26	26	26	25	25	25	305
合計	57	59	58	58	59	59	59	59	60	59	59	59	705

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R02(2020)年度	—	10	11	11	11	13	56
R03(2021)年度	—	11	12	12	13	11	59
R04(2022)年度	—	11	12	12	11	13	59

令和4(2022)年度 事業報告(保育所)

施設名 同援いぐさ保育園

定員 60 名

【事業実績】

施設利用率 45.0 % *施設入所支援目標利用率 40.0%

◆利用者支援サービスの充実

・新規開設園として、地域へ向けて、保育所体験や育児講座の案内用の冊子を作成し、園を知ってもらう機会を作りました。SNSを使って様子を発信することは少ししかできませんでしたが、駅に近い立地のため新しい園が開設されたことはだいぶ周知されました。

・新園舎では季節毎の活動に合わせて使い方を工夫したり、職員間で確認をし不都合な点があれば速やかに改善しながら、安全安心な環境を整えるようにしました。園児数が少ないため、定員通りの園児数となった際のこともイメージして感染症対策・自然災害等の対応を検討しました。

・園児一人ひとりの気持ちを受け止めていくことを大切に、保育を進めてきました。特に子どものありのままの姿を受け止められるように、また大人の都合で子どもの活動を制限させないように、職員間で園児の姿や対応を共有し、保育のあり方を検討しました。人数が少ないからこそその保育の難しさもありましたが、子どもたちの声を受け止め、活動をさらに展開し実体験をさせてあげたいという思いから、職員が地域の方に働きかけて実現できたこともありました。引き続き、応答的な関わりを大切に進めていきます。

◆地域社会への取組み

・この地域の一員となれるよう、中核園との関わりを通じて小学校や他園との交流も行ってきました。特に園児数が少ないために就学に向けては保護者の不安もあるので、他園との交流で就学前からのつながりを持てるようにしました。

・感染症対策を行いながら保育所体験や育児講座等を実施しました。他園を招待することで交流を深めるとともに、地域の未就園児の入園や育児相談にもつなげました。

・中学生の職場体験を実施し、授業の一環で行われた報告会では参加した中学生が当園のPRしてくれました。

・散歩等で地域へ出かけていく中でつながりが生まれ、じゃがいも・さつまいも掘りを近隣で行うことができました。引き続き地域の中で実体験ができる機会を作っていきます。

◆福祉人材の育成と職場環境の整備

・「目指す保育・職員像」の実現に向けて、園内研修では「園として大切にしていきたいこと」を繰り返し話し合ってきました。また不適切保育や職員間のコミュニケーションについては、非常勤職員も交え意見交換や情報と意識の共有を図りました。

・新規開設のため職員が意見を出し合い確認しながら、保育や業務の流れをひとつひとつ作り上げてきました。また仕事の見える化を進め、業務効率化と職員間でフォローし合う関係づくりを心掛け、定時に帰れるよう努めました。

◆財務基盤の強化へ向けた取組み

・年度途中の入園もあり、開園時より園児が7名増えました。

・非常通報装置・物価高騰対策・コロナ対策等の補助金を有効に活用できました。

・新規開設のため、必要な物品はグループ内の他園の協力を仰ぎ譲ってもらう一方で、購入する際も必要性を見極めながら慎重に整備しました。また職員も節約や節電を心掛け、紙等の資源についてSDGsの観点で園児にも分かるように伝えていく機会も持ちました。

・保育システムを変更したことで印刷物の削減ができました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
		テーブル(×8)	559
		幼児特注6連ロッカー(×3)	510
購入等合計	0	購入等合計	1,069

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男児	12	12	12	13	15	15	15	15	15	15	15	15	169
女児	10	10	10	13	13	14	14	14	14	14	14	14	154
合計	22	22	22	26	28	29	29	29	29	29	29	29	323

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	年齢別内訳						合計
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
R02(2020)年度	—	—	—	—	—	—	—
R03(2021)年度	—	—	—	—	—	—	—
R04(2022)年度	—	12	10	3	3	1	29

2. 高齢者支援系施設の経営

救護施設、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、特別養護老人ホーム、その他事業(認知症対応型共同生活介護、通所介護、地域包括支援センター、居宅介護支援、小規模多機能型居宅介護施設、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、サービス付き高齢者向け住宅)を経営しました。

グループ総括

◆ 利用者支援サービスの充実

・利用者の人権に配慮しながら、その有する能力に応じた、自己決定に基づく日常生活を営むことができるように介護・支援しました。
・利用者の生活環境改善のため、物品の購入や修繕を行い快適な生活空間づくりに努めました。(特に新型コロナウイルス感染予防に関する物品の購入に注力しました。)
・クラスター発生時には、グループの協力体制のもと、職員の応援派遣を実施し、利用者サービスの維持、感染症の終息に努めました。
・リスクマネジメントの観点から利用者の安全・安心を守るためにも、防災マニュアル、災害時におけるBCP(事業継続計画)の随時見直しを行い防災訓練や地域防災に活かしました。(特に新型コロナウイルス感染症発生時の計画を構築しました。)

◆ 地域社会への取り組み

・各事業所が自治体や地域と協力しながら、介護が必要となっても地域で暮らし続けられるよう、介護・医療・福祉の連携を図りました。
・各地区において、社協等の関係機関と協力し地域貢献活動に参加しました。
・今年度も本会の児童女性グループの事業をサポートし、同援こども学習室「ラ・スク」の活動に協力しました。
・開かれた施設・事業所として地域住民との関わりを広げ、説明会等を実施するなど地域の方の安心につながるような拠点施設としての役割を果たすべく努めましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染状況により十分な取り組みが困難でした。次年度は新型コロナウイルス感染症の状況を確認しながら、地域社会への取り組みを実施します。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・新規職員確保のため、新型コロナウイルス感染症の予防に努めつつ、可能な限り実習生を受け入れました。施設・事業所見学についても積極的に受け入れ、丁寧に対応することで就職へつながるよう働きかけました。
・新型コロナウイルス感染症流行下においても「初任者研修」を実施しました。
・特定技能実習生を確保し、技能実習生の技能移転をすることができました。
・週1回のPCR検査、適宜の抗原検査、ワクチン接種を進め安心して働ける職場環境づくりに取り組みました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取り組み

・毎月のグループ会で随時財務状況を確認し、稼働率向上のために取り組みましたが、クラスターの発生やサービスの利用控えもあり、高齢系グループとして厳しい事業経営となりました。
・グループ全体で業務改善、作業の効率化等の生産性の向上につながるよう多角的に取り組む、安全・安心の運営及び健全経営を目指しました。
・プロジェクトチームにおいて万世敬老園の今後の方向性を検討しました。

1 救護施設

身体や精神に障害があり、経済的理由も含めて日常生活を送るのが困難な人たちが、健康に安心して生活できるよう、生活扶助、医療扶助を行いました。

2 養護老人ホーム

65歳以上であって、環境上の理由及び経済的理由により居宅において継続的な日常生活が困難な方を養護しました。

3 軽費老人ホーム

60歳以上で生活費に充てることのできる収入が定められた基準以下で、身寄りのない、あるいは家庭の事情によって家族との同居が困難な方に利用契約により無料又は低額な料金で、日常生活上必要な便宜を供与しました。

4 特別養護老人ホーム

65歳以上であって、心体上又は精神上著しい障害があるため常時介護を必要とし居宅において継続的な日常生活を営むのが困難な方を養護しました。

5 認知症対応型共同生活介護

65歳以上であって、認知症であるために日常生活を営むのに支障がある方に対して、共同生活する住居で入浴、排せつ、食事等の介護その他の日常生活上の援助を行いました。

6 老人デイサービスセンター

65歳以上であって、日常生活を営むのに支障がある方に、通所により入浴・食事の提供・機能訓練等各種のサービスを提供し、生活の助長、社会的孤立感の解消、心身機能の維持向上並びにご家族の身体的・精神的な負担の軽減を図りました。

7 地域包括支援センター

地元区市からの委託により、高齢者の方が住みなれた地域で安心して暮らせるように、介護、福祉、健康、医療など様々な面から総合的な支援を行いました。

8 居宅介護支援事業所

介護を必要とする方が、自宅で適切にサービスを利用できるように、ケアマネージャー(介護支援専門員)が心身の状況や生活環境、本人・家族の希望等に沿って、ケアプラン(居宅サービス計画)を作成したり、ケアプランに位置づけたサービスを提供する事業所等との連絡・調整などを行いました。その他の介護に関する専門的な相談に応じました。

9 小規模多機能型居宅介護事業

65歳以上で、身体上または精神上の障害があるために日常生活を営むのに支障がある方に対して、自宅において、またはこのサービスの拠点へ通い、もしくは短期間宿泊することにより、居宅介護及び機能訓練等を提供しました。

10 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

自宅で自立した日常生活を送ることができるよう、定期的な巡回や随時通報への対応など、心身の状況に応じて、24時間365日必要なサービスを必要なタイミングで柔軟に提供しました。サービスの提供にあたっては、訪問介護員だけでなく看護師などと連携しているため、介護と看護の一体的なサービスを提供しました。

11 サービス付き高齢者向け住宅

「高齢者住まい法(厚生労働省・国土交通省所管)」に基づく、高齢者にふさわしいバリアフリー構造等の住まいで、安心して暮らせる見守りサービス(安否確認、生活相談等)を備えた賃貸住宅として提供しました。

令和4(2022)年度 事業報告 (救護施設)

施設名 昭島荘

定員 100 名

【事業実績】

施設利用率	100.5 %	* 目標利用率 100.0%
男女比率	1:1	
平均年齢	67.1 歳	(最高 93 歳 / 最低 28 歳)
平均在所期間	12.5 年	(最長 62.8 年)
手帳保持者	110 名	(愛の手帳:15名、身障手帳:10名、精神障害保健福祉手帳:73名、重複:12名)
年間入所	8 名	
年間退所	7 名	
主な入所理由	在宅生活が困難になった方、退院後の在宅生活が難しい方	
主な退所理由	死亡、長期入院など	

◆ 利用者支援サービスの充実

・リニューアルした施設パンフレットを関係機関へ配布しました。また各病院との連携も効果的に働き入退所がスムーズになった結果、定員が充足する好結果となりました。
 ・個別支援計画の作成にあたり、利用者とのコミュニケーションに重きを置き、丁寧な計画づくりを行いました。
 ・8月と12月の新型コロナウイルス感染症のクラスターは、準備対策を上回る感染力でした。この経験を糧として、次に来る感染の波に対してより一層の準備で臨みます。

◆ 地域社会への取組み

・新型コロナウイルス感染症の影響で、他の事業所での実習が中止となった実習生を受け入れたことで、例年より多くの実習生が救護施設を体験していきました。制限していたクラブ活動も感染の縮小に伴い、徐々に再開し、外出範囲も少しずつ拡大するなど利用者のストレスが高まらないよう配慮しました。
 ・矯正研修所からの実習は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・法人研修に積極的に参加し、結果を持ち帰り実践で試すことができました。しかしながら研修報告会の開催が進まず、広く全体で共有できるまでには至りませんでした。外部研修は殆どがオンライン研修となりました。
 ・掲示板機能など園内の情報共有やコミュニケーションを円滑にするグループウェアサイボウズを有効活用することで、密なコミュニケーションが取れるようになったほか、スケジュール管理も共有することができました。IT化のきっかけとしては大きく前進しました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

退所者と同数以上の入所を確保できた結果年間平均施設利用率が100.5%となり、安定した収入の基盤とすることができました。また、複雑な生活保護基準について職員が情報を共有し確実に補助申請を行うとともに、コロナ対策を支援する補助金を活用することで、さらなる収入の確保ができました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
防犯カメラ設置工事	3,000	防犯カメラ設置工事	2,541
購入等合計	3,000	購入等合計	2,541
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
ホームページ更新	2,000	大型回転乾燥機	2,420
大型回転乾燥機	2,420	給食センター給湯器(按分)	880
購入等合計	4,420	購入等合計	3,300
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
車輛	3,650	車輛	3,454
防犯カメラ設置工事	850	防犯カメラ設置工事	850
購入等合計	4,500	購入等合計	4,304
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
居室空調交換工事	13,200	ホームページ更新	1,993
		居室空調交換工事	12,100
購入等合計	13,200	購入等合計	14,093

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	51	52	53	53	52	52	52	51	51	51	50	51	619
女性	49	49	49	49	49	49	48	49	49	49	49	49	587
合計	100	101	102	102	101	101	100	100	100	100	99	100	1,206

利用者状況推移(各年度3月31日現在)

	実人員	年齢別内訳							
		~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	50~
R02(2020)年度	100					1	3	3	93
R03(2021)年度	100			2			2	5	91
R04(2022)年度	102			2	1		2	3	94

令和4(2022)年度 事業報告 (養護老人ホーム)

施設名 万世敬老園

定員 180 名

【事業実績】

施設利用率	69.6 %	* 目標利用率 77.8%
男女比率	1:1	
平均年齢	82.2 歳	(最高 66 歳 / 最低 103 歳)
平均在所期間	8年5カ月	(最長 29 年)
年間入所	5 名	
年間退所	29 名	
主な入所理由	帰来先無し、措置替え、立ち退き、虐待	
主な退所理由	死亡、特養入所、長期入院	

◆ 利用者支援サービスの充実

・入退所については、措置入所者の減少は著しく、4年度の入所者数は5名、退所者数は29名でした。
 ・入所については昭島市をはじめ各自治体にも働きかけを行いました。要措置の連絡もない状況であり、退所についてはご逝去や長期入院、重介護者の特養等への移管によるものでした。
 ・入所率は69.6%となり低迷に歯止めをかけることは困難な状況でした。このような中で次年度より定員を120名に減らし、要介護の高い方は介護ニーズを充足できる場への移管を進め、本来の養護老人ホームとしてのニーズに応えられる施設を目指します。
 ・日々の支援においては園内活動やクラブ活動、地域とのつながりなどコロナ禍でもできることを再開し、心身の活性化につながる支援を行いました。

◆ 地域社会への取組み

例年行っている保育園の園児の見守りや、緊急の入所受け入れの他、高齢者福祉の専門機関として市主催の認知症啓蒙について市民向けの取組みに参画し、市民講座講師を受託しました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・人材育成においては可能な限り法人研修、外部研修に派遣(リモート参加)をし、個人のスキルアップと、組織力の向上に努めました。
 ・職場環境においては新型コロナウイルス感染症のクラスター感染が2回発生し、緊張感で張りつめた毎日や感染職員の欠員による業務の負担、疲労感やクラスター感染の怖さを知るに余りあるものでしたが、その中でも、感染対策マニュアルの改訂、東京都の補助金を利用した簡易陰圧ブースの購入等、着実に対策を講じることができました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・本年度も措置入所者の減少は著しく退所者の増加により目標稼働率を達成することはできませんでした。
 ・新型コロナウイルス感染症に関する補助金、物価高騰に対する支援金はありましたが、エネルギー費の高騰は予想以上であり、年度当初予算より5割以上高く施設運営に大きな影響がありました。
 ・日々節約に努め支出管理を行ってききましたが、措置者の大幅な減員はこれまでの積立金を持って補填せざるを得ない状況となりました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
		本館共用部エアコン圧縮機交換修理	660
		給食センター給湯器(按分)	813
購入等合計	0	購入等合計	1,473
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
折り畳み式陰圧ブース(×5)	13,200		
食堂用エアコン	869		
購入等合計	14,069	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
		折り畳み式陰圧ブース(×5)	11,880
		食堂用エアコン	825
購入等合計	0	購入等合計	12,705

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	68	67	68	67	66	66	65	63	62	62	62	58	774
女性	63	63	63	62	61	61	62	61	61	58	57	55	727
合計	131	130	131	129	127	127	127	124	123	120	119	113	1,501

利用者状況推移(各年度3月31日現在)

	実人員	年齢別内訳						
		～64	～69	～74	～79	～84	～89	90～
R02(2020)年度	153	1	5	18	37	43	26	23
R03(2021)年度	132		7	15	31	34	30	15
R04(2022)年度	108		3	13	25	27	24	16

令和4(2022)年度 事業報告 (軽費老人ホーム)

施設名 **サンホーム**

定員 **50** 名

【事業実績】

施設利用率	99.3 %	* 目標利用率 100.0%	
男女比率	1:2		
平均年齢	85.2 歳	(最高 96 歳 / 最低 72 歳)	
平均在所期間	6.8 年	(最長 27 年)	
年間入所	9 名		
年間退所	9 名		
主な入所理由	独居不安・住宅事情		
主な退所理由	長期入院・入院中逝去・他施設入居		

◆ 利用者支援サービスの充実

・年度当初は18名の介護認定、年度末には23名の介護認定を受けました。認知症症状のある方も複数名おり、要介護者への生活支援の頻度が増えています。
 ・平均年齢は4月1日の85.5歳から3月1日では85.2歳と大差なく、年間で9名の入退去がありました。入居時の高齢化が顕著でした。
 ・利用者満足に向け本年度も第三者評価を受審し、その結果をサービス内容の改善、次年度の事業計画に反映しました。

◆ 地域社会への取組み

・新型コロナウイルス感染症の影響から近隣施設との交流会は実施していません。しかしながら他事業所との連携については、昨年に引き続きオンライン会議等を活用し継続して行いました。
 ・地域貢献としては、受託事業である小平給食の提供は3年度より週5日となりましたが、人数の増減があり年度末では4名の契約者でした。年間で昨年比33食減の518食の配食を実施しました。サンホーム給食は今年度より週5日の提供となり、食数は前年度比296食増の1960食の提供となりました。地域のニーズに合わせ、今後の事業展開を図ります。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・人事考課・目標管理に基づき、職員一人ひとりの知識や経験を活かせる環境の創出として、施設内研修12回、法人含む施設外の研修16回(web含)に参加しました。
 ・コロナ禍において特に必要とされる感染症に関する研修(BCP作成、演習)等に積極的に参加しました。
 ・ワークライフバランスを奨励し、年次有給休暇75.7%、リフレッシュ休暇92.3%を取得しました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・年間を通して18名の入れ替わり(9名退去、9名入居)があり、コロナ禍における見学の減少なども重なり、稼働率に関しては100%の保持ができず、予算比でマイナスが発生しました。
 ・利用者の入院、退去に伴う生活費の返還があり、物価高騰による光熱水費、食材料費、燃料費の増価が経営を圧迫しました。
 ・新型コロナウイルス感染症によるサービス提供体制継続事業による補助金、物価高騰緊急対策支援金による経費の補填申請を行いました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
エアコン交換工事(×5)	575	エアコン交換工事(×1)	108
電気温水器交換(×4)	608	厨房地下ピット工事	675
厨房地下ピット工事	651	2層シンク入れ替え	220
2層シンク入れ替え	598		
購入等合計	2,432	購入等合計	1,003
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
プラスチックラー	1,386	プラスチックラー	963
		エアコン交換工事(×2)	216
		電気温水器交換(×2)	275
購入等合計	1,386	購入等合計	1,454
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
		エアコン交換工事(×2)	229
		電気温水器交換(×3)	439
購入等合計	0	購入等合計	668
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
エアコン交換工事(×5)	575	エアコン交換工事(×1)	115
電気温水器交換(×4)	608	電気温水器交換(×1)	147
		ティーディスペンサー	595
購入等合計	1,183	購入等合計	857

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	14	14	14	15	15	15	15	14	15	16	16	16	179
女性	35	35	35	34	35	35	35	36	35	34	34	34	417
合計	49	49	49	49	50	50	50	50	50	50	50	50	596

利用者状況推移(各年度3月31日現在)

	実人員	年齢別内訳						
		~64	~69	~74	~79	~84	~89	90~
R02(2020)年度	48			1	9	8	11	19
R03(2021)年度	49			1	11	10	12	15
R04(2022)年度	49			2	9	12	14	12

令和4(2022)年度 事業報告 (特別養護老人ホーム・短期入所)

施設名	フジホーム		
定員	100	名	
			短期入所専用 空床利用
			4 6
			名 名

【事業実績】

施設利用率	95.6	%	* 目標利用率 96.7%
特養	94.7	%	
短期入所	117.0	% (空床利用含む)	
男女比率	1:4		
平均年齢	85.5	歳	(最高 104 歳 / 最低 69 歳)
平均要介護度	4.2		
平均在所期間	3.3	年	(最長 14.3 年)
年間入所	31	名	
年間退所	27	名	
主な入所理由	在宅介護困難なため		
主な退所理由	死亡		

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・換気などの新しい生活様式を習慣としながら、利用者の自己決定や残存能力に基づいた介助を実践することで、生活を支援しました。
- ・リスクマネジメントの観点から、防災マニュアル及び感染症マニュアルの更新を行いました。また、災害時におけるBCP(事業継続計画)訓練も継続して実施しました。
- ・看取り委員会を中心に、各部署、各担当が適切な連携を実践し、尊厳を持った9名の看取り介護を実践しました。
- ・利用者が住みやすく、職員が働きやすい環境づくりのため、必要箇所の修繕を行いました。

◆ 地域社会への取組み

- ・短期入所生活介護や通所介護にて、病院や居宅支援事業所からの依頼に対し感染予防を徹底しながら柔軟に対応することで、多くの利用者が地域で暮らし続けられるよう支援しました。
- ・昭島病院総合支援センター、地域包括支援センターと連携し、短期入所生活介護事業が緊急時や在宅復帰までの調整のための受け入れ先として機能することで、地域に貢献しました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・今年度より導入したeラーニングの活用により、施設内研修ではオンラインを積極的に活用し、感染症予防やサービスの質の向上、何よりも離職防止に努めました。
- ・昨年度に引き続き技術移転を目的とする外国人技能実習生を受け入れ(2名)、実習を通じて現職員の質の向上や環境整備(働きやすい人間関係作り)に継続して取り組みました。
- ・感染症予防も含め、4S活動を日常的に意識できるよう取り組みました。
- ・感染予防を徹底しながら実習生を受け入れました。
- ・現行のICT機器以上に効果的なテクノロジーの選定や導入には至りませんでした。引き続き活用を検証します。
- ・事故防止の取組みでは、eラーニングを活用して意識の向上を図りました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・目標利用率96.7%に対し、実績は95.6% (特養:94.7%/短期入所:117.0%)でした。
- ・クラスター感染や大幅な光熱費の値上げもあり、厳しい施設経営となりました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
与薬カート	1,525	与薬カート	1,524
購入等合計	1,525	購入等合計	1,524
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
陰圧室式面会室	1,549		
購入等合計	1,549	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
		陰圧室式面会室	1,548
購入等合計	0	購入等合計	1,548

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数) * 特養

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	21	22	23	23	23	23	22	21	22	22	20	20	262
女性	73	76	77	77	75	75	75	77	76	75	73	79	908
合計	94	98	100	100	98	98	97	98	98	97	93	99	1,170

利用者状況推移

	要介護度別内訳							合計
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R02(2020)年度				1	12	49	37	99
			113	350	335	645	519	1,962
R03(2021)年度				3	13	51	29	96
			58	204	657	609	403	1,931
R04(2022)年度				3	10	53	33	99
			120	91	227	758	512	1,708

* 上段は特別養護老人ホーム入所人員数(各年度3月1日現在)、下段は短期入所生活介護年間延人員数

令和4(2022)年度 事業報告 (特別養護老人ホーム・短期入所)

施設名 **ニューフジホーム**

定員 **100** 名

短期入所専用
空床利用

4	名
6	

【事業実績】

施設利用率	92.7 %	* 目標利用率 95.1%
特養	91.5 %	
短期入所	123.0 % (空床利用含む)	
男女比率	1:8	
平均年齢	86.6 歳	(最高 103 歳 / 最低 60 歳)
平均要介護度	4.0	
平均在所期間	3.7 年	(最長 12.4 年)
年間入所	19 名	
年間退所	19 名	
主な入所理由	在宅での生活が困難なため	
主な退所理由	死亡	

◆ 利用者支援サービスの充実

利用者への“丁寧な寄り添う介護”の実現のため、個別ニーズに応じた支援に努めました。年々重度化していく利用者に対応し環境整備とともに褥瘡予防への取組みも行いましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症のクラスターを3度経験したこともあり、昨年より1名減少したものの入院者が1日当たり6.7名まで増加し依然として高い入院数となりました。長期化傾向も進み、稼働率にも大きな影響を及ぼしています。看取りでは、病院と連携しながら家族の協力のもと感染予防に留意し、利用者をお見送りすることができました。しかし体調を崩した後、長期入院し病院で亡くなる方、療養型病床に転院する方も多く、利用者・家族ともに臨む看取りに向けて、まだまだ課題が多いと感じています。また新型コロナウイルス感染症の流行により、外出、行事、フロア間の移動の中止、家族面会の制限等ご利用者の日々の生活に大きな変化を強いる事になりました。その中で職員で工夫し、フロア単位での行事の開催、フロア毎の作業療法など、今できることは何かを考えQOLの維持に努めました。利用者の感染予防のため、ワクチンパスを利用したの予防接種も施設にて実施しました。コロナ禍でも家族と言葉を交わす機会として、オンライン面会を推進、実施しました。

◆ 地域社会への取組み

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、ロコモティブクラブや、ボランティア活動が中止となりました。
- ・昭島病院と、入院後のショートステイの受け入れや施設入所の相談など緊密な連携に努めました。
- ・ホームページをこまめに更新し、地域への情報発信を行いました。
- ・家族へ毎月ニューフジホームだよりを送付し、情報提供に努めました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・人材活用として子育て世代の女性の雇用に努め、育休明けの職員をはじめ、みな出産・育児で離職することなく働き続ける事のできる環境整備に施設全体で取り組み、成果を上げています。
- ・職場のOJT体制を整備し、それぞれの個性や経験にあった育成期間を設定し、着実に育てていく体制を整えたことで、今年度の新規採用職員も順調に育成できました。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、職員が少しでも安心して働けるよう補助金を活用しながら感染予防を行い、6月・10月・12月と3度クラスターを経験しましたが、各々離職者なく収束しています。
- ・震災を想定したBCP訓練を実施し、災害に向けた体制強化に努めました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・人件費を抑制しながら、非常勤職員などスポットで補える職員を積極的に活用し、稼働率向上に努めました。3度のクラスターが稼働率に大きな影響を与えましたが、昨年より3.8%増の92.7%で終えることができ、収支は令和3年度に比べ大きく改善しました。
- ・ショートステイの空床利用に努め、1・2階とも積極的に受け入れました。ショートステイから特養への入所の流れも促進し、稼働率は昨年とほぼ同じ123%を維持することができました。
- ・消耗品・日用品は、必要性を随時見直ししながら購入方法を工夫することで経費の削減を図りました。また、節電・節水に努め使用量は減少しましたが、物価と光熱水費の高騰で費用は大幅に増加しました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
エレベーター修繕工事	4,009	エレベーター修繕工事	143
購入等合計	4,009	購入等合計	143
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
防犯カメラ	620	防犯カメラ	660
購入等合計	620	購入等合計	660
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数) * 特養

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	11	11	11	12	12	12	12	12	12	12	11	11	139
女性	85	87	86	88	87	86	87	87	88	87	85	84	1,037
合計	96	98	97	100	99	98	99	99	100	99	96	95	1,176

利用者状況推移

	要介護度別内訳							合計
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R02(2020)年度			1	6	12	37	33	89
			99	152	295	560	250	1,356
R03(2021)年度			2	3	13	46	30	94
			192	154	625	580	280	1,831
R04(2022)年度			2	2	20	43	28	95
			176	130	624	606	260	1,796

* 上段は特別養護老人ホーム入所人員数(各年度3月1日現在)、下段は短期入所生活介護年間延人員数

令和4(2022)年度 事業報告 (特別養護老人ホーム・短期入所)

施設名	原町ホーム		
定員	50	名	
			短期入所専用
			空床利用
			2
			4
			名

【事業実績】

施設利用率	98.9	%	* 目標利用率 99.3%
特養	96.6	%	
短期入所	155.6	% (空床利用含む)	
男女比率	1:5.5		
平均年齢	89.8	歳	(最高 101 歳 / 最低 71 歳)
平均要介護度	4.2		
平均在所期間	3.3	年	(最長 10 年)
年間入所	12	名	
年間退所	18	名	
主な入所理由	自宅での生活が困難になったため		
主な退所理由	逝去		

◆ 利用者支援サービスの充実

・「やさしさを起点とした介護」を実践し、個々の利用者の状態に応じて自立への意欲を引き出し、ケアプランに反映させることでその人らしい生活を支援しました。
 ・認知症緩和療法(ハプティックセラピー)を通して、癒しのひと時を感じていただける生活を提供しました。特に看取り期の利用者への支援として、最期の時まで心地よく過ごせるよう努めました。
 ・新型コロナウイルス感染症対策により、施設内行事等は縮小や中止することが多かったものの、できる環境で最大限楽しんでいただけるよう努めました。

◆ 地域社会への取組み

・新宿区高齢者支援課や地域包括、居宅介護支援事業所等と連携し、地域ニーズに対応し困難事例・緊急短期入所等に努めました。
 ・福祉避難所協定施設として、地域住民や近隣町会といった地域との連絡会に参加する等、連携を図りました。
 ・新宿区社会福祉施設連絡会によるフードパントリー等、地域の活動に参加しました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・コンプライアンスを核とした運営、利用者サービスの向上を目指し、各種研修、OJTを通して人材育成を行いました。
 ・特定技能実習生を採用しチームの一員として、孤独感・不安感を抱かないようOJTを中心に配慮しました。
 ・感染症予防に対する環境整備として、消毒剤や不織布マスク、グローブ等の必要な衛生物品の確保と職員の動線に配慮した消毒剤の設置等を行いました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・安定した稼働を維持できるよう、各セクションの連携強化と栄養ケアの向上等を図りました。
 ・クラスター感染による稼働率の低下、光熱水費等の上昇により厳しい施設経営となりました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
浴室配管工事	1,958		
Wi-Fi設置	1,587		
購入等合計	3,545	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
		浴室配管工事	1,870
購入等合計	0	購入等合計	1,870
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
空調設備更新工事	8,250	自家発電機設備改修	506
購入等合計	8,250	購入等合計	506
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
		給湯器	1,375
購入等合計	0	購入等合計	1,375

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数) * 特養

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	8	8	8	8	8	8	7	8	8	8	7	7	93
女性	43	43	44	42	42	43	43	41	41	37	38	38	495
合計	51	51	52	50	50	51	50	49	49	45	45	45	588

利用者状況推移

	要介護度別内訳							合計
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R02(2020)年度					2	28	18	48
	4			20	367	415	321	1,127
R03(2021)年度					4	29	17	50
			30	66	388	328	208	1,020
R04(2022)年度					4	26	15	45
			99	37	331	192	477	1,136

* 上段は特別養護老人ホーム入所人員数(各年度3月1日現在)、下段は短期入所生活介護年間延人員数

令和4(2022)年度 事業報告 (特別養護老人ホーム・短期入所)

施設名	ゆたか苑		
定員	50	名	
			短期入所専用
			空床利用
			4
			4
			名

【事業実績】

施設利用率	95.3	%	* 目標利用率 96.0%
特養	96.6	%	
短期入所	80.1	% (空床利用含む)	
男女比率	1:7.3		
平均年齢	89.0	歳	(最高 104 歳 / 最低 64 歳)
平均要介護度	4.2		
平均在所期間	2.8	年	(最長 14.8 年)
年間入所	14	名	
年間退所	12	名	
主な入所理由	在宅での介護困難、虐待等(措置入所)		
主な退所理由	死去、長期入院等		

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・「不適切ケア」のチェックにて虐待防止、接遇向上の取組みの継続、質の高いサービスの維持に努めました。
- ・安全対策担当者を中心に報告されたヒヤリハットの分析・再発防止・環境改善に努めました。
- ・屋上補給水槽交換工事等、計画的な施設整備を進め、発災時も利用者の生活環境が保持できるように努めました。
- ・感染症予防の観点によりボランティアの受け入れを見合わせ、面会は家族の協力のもとオンライン面会に移行したことで、利用者の新型コロナウイルス感染症罹患者は一人も発生しませんでした。
- ・医療ニーズの高い利用者の対応強化として人工透析、パルーンカテーテルの利用者を受け入れました。

◆ 地域社会への取組み

- ・地域交流事業(体操・栄養教室)を計画しましたが、残念ながら今年度も感染症流行により開催は見合わせました。
- ・近隣施設、町会との防災応援協定に基づき、感染症予防に留意しながら炊き出し訓練やAED操作訓練等を実施し「顔の見える関係性」の構築に努めました。
- ・地域住民対象のランチ交流会及び車いす貸与や会議室の貸出は感染症流行により中止としました。
- ・施設設備の有効活用として東京都モデル事業『豊島区短期集中予防サービス強化支援事業』に会場提供を行い、感染症流行期だからこそ必要とされるサービスに対し、社会福祉法人としての使命を果たしました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・職員の介護技術向上を目標に昨年度に引き続き、感染症予防の観点からオンライン研修を中心に実施しました。また、受験資格保持者への国家試験受験を促し、自治体の資格取得支援事業を活用する等して、介護支援専門員に1名、介護福祉士に4名が合格しました。
- ・職員がやりがいと希望を持ち続けられるよう本人との面談を通じて個別育成計画を策定し、計画的な研修参加を促すことでスキルアップや人材育成に努めました。今後も働きやすい職場環境の醸成に努めます。
- ・今後の社会福祉を取り巻く環境を見極め、感染症予防に努めながら社会福祉実習生の受け入れや外国人材の育成を積極的に進めました。今年度も実習生に自法人の魅力伝えることで新規採用活動への一助としました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・老朽化した施設設備改修は費用対効果を見据え、計画的に進めました。今年度は屋上補給水槽交換工事を行いました。突発的な修繕事案も多く、次年度に控える借地権更新契約を含め、施設整備計画の再構築を図ります。
- ・事務費、事業費削減に向けて水道光熱費のコスト意識や消耗品の選定を図るなどコスト削減に努めました。物価高騰によりコストダウンは図れませんでした。水道光熱使用量前年比減と職員個々のコスト意識は高まりました。
- ・介護保険新規加算において情報収集や体制整備に努め、加算取得に向けた準備を行いました。今年度6月「科学的介護推進体制加算」、12月「個別機能訓練加算Ⅱ」ならびに「ADL維持加算」の算定を開始しました。
- ・今年度も目標稼働率達成に向け「速やかな入所」に努めましたが、短期入所利用者の長期入院や他施設入所も重なり、短期入所稼働率は低迷、目標稼働率には至りませんでした。次年度も特養、短期の情報共有を図り、ベッドコントロールによる安定稼働を目指して取り組みます。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
屋上補給水槽交換工事	2,945		
購入等合計	2,945	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
		屋上補給水槽交換工事	2,942
購入等合計	0	購入等合計	2,942

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数) * 特養

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	69
女性	43	44	44	42	40	44	43	44	43	43	43	43	516
合計	48	50	50	48	46	50	49	50	49	49	48	48	585

利用者状況推移

	要介護度別内訳							合計
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R02(2020)年度					13	13	22	48
	5		112	129	898	469	140	1,753
R03(2021)年度					12	19	17	48
		101	81	219	583	363	214	1,561
R04(2022)年度					8	23	17	48
			84	222	319	382	187	1,194

* 上段は特別養護老人ホーム入所人員数(各年度3月1日現在)、下段は短期入所生活介護年間延人員数

令和4(2022)年度 事業報告 (特別養護老人ホーム・短期入所)

施設名	ひかり苑		
定員	50	名	
			短期入所専用
			空床利用
			4
			5
			名

【事業実績】

施設利用率	98.8	%	* 目標利用率 99.0%
特養	95.2	%	
短期入所	144.2	% (空床利用含む)	
男女比率	1:3		
平均年齢	86.7	歳	(最高 99 歳 / 最低 52 歳)
平均要介護度	3.8		
平均在所期間	3.4	年	(最長 16 年)
年間入所	17	名	
年間退所	16	名	
主な入所理由	在宅生活困難なため、老健・グループホームや病院、自宅からの入所		
主な退所理由	死亡退所		

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・常に法人の理念と方針、高齢者支援系グループ方針を念頭に置いて遵守し、業務を遂行しました。
- ・利用者の人権を尊重し、自己決定に基づくケアプランを立案し自立した日常生活を送ることができるよう支援しました。
- ・「親切」「丁寧」「誠実」をモットーに、個別サービスを心がけ、安全で安心な「持ち上げない介護」を実践しました。言葉遣いや個別サービスの展開など課題は残っています。
- ・厨房機器の更新や地下ピット工事等、計画的に施設整備を行いました。利用者に快適な住環境の提供とインカムとタブレット、見守り機器を使用したICTの活用を推進しています。全体的な建物老朽化への対策・空調設備の更新は引き続き慎重に検討します。
- ・感染症への対策を含めたBCPを見直し、新型コロナウイルス感染症対策も継続しながら安全と安心の確保に努めました。

◆ 地域社会への取組み

- ・感染症の影響はありましたが東村山市富士見町福祉施設連絡会と連携し、デイサービスと協力しながら地域の防犯・防災に向けた「富士見町あいさつ運動」を継続しました。
- ・東村山市福祉避難所連絡会に参加し、東村山市と連携を続け福祉避難所としての役割を具体的に果たせるよう取り組みました。
- ・地域包括ケアシステムの構築と定着へ向けて、連絡会等を通して我々の役割を果たすことにより、地域に必要とされるサービスの一員として取り組み、緊急一時保護(1名)の受け入れを実施しました。
- ・地域包括支援センターや居宅介護支援事業所と連携し、緊急性や必要性の高い短期入所を受け入れました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・職員が安心して働ける職場環境づくりに取り組み、課題はあるものの職員の離職防止と定着に繋がりました。
- ・職場体験の希望については感染症対策によりやむなくお断りしましたが、介護実習は受け入れました。
- ・法人内外の研修についてはオンライン等を活用しながら計画的に参加することにより、サービスの質の向上と職員のスキルアップを行い、福祉人材の育成に努めました。情報共有ツール(WowTalk)の導入、人事考課面接(期初・期末)等を実施し、コミュニケーションを深めました。
- ・4S活動と災害防止については主に職員会議で周知し、取り組みました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・費用の削減と収益の増に努め、収入が費用を上回る結果となりました。
- ・光熱費や物価高の影響もあり資金積立を行うことができませんでしたが、経営基盤の安定と事業継続のため少額でも施設整備等積立金の積み立てを今後行えるように努めます。
- ・健全な経営を行うための正規職員と契約職員、パート職員の適切な配置に努め、一定の効果を得ることができました。
- ・稼働率向上のため、入院者の減少や新規入所者の入所までの期間の短縮、空床のショートステイ利用等に取り組み、昨年比1.3%アップ(特養・SS合算値)しましたが、惜しくも年間目標稼働率(99%)を達成することができませんでした。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
厨房地下ピット工事	863	厨房地下ピット工事	674
購入等合計	863	購入等合計	674
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
プラスチックラー	1,386	プラスチックラー	962
購入等合計	1,386	購入等合計	962
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
居室リフォーム	2,035	食堂エアコン	1,299
購入等合計	2,035	購入等合計	1,299
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数) * 特養

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	11	11	12	11	12	12	12	12	12	11	10	11	137
女性	36	38	38	38	37	37	38	38	37	37	38	36	448
合計	47	49	50	49	49	49	50	50	49	48	48	47	585

利用者状況推移

	要介護度別内訳							合計
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R02(2020)年度			3	2	10	15	18	48
R03(2021)年度		7	169	541	851	504	124	2,196
R04(2022)年度		8	196	515	641	479	56	1,895
			1	1	15	22	8	47
			306	219	1,152	131	298	2,106

* 上段は特別養護老人ホーム入所人員数(各年度3月1日現在)、下段は短期入所生活介護年間延人員数

令和4(2022)年度 事業報告 (認知症対応型老人共同生活援助事業)

施設名 **グループホームかえで**

定員 **18** 名

【事業実績】

施設利用率	95.5 %	* 目標利用率 97.0%
男女比率	1:2	
平均年齢	87.7 歳	(最高 96 歳 / 最低 78 歳)
平均在所期間	4.9 年	(最長 11.2 年)
年間入所	0 名	
年間退所	3 名	
主な入所理由	在宅生活継続が困難であるため	
主な退所理由	医療ニーズの増加等	

◆ 利用者支援サービスの充実

・利用者の自立した生活を支えるために、グループホームの目的である家事活動をはじめ散歩などを積極的に取り入れた支援を行いました。
 ・コロナ禍において、家族等の面会制限を設ける中、電話やメール、また定期的に手紙を発送し利用者の生活の様子をお伝えすることを継続しました。
 ・福祉サービス第三者評価受審を通してサービスの質の向上を図りました。
 ・新型コロナウイルス感染症における対策を励行、また昭島病院訪問診療、昭島病院訪問看護ステーションや訪問歯科医院と連携しながら利用者の健康維持を支援しました。
 ・運営推進会議について新型コロナウイルス感染症対策のため、資料提供を行っていましたが、年度末には対面での会議を再開することができました。

◆ 地域社会への取組み

・地域住民向けのさくらカフェは新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から開催を自粛しました。
 ・感染症対策を講じながら、地域社会への参画に向けボランティアセンターや昭島市内の関係機関との繋がりを継続し情報共有を行いました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・eラーニングなどを積極的に取り入れながら、職員のスキルアップに取り組みました。
 ・状況に応じてその都度業務の改善や効率化に取り組みました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・収入と支出のバランスのとれた経営基盤をつくるため経費削減に努めると同時に、利用者の日々の健康管理による入院数減にも取り組みました。
 ・施設利用率については、利用者の重度化と職員の退職が重なり目標値を達成することができませんでした。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間延人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	180	186	210	186	186	180	186	180	178	125	130	111	2,038
女性	360	372	322	361	367	360	365	308	372	372	336	339	4,234
合計	540	558	532	547	553	540	551	488	550	497	466	450	6,272

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	要介護度別内訳							合計
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R02(2020)年度			3	8	5	1	1	18
R03(2021)年度			2	7	6	2	1	18
R04(2022)年度			1	4	8	2	1	16

令和4(2022)年度 事業報告 (認知症対応型老人共同生活援助事業)

施設名 原町グループホーム

定員 18 名

【事業実績】

施設利用率	87.8 %	* 目標利用率 98.0%
男女比率	1:9	
平均年齢	88.4 歳	(最高 99 歳 / 最低 78 歳)
平均在所期間	3.7 年	(最長 9 年)
年間入所	3 名	
年間退所	2 名	
主な入所理由	在宅生活が困難になったため	
主な退所理由	逝去のため	

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・利用者一人ひとりの有する能力を把握し、できることはご自身で行なっていただけるよう、自立支援に繋がるケアを行いました。
- ・様々な行事や日々の活動を通して、活動量を増やし、活気ある毎日が送れるよう支援しました。
- ・認知症の方でも安心して生活できるよう、研修の充実や見守りセンサーの活用で環境整備を行いました。

◆ 地域社会への取組み

- ・運営推進会議は年6回オンラインと対面形式で開催し、情報共有と地域ニーズの把握に努めました。
- ・地域の企業との協賛で交流事業を再開し、事業所と地域住民との交流に努めました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・特定技能実習生を採用しチームの一員として、孤独感・不安感を抱かないようOJTを中心に配慮しました。
- ・新しい介護ソフトを導入し、記録の効率化に着手しました。
- ・職員間でのコミュニケーションを密に取り、チームでケアを行いました。

◆ 財務基盤の強化に向けた取組み

- ・入院者・退所者へ速やかに対応できず、目標稼働率を達成することができませんでした。
- ・業務改善に取り組み働きやすい職場環境、生産性の向上に努めました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
4F浴室換気扇工事	627		
購入等合計	627	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間延人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	60	62	60	62	62	62	62	60	62	62	56	62	732
女性	403	429	393	455	470	364	382	390	440	434	420	456	5,036
合計	463	491	453	517	532	426	444	450	502	496	476	518	5,768

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	要介護度別内訳							合計
	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	
R02(2020)年度			2	10	2	3	1	18
R03(2021)年度			2	7	2	4	2	17
R04(2022)年度			1	7	6	3	1	18

令和4(2022)年度 事業報告 (老人デイサービスセンター)

施設名	フジ・デイサービスセンター
定員	25 名(1日あたりの定員)

【事業実績】

施設利用率	51.1 %	* 目標利用率 70.0%
男女比率	1:2	
平均年齢	83.9 歳	(最高 98 歳 / 最低 60 歳)

◆ 利用者支援サービスの充実

・前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症予防を徹底しながら事業所の運営に努めました。基本的な感染症対策を継続した結果、事業所からクラスターを発生させることなく営業を継続することができました。

・居宅介護支援事業所からの助言を参考にしながら、利用者満足を最優先にサービスの改善に努めました。

・年度開始直後に特殊浴槽を導入し、利用者ニーズに応えました。

◆ 地域社会への取組み

新型コロナウイルス感染症の市中感染の拡大の影響により、地域社会との直接の交流の機会は持てませんでしたが、昭島市地域福祉ネットワークの通所部会で開催されるオンラインを用いての会合に参加することで、他事業所との意見交換を通して、住民の方々の抱える課題やニーズに触れる機会を持つように努めました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・効率的な人員配置と事業運営のバランスを図りながら、職場環境を改善しました。

・eラーニングを導入し、研修に参加できない職員にも機会の提供を図りましたが、業務中での受講が困難でした。

・4S活動は定着化し、意識的に業務の効率化やバランスの取れた働き方を実践できました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・各事業所回りやHPを活用したりと広報活動に力を入れましたが、利用者数の増加にはつながりませんでした。

・特殊浴槽や軽体操などのサービス改善に努めましたが、結果的に利用者数の向上に結び付けられませんでした。平均利用人数は、12.4人/日でした。

・積極的な省エネ活動をし、使用量を抑えることができましたが、それを上回る値上げとなりました。

・新規加算は、介護福祉士の合格者の輩出にて令和5年度より取得が可能となりました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
特浴設置工事	2,360	特浴設置工事	2,360
購入等合計	2,360	購入等合計	2,360
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間延人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	111	113	81	86	85	113	119	128	108	109	86	108	1,247
女性	233	229	235	218	225	237	237	230	207	208	205	227	2,691
合計	344	342	316	304	310	350	356	358	315	317	291	335	3,938

利用者状況推移(各年度年間延人員数)

	サービス提供状況	要介護度別内訳							合計
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
R02(2020)年度	介護	86	259	1,309	1,417	1,545	423	727	5,766
	送迎	172	518	2,618	2,834	3,090	846	1,454	11,532
	食事	86	259	1,309	1,417	1,545	423	727	5,766
	入浴		151	537	698	904	284	418	2,992
	機能訓練								0
R03(2021)年度	介護	54	267	1,159	1,273	895	465	487	4,600
	送迎	106	534	2,318	2,536	1,790	940	974	9,198
	食事	54	267	1,159	1,273	895	465	487	4,600
	入浴		147	531	630	453	384	293	2,438
	機能訓練								0
R04(2022)年度	介護	37	167	1,201	1,038	410	401	684	3,938
	送迎	74	312	2,402	2,066	850	802	1,368	7,874
	食事	37	156	1,201	1,033	425	401	684	3,937
	入浴		75	730	479	247	283	399	2,213
	機能訓練								0

* 送迎、食事、入浴、機能訓練の人員数は介護と重複する / 入浴の人員数は一般浴と機械浴の合計

令和4(2022)年度 事業報告（認知症対応型高齢者デイサービスセンター）

施設名 東大和市ふれあいデイセンターひかり苑

定員 12 名(1日あたりの定員)

【事業実績】

施設利用率	49.5	%	*目標利用率 65.0%
男女比率	1:2.6		
平均年齢	84.2	歳	(最高 94 歳 / 最低 72 歳)

◆ 利用者支援サービスの充実

・法人理念と高齢者支援系グループ方針を常に念頭におき業務遂行に努めましたが、稼働率は49.5%に留まりました。
・「個別ケア」を重点項目に掲げ、アセスメントに基づいた通所介護計画書や個別機能訓練計画書を作成し、自立した在宅生活が継続できるよう支援しました。ブネメソッドやハプティックセラピー等を通し認知症状の緩和ケアを行いました。
・利用者がデイセンターで快適に過ごせる環境を整えるため、故障箇所は速やかに修繕し常に快適な環境となるよう努めました。また、年間を通して週1回職員にPCR検査と抗原検査を実施し、感染症対策の徹底を図りました。
・特養と連携しながら、防災や緊急時・感染症マニュアルを整備・活用しました。

◆ 地域社会への取組み

・東村山市富士見町福祉施設連絡会や富士見町あいさつ運動推進委員会等にオンラインも含め参加し、あいさつ運動ののぼりの掲示を続け地域に貢献しました。
・東村山市通所サービス事業者連絡会に役員として参加し、情報の共有等を行いました。ボランティアについては、久しぶりに書道・手品を実施し皆様に喜ばれました。
・地域密着型認知症対応型デイサービスとしての役割を自覚し、地域の関係機関とのネットワークの活用等を図りましたが、デイセンターの行事への参加案内や施設南庭の活用は感染症対策のため実施できませんでした。
・3月末には東村山市作品展に出展、外出行事として見学会を実施できました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・多くはありませんが職場内外の研修や会議などを通してサービスの向上やスキルアップに努めました。
・デイ会議やミーティング等職員間のコミュニケーションを積極的に図れる場を設け、職員が心身ともに健康で安心して働ける職場環境づくりを心がけました。年間を通して職員の体制は安定し、馴染みのメンバーで施設を運営することができました。
・感染症対策を実施しながら実習生の受け入れを再開することができました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・積極的に居宅介護支援事業所を回り、新規利用者の獲得のために営業活動を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響も大きく目標に掲げた稼働率(65%)及び前年度稼働率(56.1%)も割り込み、達成することができず、年間の増減差額も大きなマイナスが続いています。
・業務改善に取り組み入浴を含めた臨時利用の声掛けを強化しましたが反応が乏しく、今後はケアマネジャーや地域包括支援センターとの関係強化を重点的に進めます。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間延人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	76	83	76	80	57	59	57	50	58	55	56	65	772
女性	82	81	90	103	97	81	88	83	97	71	80	97	1,050
合計	158	164	166	183	154	140	145	133	155	126	136	162	1,822

利用者状況推移(各年度年間延人員数)

	サービス提供状況	要介護度別内訳							合計
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
R02(2020)年度	介護	7	104	573	502	435	238	136	1,995
	送迎	14	208	1,146	1,004	870	476	272	3,990
	食事	7	104	573	502	435	238	136	1,995
	入浴		104	230	235	220	196	136	1,121
	機能訓練	7	52	380	385	370	281	90	1,565
R03(2021)年度	介護		103	566	193	750	377	59	2,048
	送迎		206	1,131	386	1,477	754	115	4,069
	食事		103	566	193	748	377	59	2,046
	入浴		103	322	120	521	60	54	1,180
	機能訓練		45	320	119	340	132	28	984
R04(2022)年度	介護		106	364	536	494	283	39	1,822
	送迎		214	808	910	936	680	90	3,638
	食事		107	404	456	468	342	45	1,822
	入浴		107	127	386	192	258	31	1,101
	機能訓練		47	188	255	238	165	24	917

* 送迎、食事、入浴、機能訓練の人員数は介護と重複する / 入浴の人員数は一般浴と機械浴の合計

令和4(2022)年度 事業報告 (地域包括支援センター)

施設名 新宿区榎町高齢者総合相談センター

【事業実績】

	本人	家族等	関係機関	その他	合計
相談件数	2,142	1,885	2,986	124	7,137

◆ 利用者支援サービスの充実

・コロナ禍にあっても認知症事業等を可能な限り継続することで、利用者への早期支援の体制を維持しました。
・新型コロナウイルス感染症に罹患した利用者への安否確認や、買い物・病院の受診予約の代行などの支援のほか、同居する家族が罹患した方にショートステイの受け入れ先を手配するなど、コロナ禍でも継続して利用者支援サービスの充実に努めました。

◆ 地域社会への取組み

・地域の町内会と交流会を開催し、地域包括支援センターの役割と介護保険の概要についての説明を行いました。
・社会福祉協議会の地域見守り協力員情報交換会にて、「新たな日常での高齢者・地域の現状、見守るポイント」と題してオンラインでの講話を行いました。
・介護者教室において、「コロナ禍でもできる介護予防体操」を開催し、好評を得ました。
・笹笥町・榎町地域ケアマネージャー自主学習会の運営に協力することを通じて、ケアマネ支援を行いました。
・認知症サポーター養成講座を地域の図書館や病院で開催しました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・オンラインによる研修を積極的に行うための設備を充実させました。
・社会福祉士、看護師の実習について、感染対策を取った上で、積極的に受け入れを行いました。

◆ 財務基盤の強化に向けた取組み

経営状況に合わせた予算執行を行いました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

利用者状況推移(各年度年間延件数)

	相談件数				介護予防プラン作成		
	施設	在宅サービス	介護予防	その他	新予防給付		地域支援事業
					要支援1	要支援2	
R02(2020)年度	193	3,889	25	1,098	1,614	1,579	297
R03(2021)年度	239	5,289	52	1,069	1,617	1,666	253
R04(2022)年度	178	4,838	75	899	1,461	1,583	210

令和4(2022)年度 事業報告 (地域包括支援センター)

施設名 昭島市中部地域包括支援センターあいぽっく

【事業実績】

	本人	家族等	関係機関	その他	合計
相談件数	2,586	1,298	3,065	0	6,949

◆ 利用者支援サービスの充実

・新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、生活機能低下を予防して要介護の状態にならないように、自立支援の視点を大切に介護予防のケアマネジメントを行いました。
・第8期昭島市介護保険事業計画に沿って昭島市や各包括支援センターと協同し、地域包括ケアシステムの推進に向けて、医療・介護・予防・生活支援・住まい等の関係者と顔の見える関係づくりに努めて、支援を行いました。

◆ 地域社会への取組み

高齢者を取り巻く活動について、地域包括支援センターの役割として市民に向けた情報提供を下記のように積極的に努めました。
・地域ケア会議において、地域包括3職種(社会福祉士・主任ケアマネジャー・保健師)、地域関係者、介護事業者等が連携して、ネットワークの構築や地域課題の抽出、個別課題の解決等にチームアプローチで取り組み、市全体に共通する課題の解決策を検討して、地域ケア幹事会や地域ケア推進会議へ挙げました。
・昭島市の見守りネットワークの中心機関として、医療機関やインフォーマルサービス等も含めた、地域のネットワークとの連携に取り組みました。
・昭島市認知症月間の様々な取組みにて、地域、企業等への認知症サポーター養成講座などを通じて、地域包括支援センターの業務内容を理解してもらい、気軽に相談しやすい地域包括支援センターの運営に努めました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・包括的・継続的ケアマネジメントに努め、困難事例を抱えているケアマネジャーの支援、長期継続的なケアマネジメントの後方支援等を行いました。
・高齢者が地域で自分らしい生活を安心して行えるよう、地域のケアマネジャーや他職種と連携を深めました。
・大学から実習生を受け入れ指導しました。

◆ 財務基盤の強化に向けた取組み

サービスとコストを両立していけるようバランス意識を持った経営を心がけました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

利用者状況推移(各年度年間延件数)

	相談件数				介護予防プラン作成		
	施設	在宅サービス	介護予防	その他	新予防給付		地域支援事業
					要支援1	要支援2	
R02(2020)年度	73	2,033	1,982	572	408	984	518
R03(2021)年度	55	2,188	2,003	567	540	1,187	549
R04(2022)年度	54	3,076	2,094	640	543	1,026	768

令和4(2022)年度 事業報告（小規模多機能型居宅介護事業）

施設名 原町小規模多機能居宅介護センター

登録定員 25 名

通いサービス 15 名
宿泊サービス 5 名

【事業実績】

施設利用率	83.7 %	* 目標利用率 92.0%
男女比率	1:4.5	
平均要介護度	2.2	

◆ 利用者支援サービスの充実

・利用者一人ひとりの生活スタイルを尊重し、可能な限りご自宅・地域で暮らせるよう多機能型のサービスを最大限活用し在宅生活を支援しました。
・新型コロナウイルス感染症の予防に努め、年間を通じサービスを提供しました。

◆ 地域社会への取組み

・オンラインを活用し関係機関との繋がりを継続しました。
・運営推進会議は年6回オンラインと対面形式で開催し、情報共有と地域ニーズの把握に努めました。
・地域の企業との協賛で交流事業を再開し、事業所と地域住民との交流に努めました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・オンライン研修をメインに人材の育成に努めました。
・新しい介護ソフトを導入し、記録の効率化に着手しました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

登録者確保のため随時区内の地域包括支援センター等との連携に努めましたが、十分な成果が得られず目標稼働率の達成には至りませんでした。また平均要介護度の低下もあり厳しい経営状況となりました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間登録者数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	3	4	4	4	3	3	2	2	2	3	2	4	36
女性	17	16	16	17	18	18	18	18	18	20	20	19	215
合計	20	20	20	21	21	21	20	20	20	23	22	23	251

利用者状況推移(各年度年間延人員数)

	サービス提供状況	要介護度別内訳							合計
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
R02(2020)年度	通い			807	701	848	544	728	3,628
	宿泊			71	110	506	286	253	1,226
	訪問		105	1,839	1,655	471	20	364	4,454
R03(2021)年度	通い			614	761	959	513	740	3,587
	宿泊			18	148	568	183	282	1,199
	訪問		98	1,468	943	534	143	400	3,586
R04(2022)年度	通い			667	706	844	502	272	2,991
	宿泊			35	99	284	121	81	620
	訪問		55	2,037	431	1,112	112	239	3,986

令和4(2022)年度 事業報告（小規模多機能型居宅介護事業）

施設名 昭和郷小規模多機能居宅介護センター

登録定員 25 名

通いサービス	15	名
宿泊サービス	9	名

【事業実績】

施設利用率	90.7	%	* 目標利用率 88.0%
男女比率	1:5		
平均要介護度	2.8		

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・利用者とともに四季折々の飾り(桜やお神輿、鳥居など)を作成し、利用者と一緒に行事を催しました。
- ・昭和郷を利用する事が家族のレスパイトに繋がるよう、家族にも細やかに声をかけ寄り添った支援に努めました。
- ・利用者が独居生活を継続できるよう、本人の力を見極めながらの訪問支援に努めました。

◆ 地域社会への取組み

- ・コロナ禍でストップしていた運営推進委員会を再開し、地域代表や市役所、地域包括支援センターの職員と改めて意見交換を行いました。
- ・独居利用者の役所での手続きのため移動や見守りの支援を行いました。
- ・家族や本人が地域で安心して過ごす事ができるよう、感染症対策を実施しながら、訪問看護や訪問診療との連携の他、昔馴染みの診療所への送迎や連携を行いました。
- ・感染症対策を実施しながら地域での買い物や理美容の支援を行いました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・事業所内の研修にて職員個々の目標を織り交ぜながら職員の質の向上に努めました。
- ・通い・訪問・泊りとどれかに偏ることなく柔軟に支援ができる職員を目指し皆で話し合いました。
- ・今学びたい事、今必要な知識等を現場で話し合い、方法を工夫しながら毎月研修を重ねました。
- ・報告や話し合いの優先順位をよく考え、静観できるものと今すぐに対応すべきのものとを判断できるよう皆で訓練しました。
- ・業務内容を定期的に見直し、働きやすい環境を目指して職員一同話し合いを重ねました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・地域包括支援センターの職員や病院相談員との面談を設け、新規利用者獲得に努めました。
- ・一度紹介いただいた所へは報告や相談を定期的に行い次に繋がるように努めました。
- ・事業所を紹介するチラシを新たに作り直し居宅支援事業所へ配りました。
- ・節電や、日用品の節約を通してコスト削減に努めました。
- ・業務改善を図り、業務過多を減らすべく随時内容を変更しました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間登録者数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	6	5	5	5	5	4	3	2	4	4	3	4	50
女性	16	16	17	19	19	20	19	19	19	20	19	19	222
合計	22	21	22	24	24	24	22	21	23	24	22	23	272

利用者状況推移(各年度年間延人員数)

	サービス提供状況	要介護度別内訳							合計
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
R02(2020)年度	通い			942	468	651	874	612	3,547
	宿泊			425	65	115	561	456	1,622
	訪問			1,658	986	758	148	365	3,915
R03(2021)年度	通い			1,006	528	711	934	675	3,854
	宿泊			488	128	178	624	522	1,940
	訪問			1,612	944	712	545	915	4,728
R04(2022)年度	通い		12	986	508	691	904	658	3,759
	宿泊			471	101	170	607	505	1,854
	訪問		180	1,458	765	712	369	730	4,214

施設名 昭和郷訪問介護センター

【事業実績】

事業名	登録者数(3月31日現在)			男女比率	平均要介護度
	一般	さくらガーデン	合計		
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	14	5	19	1:2	2.8
夜間対応型訪問介護	3		3	2:1	2.6
訪問介護／介護予防・日常生活支援総合事業		6	6	1:5	2/支1
自費サービス事業	—	—	—	—	—

◆ 利用者支援サービスの充実

・利用者の生活習慣や生活ペースに合わせた支援や方法を検討し、居宅サービス計画を基に、計画作成担当者、サービス担当責任者が計画書を個々に作成し、統一した方法できめ細かい支援に努めました。利用者の自立につなげるため、能力の見極め、環境の整備、意欲を引き出す等、利用者の生活に寄り添った支援を続けました。
 ・要支援者の生活を支えるためのパートナーとして、日常より適宜相談及び情報提供を行うことで緊密で良好な関係を保てるように努力しました。

◆ 地域社会への取組み

・利用者の相談内容に応じられるよう、多様な地域サービス情報を収集して提供しました。6か月毎に開催する介護・医療連携推進会議では、9月は新型コロナウイルス感染症予防のため文書のみで情報交換を行いました。3月は3年ぶりに対面で開催し、コロナ禍での在宅生活について情報を共有することができました。
 ・地域包括支援センター、訪問看護事業所、行政とコミュニケーションを図り、市内唯一の事業として、退院などの自宅復帰の支援や、医療機関と連携して自宅でのターミナルケアを行うなど、地域社会へ貢献しました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・福祉サービスに従事する者として全職員が法令遵守の理解と促進を深めるよう複合施設として研修を行いました。
 ・在宅介護の専門職としてさらなる資質の向上を目指し、月1回の研修(複合施設合同研修を含む)、他機関での研修に積極的に参加しました。職員一人ひとりの将来への展望を見通して努力できるような人事考課を通じて介護のやりがいや将来のビジョンを持てるよう働きかけました。
 ・新規採用者や異動転入者には、入職時に個々の能力・経験に合わせてオリエンテーション、同行訪問などを行い、訪問介護の基礎の習得に努めました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・人員配置の補充ができず、職員体制と支援体制の不安定さは払拭できませんでした。利用者獲得は積極的に行いましたが、短期利用の需要が高く、収益を生み出せたことは事業所の良い評価によるものが大きいと考えられます。居宅介護支援事業所、ケアマネージャーとの関係が途切れぬよう案内や情報共有を図りました。
 ・総合ケアマネジメント加算の算定も続け、安定した収益源としました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

利用者状況推移(各年度3月31日現在)

	事業	要介護度別内訳						合計	
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4		要介護 5
R02年度 (2020)	定期巡回・随時対応型訪問介護看護			5	4	7	3	3	22
	夜間対応型訪問介護			1	1				2
	訪問介護／介護予防・日常生活支援総合事業	1	3	5	1				10
R03年度 (2021)	定期巡回・随時対応型訪問介護看護			2	5	6	4	1	18
	夜間対応型訪問介護			1	1	1			3
	訪問介護／介護予防・日常生活支援総合事業		2	2	1				5
R04年度 (2022)	定期巡回・随時対応型訪問介護看護			2	6	8	3		19
	夜間対応型訪問介護			1		1	1		3
	訪問介護／介護予防・日常生活支援総合事業	2		2	1		1		6

令和4(2022)年度 事業報告（サービス付き高齢者向け住宅）

施設名 さくらガーデン

定員 49 室

【事業実績】

施設利用率	96.8	%	* 目標利用率 93.0%
男女比率	1:3		
平均年齢	85.6	歳	(最高 98 歳 / 最低 61 歳)
平均要介護度	要介護 1.03		
平均入居期間	2.78	年	(最長 5.92 年)
年間入居	13	名	
年間退去	10	名	
主な入所理由	ソフトな見守りの下、自立した生活を送りたい		
主な退所理由	要介護状態の進行		

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・入居者との交流機会としての「さくら町会」は新型コロナウイルス感染症予防に留意しながら毎月開催しました。情報共有の場として、毎月「さくら便り」を発行し、こちらからの事務連絡、住宅を利用する上での注意事項などを盛り込んだ内容としました。
- ・認知面の低下が目立った方の対応として、社会福祉協議会の地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の申し立てを進め、安心した生活を送っていただくよう支援しました。
- ・支援が必要な方には、法人内で利用可能なサービスがあるかを検討し、都度調整を行いました。

◆ 地域社会への取組み

- ・地域社会への取組みは新型コロナウイルス感染症予防のため自粛せざるを得ず、地域貢献事業である「さくらカフェ」についても開催することができませんでした。
- ・移動販売車を利用し、入居者の買い物の機会を増やすだけでなく、地域の方にも活用していただくことで、地域との交流の場を提供することができました。

◆ 人材の育成と職場環境の整備

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、サービス付き高齢者向け住宅協会の実施する研修に参加する事ができませんでした。
- ・食事提供業者や厨房機器取り扱い業者を交えて厨房スタッフの情報交換を行い、学びの場としました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・市内の病院、老健、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所にFAXで入居者募集の営業を行った結果、一時期入居者が100%になるなど成果を上げることができました。
- ・支出額が高いものの中から不要なものを挙げ、可能なものを削減しました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月末人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	13	14	15	17	17	16	15	15	16	16	15	15	184
女性	33	32	31	30	32	31	31	32	33	33	33	34	385
合計	46	46	46	47	49	47	46	47	49	49	48	49	569

利用者状況推移(各年度3月31日現在)

	実人員	要介護度別内訳							
		自立	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
R02(2020)年度	43	8	3	3	16	10	2	1	
R03(2021)年度	46	9	4	3	14	13	1	2	
R04(2022)年度	49	10	6	4	18	7	2	1	1

3. 障害者支援系施設の経営

障害者支援施設、心身障害者福祉ホーム、心身障害者福祉センター、共同生活援助事業並びに特定相談支援事業等を経営しました。

グループ総括

◆ 利用者支援サービスの充実

・虐待防止、指針に基づく身体拘束等の適正化に向けて様々な研修を実施し、職員一人ひとりの人権意識の向上と組織全体としての透明化・健全化に努め、不適切な支援が行われないよう取り組みました。

・利用者一人ひとりの意思決定が尊重された暮らしができるように、家族・相談事業所との連携を図りながら、個別支援計画に基づいた質の高いサービスの提供に努めました。活動においても、一人ひとりの希望や状態に応じた支援の工夫に努めました。

・障害者支援施設において2度の新型コロナウイルス感染症のクラスターの発生がありましたが、職員一丸となって利用者の生活支援に取り組みました。さらに障害グループ全体で応援職員を派遣するなど、感染症の収束へ向けて鋭意努力しました。通所施設においても利用者・職員の感染者は生じたものの、家族、関係機関と情報共有し協力態勢を整えながら、支援の継続に努めました。

・感染症対策・自然災害等のマニュアルの整備及び想定訓練を行い、災害時に即応できる体制(事業継続)の強化に努めました。

◆ 地域社会への取り組み

・各事業所における特徴を活かした地域への施設機能の提供は、新型コロナウイルス感染状況悪化のため実施することはできませんでした。しかし、自立支援協議会や福祉連絡会などには参画し、継続して地域の課題等の把握・解決に努めました。

・施設と地域が交流するためのイベント等については、コロナ禍のため内部行事を中心とした取組みとせざるを得ませんでした。しかし新型コロナウイルス感染症も3年目となり、少しずつ緩和策が講じられるようになったため、感染対策を講じながら、イベント規模・時間・会場の範囲等を検討し、できる限り地域の方が安心して参加できるよう工夫を凝らしながら実施しました。

・社会貢献事業としては、中間就労の受け入れなどの要望に応えることはできませんでしたが、自主生産活動における製品(パンなど)の提供、福祉何でも相談やフードドライブなどできる範囲で実施しました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・管理職候補者研修やリーダーを育てるための研修など、各職員のステージに合わせた研修に参加し、計画的な人材育成を進めました。

・コロナ禍においても、リモート研修を活用することで、福祉従事者としての知識やスキルを学び、使命感・責任感・やりがいを持てるよう取り組みました。さらに自分たちの仕事に誇りをもって従事できるよう職場風土の醸成に努めました。

・グループホーム利用者の生活が豊かなものとなるよう、世話人の研修参加を推進し、資質の向上に努めました。コロナ禍により外出制限をせざるを得ない状況にありましたが、グループホーム間でのオンライン交流会などを実施し、窮屈な生活とならないよう工夫を凝らしました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・新型コロナウイルス感染症罹患等による稼働率の低下、さらには物価高騰による光熱水費等の値上げにより厳しい運営状況となりましたが、行政による物価高騰対策支援金の活用やコスト削減を図ることで、安定した施設運営に努めました。

・報酬改定(ベースアップ処遇改善)などの申請・変更を実施し、様々な寄付等の受け入れを行い、健全な運営と効率的な経営に努めました。

・豊島区において東部・西部障害支援センター事業を受託運営することで、相互に協力し合い、安定した運営と適切な区民サービス提供となりました。

・令和7年4月開所予定の杉並区の都有地活用による障害福祉サービス事業の事業者として、行政の方とともに家族説明会を実施しました。また、久我山PTを立ち上げ、開所準備に向けた計画を進めました。

1 障害者支援施設

障害者総合支援法の多機能型施設として障害のある方への施設入所支援・生活介護(旧法:更生)・就労移行支援・就労継続支援B(旧法:授産)・短期入所事業を行いました。

2 心身障害者福祉ホーム

豊島区内の心身障害者で特定の要件を満たす方へ、日常生活における援助等を行い自立生活を助長しました。また、併せて緊急一時保護も行いました。

3 心身障害者福祉センター

東久留米市内の居宅で生活している15歳以上の心身障害者の方が、住みなれた地域社会の中で安心して生活が送れるように各種サービスを提供し、自立助長及び介護にあたる家族の福祉向上を図りました。

4 共同生活援助(グループホーム)

障害のある方に対して、主に夜間において、共同生活を営む住居で相談、入浴、排泄または食事の介護、その他の日常生活上の援助を行いました。

5 特定相談支援事業

障害のある方が自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう、障害福祉サービス等の利用計画の作成(計画相談支援)を行いました。自立した生活を支え、障害者の抱える課題の解決や適切なサービス利用に向けたケアマネジメントを行い、きめ細かく支援しました。

令和4(2022)年度 事業報告 (障害者支援施設)

施設名	さやま園		
定員	96	名	
			短期入所専用
			施設入所支援
			特定相談支援事業
			4
			96
			名
			名

【事業実績】

施設利用率

施設入所支援	98.0	%	* 施設入所支援目標利用率 96.5%
生活介護	99.0	%	
小計	98.5	%	
短期入所	3.2	%	
特定相談支援事業	140	名(年間延利用者数)	

平均障害程度区分

施設入所支援	5.33
生活介護	5.31

平均年齢 54.6 歳 (最高 79 歳 / 最低 25 歳)

平均在所期間 20.9 年 (最長 57 年)

年間入所 3 名

年間退所 4 名

主な入所理由	家庭で支援困難
主な退所理由	死亡 地域移行

◆ 利用者支援サービスの充実

・今年度は夏・冬と2度の新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、利用者の日課や行事に影響が出る事態となりました。保健所や看護協会から備品等の確認やゾーニングについて指導を受ける一方で、障害グループの応援協力もあり、その都度対応策を模索しながら乗り切ることができました。この経験をもとにマニュアル等の見直しを行い、安全な生活の提供に努めました。

・コロナ禍においても窮屈とならず楽しい生活となるように、できる限り講師等による活動を続けるとともに、近隣のお店への買い物・外食の代わりとしてデリバリーサービスなどを多く利用しました。行事においてはアイデアを出し合いながら、密とならないように2部制を採るなど、楽しんでもらえるよう工夫しました。

・高齢化、重度化への対策として、エンジョイ委員会とリハビリ講師の連携により積極的なリハビリテーションを行いました。さらに利用者が安全に介護を受けられるように、また職員も安全に介護できるように、介護器具を導入し安全な介護の向上に取り組みました。

・地域移行への取組みについては、GH担当者による研修を実施し知識の習得を図り、1名の方の地域移行ができました。

・災害対策として、地震・火災への訓練(グループ毎による部分訓練)を多く取り入れ、利用者の災害意識も高まるよう実施しました。また有事に即した対応ができるよう災害用食品の試食をするなどBCPの見直しを行いました。

◆ 地域社会への取組み

・新型コロナウイルス感染症のため、産業祭や近隣の高齢施設等での作品販売、ワークショップ等は中止となり、近隣地域のレストラン等への外食も自粛せざるを得ない状況となりました。しかし、感染状況を見ながら近所のお店に買い物に行くなど、できる範囲での地域との交流、ふれあいの機会を作りました。

・社会貢献事業として、中間就労者への働く体験の場の提供の継続をしていますが、コロナ禍のため中止となりました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・コロナ禍での外部研修が少なくなったことで、新人研修や中堅研修など、研修内容の細分化、少人数での研修を実施し、多くの方が参加できるよう工夫しました。特に虐待防止研修やグループワーク、ケースカンファレンス等は定期的実施し、職員一人ひとりの意識とスキルの向上(人材育成)を図り、組織全体としての底上げを図りました。

・職員の得意技術を活かした研修(介護等)を実施しました。また、多くの職員がリモート研修に参加できるよう環境整備を図りました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・報酬改正に伴うマニュアル等の整備を行いました。

・コロナ禍において、利用者の一時帰宅が中止になったことで稼働率は上がりましたが、入院、地域移行等により欠員となる時期がありました。

・予算計画に基づき、適宜確認を行いながら、適切に予算を執行しました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
Wi-Fiスポット増設(×2)	746	Wi-Fiスポット増設(×2)	600
2F汚物処理機	930	2F汚物処理機	930
2F屋根先水切り補修	523	2F屋根先水切り補修	523
		給食ガス回転釜	623
		電動ベッド(×5)	768
		PC(×1)	122
購入等合計	2,199	購入等合計	3,566
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
作業棟床改修(2室)	2,226	1F大型洗濯乾燥機	3,740
1F大型洗濯乾燥機	3,835	本棟加圧給水ポンプユニット交換(緊急)	2,422
電動ベッド(×5)	968		
給食ガス回転釜	623		
購入等合計	7,652	購入等合計	6,162
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
南棟エアコン交換	1,600	サーバ	1,617
PC(×6)	875	利用者ケース記録ソフト	1,980
サーバ	1,628	作業棟床改修(2室)	2,226
利用者ケース記録ソフト	1,980		
購入等合計	6,083	購入等合計	5,823
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
		南棟エアコン交換	1,595
購入等合計	0	購入等合計	1,595

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数) * 施設入所支援のみ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	25	24	24	25	25	25	25	25	25	25	25	25	298
女性	71	71	70	70	70	69	69	70	70	70	70	70	840
合計	96	95	94	95	95	94	94	95	95	95	95	95	1,138

利用者状況推移(各年度3月1日現在) * 施設入所支援のみ

	実人員	年齢別内訳								
		~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	~54	55~
R02(2020)年度	96		1	5	8	7	6	14	7	48
R03(2021)年度	95		1	5	9	5	6	17	7	45
R04(2022)年度	95			5	8	5	7	13	9	48

令和4(2022)年度 事業報告 (障害福祉サービス事業)

施設名 **小茂根福祉園**

定員	生活介護	40	名(通所)
	就労継続支援B	30	名(通所)
	計	70	名

【事業実績】

施設利用率

生活介護	75.2	%	
就労継続支援B	75.3	%	
計	75.2	%	* 目標利用率 82.0%

平均障害程度区分

5.0

平均年齢

36.8 歳 (最高 70 歳 / 最低 19 歳)

平均通所期間

15.9 年 (最長 40 年)

年間入所

1 名

年間退所

1 名

主な入所理由

特別支援学校卒業

主な退所理由

本人死亡のため

◆ 利用者支援サービスの充実

・新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として衛生管理を徹底するとともに、園内での嘱託医によるワクチン接種(5回目)も円滑に行うことができ、クラスターの発生もありませんでした。
 ・限られた条件の中でオンラインによる音楽療法の継続や合同行事のリモートの活用など、活動の内容を工夫してサービスの維持・向上に努めました。
 ・意思決定支援の強化として、人権擁護委員会を中心に、虐待防止研修や不適切な支援の共通理解及び支援の検証に努めるとともに、個別支援計画の表記の改善に取り組みました。また利用者・家族の満足度調査も行い利用者支援の向上に努めました。

◆ 地域社会への取組み

・感染防止対策として、外部の方との交流や行事の中止など活動の制限が多く、地域社会への取組みは限られたものとなりました。地域交流の一環として、近隣保育園でのカレンダー原画展の開催や物販活動、図書館との読み聞かせやワークショップの共催など、交流や活動の機会を得ることができました。
 ・板橋区社会福祉法人等施設連絡会のフードドライブや板橋区社会福祉協議会主催のボランティア活動の受け入れ、中学生の職場体験の実施、高校生実習生の受け入れなどに取り組み、連携を深めました。
 ・区内の共同受注の特別養護老人ホームの清掃事業に関しても、参加施設との連絡調整を適宜行い、コロナ禍においてもできる限り清掃事業を継続して行えるように取り組みました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・園内の2事業(生活介護・就労継続B型)の職員交換研修を実施し、相互の事業を理解するとともに、課題等を整理(気づき)し、各自の担当事業にフィードバックすることで、各事業にとどまらず全体の事業に関心を持つよう意識改革に取り組みました。園内外の研修にオンラインで参加し、専門性や支援スキルの向上につなげました。また、毎朝のスローガンの唱和、自己セルフチェックの実施、内部研修に取り組み、職員の資質向上につなげました。
 ・ノー残業デーの実行や産業医の活用(メンタルヘルス)など、働きやすい職場へ環境の改善に努めました。
 ・コロナ禍においても、感染症対策を行いながら、養成校から実習生を受け入れ次世代の福祉人材の育成に努めました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・本年度も区立福祉園の民営化については、園長会と連携して対応してきましたが、具体的な内容が明らかになるには至らず、新型コロナウイルス感染症の感染状況により家族向け説明会も延期されており、今後の動向に注視していきます。
 ・開所40年目を迎えて建物の老朽化も進んでいます。エレベーター・変電設備等大規模の改修工事等も無事に終了しました。次年度も全館空調設備の更新工事が決定され、今後も板橋区主管課と協議・連携・調整を行いながら取り組みます。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
焙煎機	1,863	焙煎機	1,693
		2F男子トイレエアコン取付工事	627
購入等合計	1,863	購入等合計	2,320
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
エレベーター更新工事(板橋区)	24,288	2F作業場エアコン新設工事(×2)	1,400
入浴設備改修	1,500		
購入等合計	24,288	購入等合計	1,400
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
受変電設備更新工事(板橋区)	29,469	エレベーター更新工事(板橋区)	24,288
空調設備	1,400	受変電設備更新工事	29,469
2F和室改修工事	1,300	2F和室改修工事	1,265
購入等合計	32,169	購入等合計	55,022
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
小昇降機更新工事(板橋区)	10,450	小昇降機更新工事(板橋区)	1,289
玄関庇改修工事	4,400	建物裏通路屋根張替工事	1,155
1F車いすトイレ2F女子トイレ改修工事	900	玄関庇改修工事	1,298
		エントランス物置撤去新設工事	1,242
		1F車いすトイレ2F女子トイレ改修工事	825
購入等合計	15,750	購入等合計	5,809

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間延人員数) * 生活介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	497	471	553	411	458	478	499	475	467	450	467	533	5,759
女性	134	123	145	116	131	135	125	128	129	122	123	135	1,546
合計	631	594	698	527	589	613	624	603	596	572	590	668	7,305

利用者状況推移(各年度3月1日現在) * 生活介護

	実人員	年齢別内訳							
		~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	50~
R02(2020)年度	40	1	8	10	9	4	3	4	1
R03(2021)年度	40		7	10	10	5	4	2	2
R04(2022)年度	40	1	7	8	12	4	5	2	1

年間利用状況(各月月間延人員数) * 就労継続支援B

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	273	273	319	273	259	259	258	262	248	255	243	293	3,215
女性	206	195	217	192	204	190	197	192	182	151	160	188	2,274
合計	479	468	536	465	463	449	455	454	430	406	403	481	5,489

利用者状況推移(各年度3月1日現在) * 就労継続支援B

	実人員	年齢別内訳							
		~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	50~
R02(2020)年度	30		3	7	6	1	3		10
R03(2021)年度	27		3	5	6	1	3		9
R04(2022)年度	26		3	4	6	1	3		9

令和4(2022)年度 事業報告 (障害福祉サービス事業)

施設名 立川福祉作業所

定員	就労移行支援	6	名(通所)	特定相談支援事業
	生活介護	30	名(通所)	
	就労継続支援B	44	名(通所)	
	計	80	名	

【事業実績】

施設利用率

就労移行支援	33.6	%	
生活介護	71.6	%	
就労継続支援B	105.5	%	
計	87.4	%	* 目標利用率 85.0%

特定相談支援事業 244 名(年間延利用者数)

平均障害程度区分

3.8

平均年齢

34.7 歳 (最高 66 歳 / 最低 19 歳)

平均通所期間

13.3 年 (最長 51 年)

年間入所

8 名

年間退所

8 名

主な入所理由

他施設からの移行 在宅から入所

主な退所理由

就職、他施設の利用

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・感染症に関するBCPを整備しましたが実践的な訓練を行うまでには至りませんでした。
- ・利用者の障害特性や作業能力に合わせた作業提供に向けて作業内容を見直しました。難易度の高い作業ばかりでなく、誰もが取り組める作業を増やすことで利用者の活躍の場を増やしました。
- ・就労を希望する利用者に対しては、事業の枠に捉われないことなく就労の働きかけを行いました。本年度は、3名の利用者が一般企業等へ就労しました。
- ・家族会等を通じて将来を見据えた社会資源の活用や生活の場の体験利用の促進に取り組みました。家族の理解が深まり、徐々にグループホームやショートステイの体験利用に結びついています。

◆ 地域社会への取組み

- ・自立支援協議会や東社協に参画し、地域の課題の把握と解決に取り組みました。
- ・残余パンについては、社会福祉協議会と連携し、一人親家庭や生活困窮者を支援するNPO法人に提供しました。また地域貢献の一環として定期的に公園清掃に取り組みました。災害に備えたオストメイト備品の保管を継続しました。
- ・感染症対策の一環として、パン等の販売方法を見直しました。対面販売から納品にすることで感染リスクの軽減と販売機会の増加につながりました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・人事考課面談などを通じ、職員それぞれが思い描くキャリアビジョンが明確になるよう取り組みました。資格取得を奨励し、職員の専門性の向上にも取り組みました。複数名の職員が国家資格を取得しました。
- ・コロナ禍の影響により対面式による研修が少ない状況でした。一方でオンライン研修への積極的な研修機会を設け、より多くの職員が研修に参加できるよう取り組みました。
- ・会議等での活発な意見交換により、円滑なコミュニケーションが図られました。職員間の相互理解が深まるとともに、連携強化につながりました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・マルチバンクの導入により、正確な費用徴収と業務負担の軽減につながりました。
- ・利用者の交通費の支給要件を見直しコストの適正化を図りました。
- ・収支バランスを意識し、計画的に予算を執行しました。
- ・地域の特別支援学校への営業を積極的に行いました。当施設の取組みや魅力を伝える機会となり、新規利用者の獲得に努めました。また引きこもりや障害種類にとらわれない多様なケースを受け入れることで新規利用につながりました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間延人員数) * 生活介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	329	295	349	319	318	327	325	309	289	271	265	314	3,710
女性	130	115	135	122	115	129	126	132	125	135	129	119	1,512
合計	459	410	484	441	433	456	451	441	414	406	394	433	5,222

利用者状況推移(各年度3月1日現在) * 生活介護

	実人員	年齢別内訳							
		~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	50~
R02(2020)年度	26		1	3	5		5	3	9
R03(2021)年度	26			3	5	3	2	7	6
R04(2022)年度	23			2	5	2	1	8	5

年間利用状況(各月月間延人員数) * 就労継続支援B

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	694	616	739	676	577	670	680	657	612	595	610	696	7,822
女性	310	280	324	253	220	279	301	298	281	291	289	327	3,453
合計	1,004	896	1,063	929	797	949	981	955	893	886	899	1,023	11,275

利用者状況推移(各年度3月1日現在) * 就労継続支援B

	実人員	年齢別内訳							
		~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	50~
R02(2020)年度	39	2	7	12	9	1	5	1	2
R03(2021)年度	45	2	9	13	12		5	1	3
R04(2022)年度	47	5	9	11	11	2	4	2	3

年間利用状況(各月月間延人員数) * 就労移行支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	18	17	22	0	0	0	0	23	35	19	18	22	174
女性	38	33	40	35	36	32	40	19	18	15	10	0	316
合計	56	50	62	35	36	32	40	42	53	34	28	22	490

利用者状況推移(各年度3月1日現在) * 就労移行支援

	実人員	年齢別内訳							
		~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	50~
R02(2020)年度	3	1	2						
R03(2021)年度	2	1	1						
R04(2022)年度	1				1				

令和4(2022)年度 事業報告 (障害福祉サービス事業)

施設名	東村山生活実習所		
定員	生活介護	30	名(通所)
	就労継続支援B	10	名(通所)
	計	40	名
	短期入所専用	2	名

【事業実績】

施設利用率

生活介護	95.7	%	* 目標利用率 98.0%
就労継続支援B	80.4	%	
小計	91.9	%	
短期入所	4.9	%	

平均障害程度区分

生活介護	5.73
就労継続支援B	3.11

平均年齢 41.8 歳 (最高 73 歳 / 最低 20 歳)

平均通所期間 10.4 年 (最長 17 年)

年間入所 0 名
年間退所 4 名

主な入所理由
主な退所理由 施設入所、病気による

◆ 利用者支援サービスの充実

・新型コロナウイルス感染症に対して、消毒や換気など基本的な感予防対策を徹底しました。しかし、12月の同時期に多くの利用者・職員が罹患してしまいましたが、BCP計画に基づき活動を縮小しながら事業継続を図りました。
 ・職員の専門性を高めるために、個々に応じた研修の参加機会を多く設けました。内部研修では虐待防止研修を始め、適切な支援・気付きをテーマとしてグループワークを行い、虐待防止及び権利擁護の意識と支援の向上に取り組みました。
 ・利用者及び保護者の想いを汲みとりながら個別支援計画書を作成し、個々人の自己実現に向けて取り組みました。また社会性の向上が図れるように様々な場面で支援を行いました。

◆ 地域社会への取組み

・製菓等の販売やリサイクル活動などを通じて、地域と関わりを持ち、利用者の社会参加を促進しました。8月下旬にカフェをリニューアルオープンし、利用者の活躍の場と地域資源の提供を行いました。
 ・地域の関係機関との協働については、リモートによる会議等を通し、地域の課題の把握等、情報共有を図りました。
 ・特別支援学校と連携し、進路先や体験の場として、また作業能力低下による通所の変更先として実習を受け入れるなど、柔軟な体制でサービスの提供を図りました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・リモート研修を積極的に活用し、必要な知識やスキルの習得、専門職としての意識の向上を図り、職員育成に努めました。参加者による研修報告の機会を設け、学んだ知識や技術等を職員間で共有しました。内部研修では、グループワークを中心とした研修を取り入れ、互いに気付きを得ながら支援力の向上へとつながるように研鑽に努めました。
 ・ワークライフバランスの充実に向けて、ノー残業デー・有給休暇等の取得の励行、業務の効率化に取り組みました。また、子育て世代や親の介護等を必要としている職員への協力体制も整え、働きやすい環境を整備しました。
 ・感染症対策を行いながら、養成校から実習生の受け入れを行い、次世代の福祉人材の育成に寄与しました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・定員超過での利用者の受け入れを行っていましたが、利用者や保護者の高齢化等により、年間で4名の方が退所されました。しかし、加算の見直し、新型コロナウイルス感染症感染時の在宅支援などにより収入の増へとつなげ安定的な運営を図りました。
 ・特別支援学校等からの見学や実習生の受け入れを積極的に行い、利用者の確保に努めたことで、次年度は就労継続B型1名、生活介護2名の新規利用が決定しました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
送迎車	4,883		
購入等合計	4,883	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
		送迎車	3,782
		スチームコンベクションオープン	1,590
購入等合計	0	購入等合計	5,372

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間延人員数) * 生活介護

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	255	255	260	239	232	247	238	241	213	239	226	258	2,903
女性	353	342	394	359	379	373	343	359	321	308	306	354	4,191
合計	608	597	654	598	611	620	581	600	534	547	532	612	7,094

利用者状況推移(各年度3月1日現在) * 生活介護

	実人員	年齢別内訳							
		~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	50~
R02(2020)年度	32		1	6	6	4	3	4	8
R03(2021)年度	33		1	6	5	5	3	3	10
R04(2022)年度	30			5	3	7	3	3	9

年間利用状況(各月月間延人員数) * 就労継続支援B

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	70	66	67	65	68	68	70	68	66	68	61	74	811
女性	107	100	114	103	100	96	97	97	90	82	87	103	1,176
合計	177	166	181	168	168	164	167	165	156	150	148	177	1,987

利用者状況推移(各年度3月1日現在) * 就労継続支援B

	実人員	年齢別内訳							
		~19	~24	~29	~34	~39	~44	~49	50~
R02(2020)年度	9			4	1	1	1	1	1
R03(2021)年度	10	1		3	2		2	1	1
R04(2022)年度	9	1		1	3		1	2	1

令和4(2022)年度 事業報告 (心身障害者福祉ホーム)

施設名 さくらんぼ

主な事業	長期自立援護	特定相談支援事業
	短期自立訓練	移動支援事業
	緊急一時保護	自立生活援助事業
	レスパイト	豊島区東部・西部障害支援センター

【事業実績】

長期自立援護事業					
利用実人員	47	名	最高	54	歳
年間延人員	1,404	名	男女比率	1:1	最低 41 歳
短期自立訓練事業					
利用実人員	536	名	最高	73	歳
年間延人員	1,006	名	男女比率	2:1	最低 20 歳
緊急一時保護事業					
利用実人員	19	名	最高	82	歳
年間延人員	157	名	男女比率	1:1	最低 20 歳
レスパイト					
利用実人員	114	名	最高	73	歳
年間延人員	197	名	男女比率	1.4:1	最低 20 歳
移動支援事業					
利用実人員	26	名	最高	75	歳
年間延人員	29	名	男女比率	2:1	最低 35 歳
特定相談支援事業					
相談件数	25	件			

◆ 利用者支援サービスの充実

・新型コロナウイルス感染症に罹患した場合の家族支援として、緊急的に受け入れられるよう区の要請に基づき体制整備を図りましたが、今年度の利用実績はありませんでした。
 ・感染症発生時と自然災害発生時のBCPについて新たに取り組みました。特に自然災害発生時のBCPでは、スケールメリットを活かして豊島区内の障害福祉施設が連携して対応できるよう計画しました。
 ・利用者個々の障害特性や家庭状況を踏まえ、希望する地域生活ができるよう意思決定に基づいた支援を提供しました。
 ・東西障害支援センターを一体的に管理運営し、豊島区と連携し区民へのサービス向上に努めました。
 ・開設30周年を迎え、さくらんぼ祭や広報誌等において利用者・家族・地域の方々とともに、さくらんぼへの思いや期待に触れ、今後のあり方を考える良い機会となりました。

◆ 地域社会への取組み

・地域公益活動として「福祉なんでも相談窓口」の継続と、業種を超えた福祉事業所間の情報交換会に参加し、地域の実情に応じた地域貢献のあり方について検討を重ねました。
 ・地域支援協議会や障害福祉計画推進会議など地域における会議体に参加することにより、相互に連携し、地域福祉の向上に取り組みました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・職員個々のキャリアステージや職能に応じた法人研修、外部研修に参加しました。また区内の他法人施設との交流研修を実施し、人事交流を図りました。
 ・充実した内部研修を目指し職員が主体的に取り組みました。特に権利擁護に関する研修や、自施設のミッションを考える研修では、職員一人ひとりが積極的な姿勢で取り組むことができました。
 ・さくらんぼを拠点とする施設(さくらんぼ、GH、障害支援センター)合同で、虐待防止研修を実施しました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・省エネ、省資源などコスト削減に取り組みました。電気使用量についてはデマンドにより管理し、集居室利用者へ協力を仰ぎましたが、電気・ガス料金の高騰、建物の老朽化等により大きな効果にはつながりませんでした。
 ・大規模修繕の実施が区議会で決定し、それまでの指定管理期間(令和5年4月～令和7年9月)について延長が決定しました。ただし予算については今年度の横引予算となったため次年度は物価高騰への対応等厳しい状況が予想されます。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
支援ソフト	990	支援ソフト	990
購入等合計	990	購入等合計	990
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

利用者状況推移(各年度延人数)

	利用人員							
	長期自立援護		短期自立訓練		緊急一時保護		レスパイト	
	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員
R02(2020)年度	34	952	431	836	29	384	69	112
R03(2021)年度	48	1,460	483	888	21	291	71	130
R04(2022)年度	47	1,404	536	1,006	19	157	114	197

令和4(2022)年度 事業報告 (心身障害者福祉センター)

施設名 **さいわい福祉センター**

主な事業	地域活動支援センター事業	生活介護
	都型ショートステイ事業(宿泊)	就労移行支援事業
	日中一時支援事業	居宅介護事業
	就労支援事業	特定相談支援事業

【事業実績】

	事業名	実人員	延人員	年齢		男女比率
				最高	最低	
自立支援事業	地域活動支援センター	60	687	34	10	1:0
	身体障害者機能訓練	136	231	62	19	1:1.2
介護支援事業	ショート・緊急・日中一時支援	726	1,652	58	3	1.3:1
	入浴サービス	132	364	64	19	1:2
居宅生活支援事業	同行援護(視覚障害)・移動支援	296	1,316	88	29	1.3:1
	居宅介護支援	24	331	73	24	1.3:1
育成事業	グループ育成	45回	325	—	—	—
	講座・講習	115回	761	—	—	—

障害者地域自立生活支援事業

相談内容	件数	利用者内訳	件数
相談事業(一般)	68	身体障害	504
特定相談	1,137	知的障害	1,157
就労支援(生活支援)	75	その他	10
〃 (就労支援)	695		
計	1,975	計	1,671

◆ 利用者支援サービスの充実

・新型コロナウイルス感染症に対して、緊急一時保護の機能や医療的ケアの必要な利用者もいるため、消毒や換気、環境整備など感染予防対策の徹底を図りました。家庭内感染による利用者、職員の罹患者はいましたが、施設内の感染拡大はなく、全事業を中止することなく利用者サービスを継続することができました。

・感染対策を講じながら、行事や外出活動を行い交流や活動の幅を広げました。3年ぶりに保護者会を開催し意見交換等を行いました。

・権利擁護や虐待防止研修、介護技術研修など外部、内部研修を行い職員の意識向上、支援技術の向上に努めました。

・就労支援や相談支援業務など本人、家族、関係機関などと連携、情報共有を図り、迅速かつ切れ目のない支援を心がけ対応に努めました。

◆ 地域社会への取組み

・新型コロナウイルス感染症の蔓延が長期化する中、事務局として市内の福祉事業所合同の夏祭りの開催に向け準備してきましたが、感染拡大の影響で中止となりました。その他のスポーツイベントは感染症対策を講じながら再開し、地域や関係団体との交流を広げることができました。

・感染症対策を徹底しながら、介護・社会福祉士養成課程の学生や地域の特別支援学校の生徒などの実習を積極的に受け入れました。また、近隣の高等学校との繋がりにから学生に対して福祉に関する説明や介護体験の機会を設けるなど、興味・関心を持っていただく場面を作りました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・多機能事業所であるため、内部研修を毎月行い各事業の目的や役割の確認、相互理解を深めました。

・コロナ禍で中止していた介護技術研修やヘルパーのフォローアップ研修については、感染予防対策を講じることで外部講師を招いて開催することができ、職員のスキルアップにつながりました。

・オンライン研修のメリットを活かし(移動、時間の融通等)多職種の職員が研修に参加できる機会を増やしました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・新型コロナウイルス感染症、ウクライナ情勢等の影響もあり電気、ガス料金などの高騰、物価高による事業費の圧迫が懸念されましたが、予算の補正等を行い委託費の中で賄うことができました。

・省エネとコスト削減に向けて取り組みました。1階、地下階段の誘導灯をLEDに変え電気使用量の削減につなげました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
LED非常照明器具階段灯交換工事	859	LED非常照明器具階段灯交換工事	859
購入等合計	859	購入等合計	859
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

利用者状況推移(各年度延人数)

	自立支援事業				介護支援事業			
	地域活動支援		機能訓練		ショート・緊急		入浴	
	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員
R02(2020)年度	30	256	88	148	563	1,333	120	346
R03(2021)年度	55	739	106	193	734	1,860	126	345
R04(2022)年度	60	687	136	231	726	1,652	132	364

	居宅生活支援事業				育成事業			
	同行援護・移動支援		居宅・移動支援		グループ育成		講座・講習	
	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員	実人員	延人員
R02(2020)年度	219	831	69	414	39	432	39	404
R03(2021)年度	209	969	56	358	21	116	59	369
R04(2022)年度	296	1,316	24	331	45	325	115	761

令和4(2022)年度 事業報告 (共同生活援助事業)

施設名 アミニティ富士見

定員 52 名

【事業実績】

利用率 93.3 %

◆ 利用者支援サービスの充実

・意思決定支援・合理的配慮に基づき、利用者の意向を尊重した個別支援計画を作成し支援しました。グループホームが一人ひとりにとっての家庭であることを強く意識し、和やかで落ち着ける雰囲気を大切にし、安定した生活が送れるよう支援しました。
 ・高齢利用者の後見制度利用や高齢者施設への移行、ガイドヘルパーなどの外部人材を有効活用しながらそれぞれにあった豊かな生活が送れるよう支援しました。
 ・感染症対策を行いながら、防災・防犯訓練を計画的に実施し、有事に備え、安心して生活できる環境整備を行いました。

◆ 地域社会への取組み

・関係機関や近隣、地域との関係を深め、社会参加と自立した生活の支援に取り組みました。
 ・地域の防災訓練に参加し、地域の一員として社会に貢献できるよう努めました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

外部研修の受講を計画的に進めました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・報酬改定や都加算見直しによる収益への影響を注視し、安定的に経営ができるよう取り組みました。
 ・都加算の補助要件となった第三者評価の受審及び世話人の外部研修受講を計画的に進めました。
 ・昨年度同様利用者の退寮等による空室時期がありました。コロナ禍の影響で退所した利用者やもともと一人暮らしを希望していた退所者もあり、昨年度と比較して稼働率の低下となりました。

【施設利用状況】

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	実人員	年齢別内訳							
		～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	50～
R02(2020)年度	51	1	1	2	10	10	5	7	15
R03(2021)年度	49		2	1	9	10	5	4	18
R04(2022)年度	48		1	1	9	10	6	3	18

令和4(2022)年度 事業報告 (共同生活援助事業)

施設名 レヂオンス巣鴨

定員 12 名

【事業実績】

利用率 100.0 %

◆ 利用者支援サービスの充実

・外出や少人数での食事会の機会を増やし、コロナ禍の閉塞感を減らし、楽しめるよう工夫して支援しました。また3つのグループホーム交流会は、外部アーティストの協力を経て、3年ぶりに一堂に会して実施することができました。
 ・高齢化によるフレイル予防のため、定期的に楽しく歩く外出の機会を継続し、歩行機能の向上につなげました。また認知症の進行に伴い、日中活動の場を高齢サービスに移行することで安心して過ごせるよう支援しました。
 ・利用者を交えた防災・防犯訓練を計画的に実施し、安全に暮らせるよう環境整備を行いました。またさくらんぼと連携し災害発生時のBCPの作成に取り組みました。

◆ 地域社会への取組み

・昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者の社会参加の機会は少なかったですが、町会の清掃ボランティア活動やイベントに参加し、地域の一員としての役割を担うことで利用者の自己肯定感の維持につなげました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・世話人の高齢化及び待遇改善のため、委託の見直しに着手しました。
 ・世話人が安心して働けるようさくらんぼのバックアップ体制を強化するとともに、グループホーム会議を定期的開催し、支援の悩みや支援方法を共有し、より良い支援につなげるよう取り組みました。
 ・虐待防止研修の受講及びセルフチェックの実施により、権利擁護に関する意識を高められるよう取り組みました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・全般的には安定かつ適正な運営ができました。
 ・電気・ガス料金の高騰が続くことにより、利用者の生活が脅かされないよう、補助金の申請を行い対策を講じました。

【施設利用状況】

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	実人員	年齢別内訳							
		～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	50～
R02(2020)年度	12					1	2	2	7
R03(2021)年度	12					1	2	2	7
R04(2022)年度	12						2	2	8

令和4(2022)年度 事業報告 (共同生活援助事業)

施設名 夢オハナ

定員 12 名

【事業実績】

利用率 100.0 %

◆ 利用者支援サービスの充実

・新型コロナウイルス感染症の対策として、食事時間の分散、手洗い消毒等の徹底、換気、検温などできる限りの対策を講じてきました。本年度、利用者、職員の罹患はありませんでした。
 ・各相談支援事業所と連携し、利用者個々の現状の課題を分析共有し、豊かな地域生活を送るための支援を検討しました。
 ・予定されていた宿泊や日帰り旅行は中止となり、忘年会、新年会、クリスマス会は規模を縮小して実施しました。

◆ 地域社会への取組み

地域社会との取組みは、新型コロナウイルス感染症の影響でほとんど実施できませんでした。ただ、近隣との付き合いや近所の商店街の利用などは継続できました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・昨年に引き続き、オンラインでの虐待研修を受けました。研修後受講した感想を確認し、現場に活かせるよう工夫しました。
 ・世話人、支援員とも高齢化してきており、事業の継続と世代交代が喫緊の課題となっています。また多様化・複雑化する利用者ニーズに対応する支援力の向上も課題です。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

概ね利用率が良く、予定通りの収入となりました。安定的な運営につながりました。

【施設利用状況】

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	実人員	年齢別内訳							
		～19	～24	～29	～34	～39	～44	～49	50～
R02(2020)年度	12				9	2			1
R03(2021)年度	12				9	2			1
R04(2022)年度	12				7	4			1

4. 児童・女性支援系施設の経営

母子生活支援施設、児童養護施設、婦人保護施設、児童厚生施設を経営しました。

グループ総括

◆ 利用者支援サービスの充実

・安心できる環境の中で自尊心を高め、自己決定できるよう支援に努めました。
・一人ひとりの自立支援は、関係機関と連携し自立支援計画に基づき適切に実施しました。
・防犯防災対策をはじめ、特に新型コロナウイルス感染症予防対策を重点課題として取り組みました。

◆ 地域社会への取り組み

・地域公益活動の同援こども学習室「ラ・スク」は、コロナ禍にあっても適切に取り組み、延べ115名の学習と居場所を提供することができました。
・昭島フードバンクと連携し、退所者および地域世帯に食材等を提供しました。(フードロスの取組み)

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・職員育成に関しては、個別研修計画とキャリアパスに基づき、専門スキル向上に取り組みました。
・ハラスメント防止を意識し働きやすい職場づくりに取り組みました。ハラスメント防止は次年度もグループの継続課題として取り組みます。
・コロナ禍3年目の中、昨年に続き学生の減少はありましたが、積極的な受入れを実施し、法人の魅力をアピールしました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・利用率向上については、関係機関との連携を図り、情報共有と調整により利用者の受入れを進め、社会的責任を意識した支援に努めました。
・サンライズ武蔵野の広域利用も、杉並区・他区市の福祉事務所と連携を図りながら、徐々に相談件数が増え、入所に繋がりました。

1 母子生活支援施設

18歳未満の子どもを養育している母子家庭等の女性が、子どもと一緒に利用できる施設として、利用者の心身と生活を安定するための相談・援助を進めながら、自立を支援しました。

2 児童養護施設

乳児を除いて、保護者のいない児童、虐待されている児童、その他環境上養護を要する児童を養護し、あわせてその自立を支援しました。

3 婦人保護施設

性暴力やDV被害者等、困難な課題を抱えた女性への支援(精神的・医療的、また食を通じた健康管理、就労支援など)を入所時のみならず退所後も継続し、安全・安心な生活を見守りました。

4 児童厚生施設

児童に健全な遊びの場を提供し、健康を増進して豊かな情操を育てるための児童センターとして運営しました。

令和4(2022)年度 事業報告 (母子生活支援施設)

施設名	サンライズ武蔵野		
定員	20	世帯	緊急一時保護
			1 世帯

【事業実績】

施設利用率	83.6	%	* 目標利用率 90.0%	
入所	83.6	%		
緊急一時保護	19.7	%		
平均在所期間	1.7	年	(最長	2.7 年)
年間入所	14	世帯	35	名
年間退所	7	世帯	17	名
主な退所先	公営住宅、民間賃貸住宅			

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・利用者の意思を尊重した自立支援計画を策定し、関係機関と連携して自立を支援した結果、7世帯が退所しました。
- ・昨年度から開始した広域利用は、現在4世帯が利用しています。DV被害のため離婚調停、裁判等も難航し、精神的負担が大きく手厚い支援を求められました。
- ・学童には一人ひとりに合わせた支援を行い、特に高年齢児とは個別レクを実施し交流を深めました。
- ・母親工作会や半日補助保育などでリフレッシュを図り、不調時に補助保育を行い心身の安定を図りました。
- ・基本的な感染対策を行ったうえで、生活に潤いが持てるよう行事を実施しました。

◆ 地域社会への取組み

- ・地域のひとり親家庭に向けて電話相談を継続しました。
- ・グループとして同援子ども学習室「ラ・スク」に参加し、地域の児童の学習支援、居場所支援を行いました。
- ・感染対策を行ったうえで、他の事業所と地域行事を実施し、地域の親子との交流を進めました。
- ・新型コロナウイルス感染症予防のため、誕生日カードや寄贈品を送付し近況確認を行いました。
- ・奨学金受給中の退所児童との月1回面談、一人暮らしの退所児童宅訪問など退所後の生活を支援しました。
- ・地域の複数の団体から寄贈品をいただき、地域からも利用者支援がなされました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・法人のキャリアパス制度に基づき、キャリアアップと職員の処遇改善を進めました。
- ・職場内研修を実施し、職員の資質向上を図りました。
- ・グループの課題であるハラスメント・虐待について研修を実施し、職員間で共有を図りました。
- ・外部研修も再開されたことから、感染状況に留意しできる限り参加しました。
- ・感染対策を行ったうえで実習生を受け入れ、将来の福祉人材の育成に努めました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・広域利用は当初2世帯の枠でしたが、杉並区と協議し、最大5世帯まで拡充しました。今後も広域枠を広げて利用率を上げる必要があります。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大による特例措置により、暫定定員は解除され定員20世帯の措置費収入を得ることができました。
- ・措置費、環境改善補助金等により、収入増を図り、感染対策も十分に実施できました。
- ・月別予算により適正な執行管理を行いました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
エレベーター部品交換工事	902		
購入等合計	902	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
		エレベーター部品交換工事	924
購入等合計	0	購入等合計	924
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
		事務所内電気、ネットワーク環境整備工事	730
購入等合計	0	購入等合計	730

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
世帯数	16	18	17	14	15	15	14	17	19	20	20	19	204
児童数	22	27	26	22	24	24	21	26	28	29	29	28	306
合計	38	45	43	36	39	39	35	43	47	49	49	47	510

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	生活保護受給			その他			合計	
	世帯数	児童数	計	世帯数	児童数	計	世帯数	人数
R02(2020)年度	2	2	4	8	11	19	10	23
R03(2021)年度	4	5	9	8	13	21	12	30
R04(2022)年度	7	8	15	12	20	32	19	47

令和4(2022)年度 事業報告 (母子生活支援施設)

施設名	サンライズ万世		
定員	20	世帯	緊急一時保護
			2 世帯

【事業実績】

施設利用率	96.4	%	* 目標利用率 100.0%	
入所	96.4	%		
緊急一時保護	17.8	%		
平均在所期間	1.3	年	(最長	2.1 年)
年間入所	9	世帯	28	名
年間退所	9	世帯	22	名
主な退所先	都営住宅、民間アパート			

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・一人ひとりの意思や人権を尊重し、個別自立支援計画に基づく支援を提供しました。
- ・関係機関と連携を密にし、母子が適切に課題解決に向かうよう支援しました。
- ・精神的ケアとアタッチメントを中核に据えた親子関係再構築支援を行いました。
- ・子どもの健全育成を目指し、学習支援と生活支援に努めました。
- ・共用部分のクロスを張替える等、環境整備に努めました。
- ・アフターケアを計画的に進め、相談援助や社会資源の提供等により自立を支援しました。
- ・防犯防災及び感染症対策を含めたBCP行動計画見直しと訓練を行い、利用者が安全安心に過ごせるように取り組みました。

◆ 地域社会への取組み

- ・地域児童の居場所としての施設の開放は感染症対策により休止となりました。
- ・グループ事業として8年目の同援こども学習室「ラ・スク」に取り組みました。
- ・13年目の「地域無料心理相談事業」を継続して行いました。
- ・地域のNPO法人と連携して、地域世帯へ食材を提供しフードロスに取り組みました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・相談援助や保育士養成および教員介護体験等の学生を積極的に受入れ、人材の確保と育成を図ることで、職員のスキル向上を目指しました。
- ・キャリアパスに連動した職員個別の育成計画(研修計画含む)を作成し、人材育成に努めました。
- ・ハラスメントについて職場全体で学びを深め防止に努めました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・年間利用率90%以上を目標にして、財務基盤の強化を図りました。
- ・経費全体を見直し経営のスリム化を図るとともに、新たな加算等の取得を目指しました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
共用部分クロス張替え 屋上補給水槽交換工事	1,705 710	共用部分クロス張替え	1,705
購入等合計	2,415	購入等合計	1,705
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
		屋上補給水槽交換工事	722
購入等合計	0	購入等合計	722
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
世帯数	20	20	20	20	20	20	20	19	20	18	18	20	235
児童数	37	35	35	36	37	39	39	38	40	37	37	43	453
合計	57	55	55	56	57	59	59	57	60	55	55	63	688

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	生活保護受給			その他			合計	
	世帯数	児童数	計	世帯数	児童数	計	世帯数	人数
R02(2020)年度	11	21	32	8	11	19	19	51
R03(2021)年度	13	27	40	6	9	15	19	55
R04(2022)年度	13	29	42	7	14	21	20	63

令和4(2022)年度 事業報告 (婦人保護施設)

施設名 **いこいの家**
 定員 **40** 名・世帯

【事業実績】

本入所

施設利用率	37.0 %	* 目標利用率 50.0%
平均年齢	36.0 歳	(最高 68 歳 / 最低 19 歳)
平均在所期間	0.9 年	(最長 3.2 年)
年間入所	12 名	
年間退所	9 名	

主な入所理由	DV被害による避難
主な退所理由	都営住宅および民間アパート転宅または長期入院による。

緊急一時保護

緊急のみ利用率	10.8 %	
平均年齢	36.8 歳	(最高 57 歳 / 最低 25 歳)
同伴児者平均年齢	6.7 歳	(最高 14 歳 / 最低 0 歳)
年間利用者数	52 名	

主な入所理由	夫の暴力
主な退所理由	母子生活支援施設、アパート転宅、宿所提供施設

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・利用状況について、退所・入所をスムーズに行うことができました。退所までに要する期間も平均1年と、充実した支援ができました。
- ・通院支援が前年を上回り、医療的支援が引き続き重要な位置を占めました。
- ・多職種が常に連携し利用者支援を行ったことで、組織力向上にもつながりました。
- ・就労面では、昭和郷のスケールメリットを活かし、業務委託の機会を増やすことができました。
- ・アフターケアでは、対象者数も加算基準となっており今後も力を入れていきます。
- ・昨年度から変更した施設内作業は、前年以上に利用者にとって安らぐ居場所を与え、充実した取組みとなりました。
- ・新型コロナウイルス感染防止対策も適切に実施しましたが、利用者および職員数名が罹患する結果となりました。今後も適切に対策を継続します。

◆ 地域社会への取組み

- ・地域公益活動としての同援こども学習室「ラ・スク」は、延べ115名が利用し8年目を終えることができました。
- ・東社協が主催する地域公益活動の取組みの発表に参加し、同援こども学習室を題材に広く取組みを報告することができました。
- ・フードバンク昭島と連携して、フードロス対策に取組みました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・職員育成は、専門職集団のメリットを最大限活用し、相互に学び合うことで成長につなげました。
- ・昨年度に続きオンライン研修が中心ではありましたが、計画的な参加により多くのことを学ぶ機会になりました。
- ・昨年同様、ハラスメントZEROと資質向上を踏まえ、ステークホルダーの理解推進に取り組みました。
- ・社会福祉士資格取得を目指す学生を積極的に受け入れ、福祉人材育成に貢献しました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・消耗備品等の必要性を随時見直し経費削減を図りました。
- ・東京都女性相談センターとの連携を深め、利用率向上に努めました。(R2年度27.6%、R3年度29.2%、R4年度37%)
- ・適切な職員配置による収入増を計画しましたが、採用が上手く進まず次年度の継続課題となりました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
居室床張替工事 PC(×4)	1,356 576	PC(×4)	549
購入等合計	1,932	購入等合計	549
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
		居室床張替工事	1,345
購入等合計	0	購入等合計	1,345
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
本入所	10	11	13	11	12	11	12	11	13	12	13	14	143
緊急一時	0	3	4	0	1	0	0	3	1	0	0	0	12
合計	10	14	17	11	13	11	12	14	14	12	13	14	155

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	実人員	年齢別内訳							
		~34	~39	~44	~49	~54	~59	~64	65~
R02(2020)年度	4	2	1		1				
R03(2021)年度	10	5	1	1	1	1	1		
R04(2022)年度	14	7	3		2			1	1

令和4(2022)年度 事業報告 (児童養護施設)

施設名	双葉園		
定員	双葉園	38	名
	高嶋の家(地域小規模)	6	名
	くすのき(地域小規模)	6	名
	計	50	名

昭島市子どもトワイライトステイ事業 2 名

【事業実績】

施設利用率

本園	92.2	%
高嶋の家	99.7	%
くすのき	98.8	%
計	93.9	%

* 目標利用率 100.0%

トワイライトステイ事業 5 名(年間延利用者数)

男女比率

5:5

平均年齢

11.3 歳 (最高 18 歳 / 最低 2 歳)

年間入所

6 名

年間退所

11 名

主な入所理由

虐待、養育困難

主な退所理由

家庭復帰、社会的自立

◆ 利用者支援サービスの充実

・新型コロナウイルス感染症の予防に努めたましたが、年間を通じて散発的に発症する結果となりました。発症自体は園全体ではなくユニットごとで、最終的に4分の3以上の子ども達が感染しました。子ども達も学校を一週間以上休み園内でも自室で安静にしていなければならないことなどから、かなりのストレスが見られました。リモートでの授業が増え学校行事等も縮小傾向にあったため、園内での生活状況についてはよりきめ細かく様子を見ながら支援しました。

・今年度は高校3年生がかつてないほど多く、それぞれの進路(進学、就職、家庭復帰、自立など)に向けて支援しました。また家庭に復帰する子どもや里親制度を利用し退園した子どもも多く、それぞれに自立支援計画に沿った支援を行うことができました。一方では生活面で精神的に落ち着かない子どももあり、支援会議等を重ね必要な支援体制を作りながら対応にあたりました。

◆ 地域社会への取組み

新型コロナウイルス感染症の拡大予防のため、昭島市より委託を受けているトワイライト事業の利用はほとんどありませんでした。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

・職員個々のキャリアに合った研修会等に積極的に参加しました。キャリアの若い職員集団のため、それぞれの年代で抱えている精神的・身体的な負担(子ども対応への不安、業務の多さなど)についてこまめに面談し、その軽減に努めました。ユニット化に伴う孤立感をなくすよう、連携しフォローし合える職場の雰囲気づくりに取り組みました。

・ボランティアの受け入れについては引き続き取り止めたものの、学校等からの福祉実習についてはできるだけ受け入れを行い、将来の福祉人材の育成に尽力しました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

措置費、東京都サービス推進費、補助金等の仕組みを十分理解しながら予算執行に取り組みました。光熱水費、日用品、食費等の高騰を受け、節約可能な科目、寄付等でまかなえる物品等工夫をしながら、子どもへの生活に影響がでないよう取り組みました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4~6月)		第1期(4~6月)	
厨房・消火装置更新	1,388		
購入等合計	1,388	購入等合計	0
第2期(7~9月)		第2期(7~9月)	
屋上補給水槽交換工事	692	厨房・消火装置更新	1,094
購入等合計	692	購入等合計	1,094
第3期(10~12月)		第3期(10~12月)	
PC(×5)	919	屋上補給水槽交換工事	704
購入等合計	919	購入等合計	704
第4期(1~3月)		第4期(1~3月)	
		園庭カーテンゲート入替	545
購入等合計	0	購入等合計	545

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月初人員数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男児	25	23	23	23	23	22	23	23	23	23	23	23	277
女児	23	23	24	24	24	24	25	25	25	24	25	25	291
合計	48	46	47	47	47	46	48	48	48	47	48	48	568

利用者状況推移(各年度3月1日現在)

	実人員	学年別内訳				
		幼児	小学生	中学生	高校生	その他
R02(2020)年度	49	7	15	13	14	
R03(2021)年度	49	9	17	12	11	
R04(2022)年度	48	7	20	9	12	

令和4(2022)年度 事業報告（児童厚生施設）

施設名 昭島市児童センターぱれっと

【事業実績】

年間延利用者数	34,213	名	
1日平均利用者数	103.4	名	*目標利用者数 120.0名

◆ 利用者支援サービスの充実

令和4年度も新型コロナウイルス感染症対応から新年度が始まりました。開館時間は通常に戻りましたが、利用者の安全を第一に、各行事・イベント等は縮小・中止をするものもありました。利用者の入館時には引き続き検温・マスク・消毒をお願いしました。

◆ 地域社会への取組み

行事等の開催や中止の案内、施設の利用について、市のホームページで地域に発信しました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

今年度は新型コロナウイルス感染症対策で職場環境整備を行いました。「ぱれっと」と利用者は通所施設・入所施設と違い不特定多数の方が入館するため、入館時のマスク、検温、消毒を徹底し、館内では密にならないよう工夫をしました。そのため職員一人ひとりが感染対策意識を持ち対応に力を注いだ一年でした。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

今年度も新型コロナウイルス感染症対策を行いました。昭島市と調整し委託費に変更はありませんでした。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(年間延人員数)

時間帯	未就学		小学生		中学生		高校生		児童小計	保護者小計	見学者	合計
	児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者	児童	保護者				
午前	3,785	3,439	1,175	218	307	4	120	34	5,387	3,695	814	9,896
午後	3,261	2,919	10,005	469	5,357	15	596		19,219	3,403	67	22,689
夜間	33	31	30	30	949	17	531		1,543	78	7	1,628
合計	7,079	6,389	11,210	717	6,613	36	1,247	34	26,149	7,176	888	34,213

5. 医療事業施設の経営

医療法に基づく「病院」であるとともに、社会福祉法に定める生計困難者のために、無料または低額な料金を診療を行う「無料低額診療施設」および生活保護法に基づく「医療保護施設」として適切な医療を提供しました。

令和4(2022)年度 事業報告（医療施設・医療保護施設）

施設名	昭島病院
定床	199 名

【事業実績】

病床利用率	77.8 %	* 目標利用率 83.4%
1日あたり平均患者数		
入院	154 名	* 目標患者数 166名
外来	330 名	* 目標患者数 336名
1ヵ月あたり平均救急車受入台数	79 台	* 目標受入台数 75台

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・リハビリテーション体制の充実
次年度に365日リハを実現できるよう、リハビリ人員増・管理栄養士の配置など着実に準備を進めました。
- ・新型コロナウイルス感染症防止対策の徹底
感染対策委員会を中心に職員及び患者に感染防止対策の徹底を呼びかけ感染蔓延防止に努めました。
- ・患者数(入院・外来)の増へ向けた取組み
他院とは引き続き良好な関係を保ちながら、東京都や保健所からの要請に対応し、近隣病院等からのコロナ陽性者、コロナ疑い患者、アフターコロナ患者などを積極的に受け入れました。救急車の受入れを積極的に行ったため、休日・全夜間診療事業の病床数を、1床から2床に増やすことができました。
- ・患者サービスの向上
受付対応の向上や患者に積極的に声掛けをすることで、安心して受診できるよう努めました。
- ・医療保護施設としての役割
医療保護施設として広く認識してもらえるよう院内に掲示するなど、相談しやすい環境づくりに努めました。
- ・新型コロナワクチン予防接種
昭島市、昭島市医師会の要請を受け、市民や高齢者施設の入所者への接種を積極的に実施しました。
- ・特定健康診査
混み具合により順路を変えるなど臨機応変に対応し、待ち時間の短縮に努めました。

◆ 地域社会への取組み

- ・地域包括ケアシステムの推進
昭島市・医師会等三師会・昭和郷施設・近隣事業所と協働し、担当者間の連携を図りました。
- ・災害時対応の強化
東京都の「災害拠点連携病院」として、北多摩西部医療圏の市及び関連病院とのオンライン災害訓練に参加しました。
- ・訪問診療について
次年度の訪問診療開始に向け、プロジェクトチームのミーティングを複数回開催し体制の構築に取り組みしました。

◆ 医療人材の育成と職場環境の整備

- ・働き方改革の取組み
年間を通じ看護師の採用活動を行い充足に努め、年休を取りやすくする取組みなど、働きやすい環境を作りました。また、医師の働き方改革について情報収集しました。
- ・業務に役立つ研修会の実施
リモート研修をメインに積極的に研修会に参加しました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・患者数の確保(救急患者を含む)
 入院・外来患者の目標数を達成するため、病院・診療所等からの紹介患者の受入れを積極的に行いました。また感染症協力医療機関としてコロナ患者を、後方支援病院としてコロナ感染からの回復期患者を、それぞれ積極的に受け入れました。
 ・病床稼働率の向上
 新たに地域包括ケア病床の増床を図りましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で実績づくりが延期になり実行できませんでした。引き続き実績づくりに取り組みます。
 ・経費の削減
 原材料価格の高止まりやエネルギー価格の上昇などの理由で値上げが相次ぎ思うような削減ができませんでしたが、薬価等について値段交渉をすることで、上げ幅を最小限にするなど努力しました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
遠隔読影システム	3,201	遠隔読影システム	3,190
購入等合計	3,201	購入等合計	3,190
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
超音波画像診断装置	14,080	全自動分割分包機Crestage-Nano	2,673
汎用低床診察台	1,400	高周波手術装置VI0200S	1,650
温冷蔵配膳車	5,158		
全自動分割分包機	2,673		
購入等合計	23,311	購入等合計	4,323
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
内視鏡システム	16,720	内視鏡システムnew NEXUS	16,588
全自動PH/血液ガス分析装置	1,870	全自動PH/血液ガス分析装置	1,870
尿自動分析装置	825	尿自動分析装置US-2300	792
電動ベッド	10,000	電動ベッド	9,849
		超音波画像診断装置Aplio i700	13,310
		温冷蔵配膳車FCRWDN54NA	4,508
		超音波診断装置Lumify	2,178
購入等合計	29,415	購入等合計	49,095

【施設利用状況】

患者数推移(1日あたり平均患者数)

	入院	外来
R02(2020)年度	165	322
R03(2021)年度	159	332
R04(2022)年度	154	330

減免内訳

区分		件数	金額	
入院	実人数	生活保護	82	—
		健保・国保	1	—
		計	83	—
入院	延人数	生活保護	1,679	968,465
		健保・国保	3	12,170
		計	1,682	980,635
外来	延人数	健保・国保	36	375,830
		無	25	295,910
		計	61	671,740
合計		1,826	1,652,375	

令和4(2022)年度 事業報告（訪問看護ステーション）

施設名 昭島病院訪問看護ステーション

定員 12 名

【事業実績】

1日平均利用者数	12.8	名	* 目標訪問回数 15.0回
介護保険延人数	85	名	
医療保険延人数	20	名	
計	105	名	
男女比率	4:6		
平均年齢	84.2	歳	(最高 100 歳 / 最低 25 歳)

◆ 利用者支援サービスの充実

- ・利用者の多様な生活状況や病状に合わせ、24時間体制で看護ニーズに対応しました。
- ・利用者のQOL向上に努める中で、他事業所と連携したご自宅での看取り、ターミナルケアにも力を入れました。(ターミナルケア:14名 看取り:3名)
- ・昭島病院総合支援センターと連携し、入院から在宅、在宅から入院へのスムーズな対応と調整に努めました。
- ・昭島病院外来と連携し、利用者の病状や生活状況等の情報を共有する事で、病状の変化に柔軟に対応した、個々のニーズに沿ったケアを行いました。
- ・感染防止対策を行うとともに、スタッフの健康管理を行いサービス提供が滞りなく行える体制づくりに努めました。

◆ 地域社会への取組み

- ・地域包括ケアシステムの取組みとして、昭和郷施設や近隣他事業所との連携を図るとともに会議にも積極的に参加しました。
- ・定期巡回訪問介護や小規模多機能介護センターとICTを活用した情報共有を行いました。
- ・委託契約しているグループホームでは、スタッフが安心してケアに向き合えるように利用者の体調相談や介護方法の指導を行いました。

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

- ・リモート研修を受けられる環境を整え、職員のスキル向上に努めました。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、職場内の環境整備、物品整備を行うとともに、定期的な研修を行い安心して働ける環境づくりに努めました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

- ・利用率向上に意識を持ち、受診やショートステイのため訪問を行わないことになる時は、利用者の意向を踏まえつつ、振替え訪問を行うように努めました。
- ・利用者の受け入れを増やすため、訪問予定枠の再検討を行いました。

【施設・設備整備状況】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
第1期(4～6月)		第1期(4～6月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第2期(7～9月)		第2期(7～9月)	
購入等合計	0	購入等合計	0
第3期(10～12月)		第3期(10～12月)	
軽自動車	800		
購入等合計	800	購入等合計	0
第4期(1～3月)		第4期(1～3月)	
購入等合計	0	購入等合計	0

【施設利用状況】

年間利用状況(各月月間延訪問者数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	107	108	151	146	152	146	139	165	146	144	116	134	1,654
女性	237	213	209	188	201	219	196	190	206	202	197	244	2,502
合計	344	321	360	334	353	365	335	355	352	346	313	378	4,156

6. 収益事業の経営

1. オフセット・活版印刷事業

施設名 事業局

【経営実績】

前年度からの設備投資により新規顧客からの機密案件を3件受注し、売上げ増につなげました。年間契約案件の受注ができず受注件数は減少しましたが、最終的に前年を上回る増収増益となり、社会福祉事業への繰入れを増額することができました。

◆ 人材の育成と職場環境の整備

・営業職員の教育の継続とデザイン担当職員のレベルアップに取り組みました。

◆ 財務基盤の強化へ向けた取組み

・担当顧客の見直しを行い効率的な営業を行いました。
 ・製本作業の動線を分け効率的な作業を行いました。
 ・損紙を減少させ材料費の高騰に対処しました。
 ・新規顧客との契約に向け倉庫を増床し整備しました。

【施設・設備整備計画】

(千円)

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況	
物件名(購入・工事)	金額	物件名(購入・工事)	金額
自動丁合機	5,335	自動丁合機	5,000
購入等合計	5,335	購入等合計	5,000

2. 不動産賃貸に関する事業

【経営実績】

以下の事業を行いました。

- 富士見町駐車場 / 東村山市富士見町2-7-14
旧サンホーム跡地を活用し、駐車場として経営を行いました。
- 土地賃貸業 / 新宿区原町3-8
原町ホーム東側外構の一部を、隣接マンションの緑地帯として有償貸与しました。
- 昭島病院駐車場 / 昭島市中神町1260
昭島病院敷地内で、来院者用駐車場を経営しました。
- Premier Court南青山 / 港区南青山1-17-8
旧サンライズ青山跡地を活用し、集合住宅を経営しました。(サブリース)

7. 社会貢献事業

1. 学習支援

昭島市社会福祉協議会と連携して市内の生活困窮家庭の子どもへの学習支援及び食事の提供を行いました。

概要	場所	昭和郷高齢者複合施設さくらホール
	開催日	日曜日 10時30分～15時00分 年間24回
	対象	小学3年～中学2年 13名
実績	参加延べ人数	115名(1回の平均出席者数 4.8名)
	食事の提供	24回
	講師	ボランティア:3名(社会人:1名/高校生:2名)/職員:6名 (その他外部講師:1名)
	進学状況	高校受験対象者0名(前年度実績3名)

2. 地域見守り事業「サンホーム配食」

地域高齢者に配食サービスを提供するとともに、配食時の定期的な見守りを実施しました。

概要	対象	13世帯(R5.3.31現在)
実績	配食数	2,478食
	実施日数	259日(週5日)

3. 利用者負担軽減

地域における公益的な取組みとして、低所得者世帯等に対する生活支援を行いました。

① 生活困窮者に対する利用者負担軽減額	2,196,136 円
② その他の地域における公益的な取組み	1,324,741 円

- * 2022年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、一部の活動(オンライン育児講座や養護老人ホーム利用利用者による保育園児の見守り等)を除き地域交流事業を中止しました。

8. 人材育成事業

事業内容	介護職員初任者研修(通信)
目的	介護の現場で働き始めて間もない方、またこれから介護の分野に携わろうとする方に向けて、介護の基礎的な知識・技術を習得する場を提供し、介護福祉士を目指す人材の育成を目的とし、初任者研修を行いました。
期間	2022年10月～2022年12月
内容	自宅学習 26時間 / 面接指導 104時間(17日間)
施設実習	14時間(介護実習 8時間 / 在宅サービス提供現場見学 6時間)
受講者	4名
主な会場	昭和郷高齢者複合施設 さくらホール / 昭島市中神町1260

Ⅲ 職員福利厚生制度

本年度の職員福利厚生事業は下記のように実施しました。

1. 永年勤続者表彰

10年勤続者 24名 20年勤続者 4名 30年勤続職員 5名

定年退職者表彰（定年退職前勤続10年以上の職員対象）

18名

2. 人間ドック健診の実施

40歳、50歳、60歳受診

婦人科検診の実施（35歳以上の女性職員対象）

乳がん検診、子宮がん検診受診

3. 福利厚生センター事業の利用

ソウェルクラブ年間加入者数

1種職員 879名 2種職員 174名 計 1,053名

4. 職員のメンタルヘルスケアへの取組み

職員向けカウンセリングサービス（㈱アドバンテッジリスクマネジメント）

職員ならびに家族（同居）、休職者・復帰者への支援カウンセリングを実施

相談件数 130件 利用者延べ数 69名

精神科産業医による休職者および病欠者の個別相談

個別相談利用 19名 延べ回数 38回

5. 待機児童のための一時保育室の運営 昭島市中神町1260

定員 5名

場所 昭和郷第二保育園 保育室「にほにこ」

6. 企業型「選択制」確定拠出年金制度

加入者数 395名（2023年3月現在）

IV 理事会及び評議員会

定款の定めにより、下記の理事会、評議員会を開催しました。

1. 理事会

第2回、第4回、第8回及び第9回理事会については、一部オンライン方式による対面形式にて開催し、各議案の審議を行い全議案について可決承認をいただきました。

第1回、第3回、第5回、第6回及び第7回理事会については監事並びに全理事の同意をいただき、決議省略として全理事に全議案について承認の同意をいただきました。

第1回 2022年5月18日（決議の省略による）

提案者:	飯山 幸雄				
同意者(理事):	飯山 幸雄	中島 昭	小林 一己	品川 卓正	宮崎 牧子
	西村 七重	菅原 眞廣	上原 淳	荒井 隆夫	
同意者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣			
議 事:	給与規程、臨時職員就業規則、無期臨時職員就業規則及び非常勤ヘルパー就業規則一部改正の件				

第2回 2022年6月13日 於：原町高齢者複合施設 会議室(オンライン開催) オンライン方式による出席者は*表示

出席者(理事):	飯山 幸雄	中島 昭	小林 一己	* 品川 卓正	宮崎 牧子
	西村 七重	* 菅原 眞廣	* 上原 淳	荒井 隆夫	
出席者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣	出席:理事9名/監事2名		
説明者等:	神田企画部長	魚津総務部長	山川病院事務長		
議 事:	令和3年度事業報告の件/令和3年度計算書類等の承認の件/昭島病院管理規程全部改正の件/昭島病院給与規程一部改正の件/個人情報保護規程全部改正の件/安全運転管理規程一部改正の件/施設運営規程一部改正の件/役員災害補償保険、役員賠償責任保険(D&O保険)及び雇用慣行賠償責任保険(EPL保険)契約更新の件/定時評議員会開催の件/監事監査報告及び会計監査人監査報告について/令和3年度第4回評議員会決議事項の報告について/理事長及び常務理事の職務執行状況について				

第3回 2022年8月4日（決議の省略による）

提案者:	飯山 幸雄				
同意者(理事):	飯山 幸雄	中島 昭	小林 一己	品川 卓正	宮崎 牧子
	西村 七重	菅原 眞廣	上原 淳	荒井 隆夫	
同意者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣			
議 事:	定款一部改正の件/運営規程一部改正の件/評議員会開催の件				

第4回 2022年10月17日 於：原町高齢者複合施設 会議室(オンライン開催)

オンライン方式による出席者は*表示

出席者(理事):	飯山 幸雄	中島 昭	小林 一己	* 品川 卓正	* 宮崎 牧子
	西村 七重	* 菅原 眞廣		* 荒井 隆夫	
欠席者(理事):	上原 淳		出席:理事8名/監事2名		
出席者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣			
説明者等:	神田企画部長	魚津総務部長	岡本施設部長	山川病院事務長	
議 事:	令和4年度第1次補正予算の件/法人本部運営経費及び施設間繰入れの件/給与規程、臨時職員就業規則、臨時職員就業規則(昭島病院)、臨時職員就業規則(事業局)及び無期臨時職員就業規則一部改正の件/令和4年度施設業務委託契約に関する件/会計監査人候補者推薦の件/評議員会開催の件/令和5年度採用状況について/理事長及び常務理事の職務執行状況について				

第5回 2022年11月22日 (決議の省略による)

提案者:	飯山 幸雄				
同意者(理事):	飯山 幸雄	中島 昭	小林 一己	品川 卓正	宮崎 牧子
	西村 七重	菅原 眞廣	上原 淳	荒井 隆夫	
同意者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣			
議 事:	昭島病院における磁気共鳴画像診断装置(MRI)調達にかかる契約手続きに関する件/運営規程一部改正の件				

第6回 2022年11月29日 (決議の省略による)

提案者:	飯山 幸雄				
同意者(理事):	飯山 幸雄	中島 昭	小林 一己	品川 卓正	宮崎 牧子
	西村 七重	菅原 眞廣	上原 淳	荒井 隆夫	
同意者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣			
議 事:	昭島病院における磁気共鳴画像診断装置(MRI)調達にかかる入札結果及び契約の件				

第7回 2023年1月27日 (決議の省略による)

提案者:	飯山 幸雄				
同意者(理事):	飯山 幸雄	中島 昭	小林 一己	品川 卓正	宮崎 牧子
	西村 七重	菅原 眞廣	上原 淳	荒井 隆夫	
同意者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣			
議 事:	資産運用の件				

第8回 2023年2月16日 於：原町高齢者複合施設 会議室(オンライン開催) オンライン方式による出席者は*表示

出席者(理事):	飯山 幸雄	中島 昭	小林 一己	* 品川 卓正	宮崎 牧子
	西村 七重	* 菅原 眞廣	* 上原 淳	荒井 隆夫	
出席者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣	出席:理事9名/監事2名		
説明者等:	神田企画部長	魚津総務部長	岡本施設部長	山川病院事務長	
議 事:	令和4年度第2次補正予算の件/経理規程一部改正の件/定年年齢65歳への引き上げ及び定年年齢引き上げ移行に関する取扱規程制定の件/給与規程一部改正の件/臨時職員就業規則、無期臨時職員就業規則及び無期再雇用臨時職員就業規則一部改正の件/職員人事考課規程一部改正の件/運営規程一部改正の件/小茂根福祉園通園バス雇上げ委託にかかる入札結果及び契約の件/施設長人事の件/評議員会開催の件/令和5年度採用状況について/理事長及び常務理事の職務執行状況について				

第9回 2023年3月20日 於：原町高齢者複合施設 会議室(オンライン開催) オンライン方式による出席者は*表示

出席者(理事):		中島 昭	小林 一己	* 品川 卓正	宮崎 牧子
	西村 七重	* 菅原 眞廣	* 上原 淳	荒井 隆夫	
欠席者(理事):	飯山 幸雄		出席:理事8名/監事2名		
出席者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣			
説明者等:	神田企画部長	魚津総務部長	岡本施設部長	山川病院事務長	
議 事:	令和5年度事業計画の件/令和5年度予算の件/運営規程一部改正の件/就業規則、臨時職員就業規則及び無期臨時職員就業規則一部改正の件/給与規程(昭島病院)及び無期臨時職員就業規則(昭島病院)一部改正の件/常務理事賞与の件/評議員会開催の件/令和5年度採用状況(確定)について				

※ 理事及び監事一覧 (任期:2023年6月定時評議員会まで)

理 事 長	飯山 幸雄				
常 務 理 事	中島 昭				
理 事	小林 一己	品川 卓正	宮崎 牧子	西村 七重	菅原 眞廣
	上原 淳	荒井 隆夫			
監 事	鈴木 道生	根本 昌廣			

2. 評議員会

第1回、第3回、第4回及び第5回評議員会については、一部オンライン方式による対面形式にて開催し、各議案の審議を行い全議案について可決承認をいただきました。

第2回評議員会については監事並びに全理事の同意をいただき決議省略として、全理事に全議案について承認の同意をいただきました。

第1回 2022年6月30日 於：原町高齢者複合施設 会議室(オンライン開催) オンライン方式による出席者は*表示

出席者(評議員):	* 五十嵐力平	* 本山美八郎	川向 良和	堀 茂	岡橋 生幸
		田中 康道	* 吉村 晴美	細谷 訓之	* 七島 晴仁
欠席者(評議員):	飯村 史恵		出席:評議員9名/監事2名		
出席者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣			
説明者等:	飯山 幸雄	中島 昭			
	神田企画部長	魚津総務部長	岡本施設部長	山川病院事務長	
議 事:	令和4年度第1回及び第2回理事会決議事項等について/令和3年度事業報告及び計算書類等について/監事監査報告及び会計監査人報告について				

第2回 2022年8月15日 (決議の省略による)

提案者:	飯山 幸雄				
同意者(評議員):	五十嵐力平	本山美八郎	川向 良和	堀 茂	岡橋 生幸
	飯村 史恵	田中 康道	吉村 晴美	細谷 訓之	七島 晴仁
同意者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣			
議 事:	定款一部改正の件				

第3回 2022年10月26日 於：原町高齢者複合施設 会議室(オンライン開催) オンライン方式による出席者は*表示

出席者(評議員):	五十嵐力平	本山美八郎	川向 良和	* 堀 茂	
		田中 康道	* 吉村 晴美	細谷 訓之	七島 晴仁
欠席者(評議員):	岡橋 生幸	飯村 史恵	出席:評議員8名/監事2名		
出席者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣			
説明者等:	飯山 幸雄	中島 昭			
	神田企画部長	魚津総務部長	岡本施設部長	山川病院事務長	
議 事:	令和4年度第4回理事会決議事項等について/令和4年度第1次補正予算の件/法人本部運営経費及び施設間繰入れの件/会計監査人選任の件				

第4回 2023年2月24日 於：原町高齢者複合施設 会議室(オンライン開催)

出席者(評議員):	五十嵐力平	* 本山美八郎	川向 良和	堀 茂	
	飯村 史恵	田中 康道	* 吉村 晴美	細谷 訓之	七島 晴仁
欠席者(評議員):	岡橋 生幸		出席:評議員9名/監事2名		
出席者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣			
説明者等:	飯山 幸雄	中島 昭			
	神田企画部長	魚津総務部長	岡本施設部長	山川病院事務長	
議 事:	令和3年度第5~8回理事会決議事項等について/令和4年度第2次補正予算の件				

第4回 2023年2月24日 於：原町高齢者複合施設 会議室(オンライン開催)

出席者(評議員):	五十嵐力平	* 本山美八郎	川向 良和	堀 茂	岡橋 生幸
	飯村 史恵	田中 康道	吉村 晴美	細谷 訓之	* 七島 晴仁
出席者(監事):	鈴木 道生	根本 昌廣	出席:評議員10名/監事2名		
説明者等:	飯山 幸雄	中島 昭			
	神田企画部長	魚津総務部長	岡本施設部長	山川病院事務長	
議 事:	令和4年度第9回理事会決議事項等について/令和5年度事業計画の件/令和5年度予算の件/理事の選任の件				

※ 評議員一覧 (任期:2025年6月定時評議員会まで)

評 議 員	五十嵐力平	本山美八郎	川向 良和	堀 茂	岡橋 生幸
	飯村 史恵	田中 康道	吉村 晴美	細谷 訓之	七島 晴仁

3. 評議員選任・解任委員会

開催なし

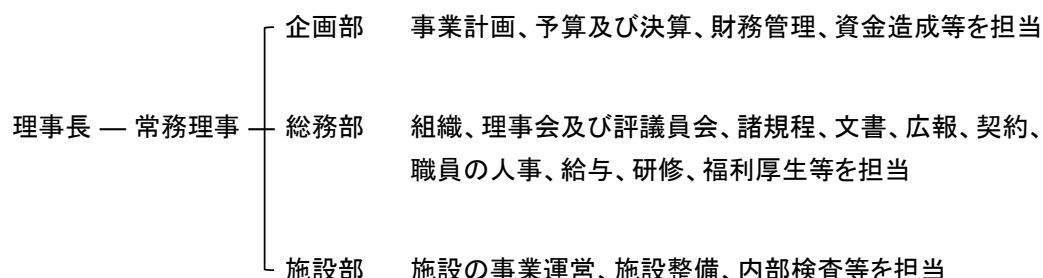
※ 評議員選任・解任委員一覧 (任期:2025年6月定時評議員会まで)

評 議 員 選任・解任委員	大江 尚樹	野村 寛	鈴木 武夫	根本 昌廣	魚津 亮太
------------------	-------	------	-------	-------	-------

V 事務局主要業務

理事長、常務理事を補佐し、本会全体に関わる各種業務の円滑な執行を図るため、企画部・総務部・施設部の三部制により業務を行いました。

1. 組織



2. 事業計画・予算等の総括

2021年度事業報告、決算等の原案、2022年度事業計画、予算及び補正予算の原案等を取りまとめ、理事会及び評議員会に提案し、承認を得ました。

3. 中長期計画の実施状況

◆ 利用者支援サービスの充実

－ 生活環境・利用環境の向上の取組み －

- ・前庭整備(つつじが丘保育園)
- ・空調設備整備(同援さくら保育園)
- ・エレベーター、受変電設備更新(障害者支援通所施設小茂根福祉園)
- ・医療機器更新(昭島病院)
- ・壁床張替(昭和郷保育園・同援さくら保育園他)
- ・送迎車輛(障害者支援通所施設東村山生活実習所・救護施設昭島荘)

◆ 福祉人材の育成と職場環境の整備

－ 給与規程の見直し －

- ・同一労働同一賃金を目指し、常勤職員である正規職員と契約職員との待遇差を明確にしました。
- ・再雇用職員及び契約職員の賞与の支給方法について、正規職員との待遇差を解消するための検討を行いました。
- ・人事考課の結果による勤勉手当の支給方法について検討しました。
- ・法人内での「副業」(時間外その他施設での勤務)について検討し、一部の施設で試験的に実施しました。

－ 生産性の向上に向けた職場環境の見直し －

- ・保育支援系グループではスマートフォンで入力できる記録管理システムを全施設で導入し、保育士の事務軽減に取り組みました。
- ・年間休日120日以上を目標に各施設での業務の見直しを行いました。
- ・長時間労働や過重労働防止対策についての周知や具体的改善方法などの情報提供を行ったほか、内部検査等でも重点的に点検し、実態の把握に努めました。

－ 福祉人材の確保 －

・都外からの就職希望者を確保するため、就職支度金を増額したほか、東北地方の養成校へ重点的に職員宿舎利用の情報提供等を行いました。
・SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)による情報発信及び採用説明動画を制作し、オンラインでの説明会を実施しました。

－ 人材の定着に向けた取組み －

・これまで一時金として支給していた処遇改善の手当を月額支給とし、職員に実感できる待遇改善を実施しました。
・職員健診の実施方法のガイドラインを作成したほか、職場内における災害予防の呼びかけを行うなど安心して就業できる環境づくりを目指しました。
・正規転換試験を実施し、10名が非常勤職員から正規職員へと転換しました。

－ 人材の育成 －

・人事考課者を対象とした考課者マネジメント研修を実施し、職員の適正に応じて個々の能力を引き出すスキルを学びました。
・管理職試験を実施しました。

◆ 法人組織・マネジメント強化

－ ガバナンスの強化・コンプライアンスの徹底 －

・内部検査で指摘が多かった職員の健診等の項目について、理解を深めるためにリーフレットや資料を作成し、各施設への周知徹底を行いました。
・個人情報保護法の改正に基づき、個人情報保護規程を改正しました。
・会計監査人の退任に伴い、新たな会計監査人を選任しました。

－ 危機管理体制の強化 －

新型コロナウイルス感染症クラスター発生施設に対して緊急事態対策室を設置し各グループと連携しながら課題解決を図りました。

－ 財務規律の強化 －

・実績に応じた予算を作成するとともに、月次予算の厳格な執行管理を行い、法人全体の財務基盤の強化に繋がりました。
・法人のスケールメリットを活かした安全で確実な資産の運用を行い資産増加に努めました。
・集合住宅賃貸事業をはじめとした不動産賃貸事業や印刷事業などの収益事業で安定的に収益を確保できたことで、財務基盤の強化に繋がりました。
・財務会計に係るチェック体制の整備を行うとともに財務管理の強化に取り組みました。
①定期的な会計監査人監査・監事監査の実施
②経理規程注解の整備
③計算関係書類に係るチェック表の見直し
④キャッシュレス化への取組み

－ 情報発信の取組み －

「広報誌」については、幅広い年代層に向けて興味を惹くキャッチコピーや小見出しなどの工夫をしながら、読みやすく魅力ある広報誌の作成に努めました。今後は本会のブランディングを意識した記事の選定を行い、本会の魅力を発信するとともに求人活動にも繋がります。

4. 指導検査・法人内部検査

① 東京都による指導検査

東京都による施設の適正運営のための指導検査は、下記により行われました。指導を受けた項目については、速やかに改善しました。

事務局	12月2日	いこいの家	12月16日
-----	-------	-------	--------

② 区市による指導検査

区市による施設の運営・サービスの実地検査は下記により行われました。指導を受けた項目については、速やかに改善しました。

ア. 板橋区

大山保育園	11月7日	同援みどり保育園	11月7日
-------	-------	----------	-------

イ. 豊島区

レジオンス巣鴨	11月9・11日
---------	----------

ウ. 杉並区

同援いぐさ保育園	11月11日
----------	--------

エ. 港区

みなと保育園	1月26日
--------	-------

③ 法人内部検査

経理規程及び内部検査実施要綱に基づき、事務局職員等による内部検査を下記のとおり実施しました。検査員からの指摘事項は速やかに改善しました。

昭島市児童センターぱれっと	6月21日	事務局	6月23日
同援はいじま保育園	6月28日	つつじが丘保育園	7月5日
ゆたか苑	7月7日	さくらんぼ	7月12日
同援さくら保育園	7月14日	大山保育園	7月21日
双葉園	7月22日	小茂根福祉園	7月27日
原町ホーム	7月28日	同援みどり保育園	9月6日
原町高齢者複合施設	9月8日	昭和郷保育園	9月13日
フジホーム	9月20日	いこいの家	9月27日
万世敬老園	9月29日	ニューフジホーム	10月4日
昭和郷高齢者複合施設	10月25日	さいわい福祉センター	10月27日
同援いぐさ保育園	10月31日	ひかり苑	11月1日
サンホーム	11月8日	さやま園	11月10日
サンライズ武蔵野	11月15日	むさしの保育園	11月17日
昭島荘	11月22日	昭島病院	11月29日
みなと保育園	12月16日		

④ 会計監査人監査

定款第19条の定めにより、5月25日に、会計監査人による法人の計算書類(貸借対照表、資金収支計算書及び事業活動計算書)並びにこれらの付属明細書及び財産目録の監査結果について報告が行なわれ、監査の結果は適正であると認められました。(無限定適正意見)

⑤ 監事監査

監事による監査は、法人事務局並びに昭島病院・事業局について月1回定期的に行われ、施設についても下記のとおり実施されました。指摘を受ける事項は認められませんでした。助言等を運営改善に活かしました。

なお、6月2日に定款第18条の定めにより法人の事業報告書及びその付属明細書、計算書類(貸借対照表及び収支計算書)及びその付属明細書並びに財産目録の監査が行われ、監査の結果は適正であると認められました。

利用者預り金関係

6月13日・6月15日

サンライズ武蔵野	いこいの家	双葉園
万世敬老園	フジホーム	ニューフジホーム
原町ホーム	ゆたか苑	ひかり苑
昭島荘	さやま園	さくらんぼ
アミニティ富士見	レヂオンス巣鴨	

施設運営関係

同援はいじま保育園	6月28日	つつじが丘保育園	7月5日
原町ホーム	7月28日	いこいの家	9月27日
サンホーム	11月8日	サンライズ武蔵野	11月15日

VI 施設長会及び各種委員会

1. 施設長会議

原則として、毎月第1水曜日に、事務局からの報告、連絡及び提案等の協議を行うための施設長会議を開催しました。

第1回 2022年4月6日 於：オンライン開催

- ・役員会(2022.3.17/3.30)報告
- ・2022年2月分 月次実績報告(施設・病院)
- ・2022年度事業計画と当初予算について
- ・職員採用(2023年度採用希望人数、障がい者雇用の推進、新規採用者対応)について
- ・2022年度各委員会名簿、事務局企画部・総務部施設担当について

第2回 2022年5月11日 於：オンライン開催

- ・2022年3月分 月次実績報告(施設・病院)
- ・新型コロナウイルス感染症対応等によるメンタルサポートについて
- ・職員紹介制度の活用について
- ・従業員メンタルヘルスケア状況、職場ハラスメント相談窓口の設置及び相談状況について

第3回 2022年6月1日 於：オンライン開催

- ・2021年度事業報告/決算報告
- ・夏季賞与・有給休暇及びリフレッシュ休暇について
- ・正規職員離職率、障害者雇用について/規程等の改正/給与明細等の電子化について
- ・業務中のマスク着用等基本感染対策

第4回 2022年7月6日 於：オンライン開催

- ・役員会(2022.5.18/6.13/6.30)報告
- ・2022年5月分 月次実績報告(施設・病院)
- ・規程の改正(安全運転管理規程、個人情報保護規程)について
- ・長時間労働防止及び時間外労働の適正な取扱いについて
- ・職員の事故防止対策/ストレスチェックの実施/安全推進者・衛生管理者等の選任について

第5回 2022年9月7日 於：オンライン開催

- ・役員会(2022.8.4/8.15)報告
- ・2022年7月分 月次実績報告(施設・病院)
- ・「TOKYO介護施設+Safe協議会」への参画について
- ・2023年度4月採用内定状況について/管理職試験・正規転換試験の実施について
- ・職員メンタル不調の対応について
- ・定年退職者・永年勤続者表彰実施及び特別休暇取得について

第6回 2022年10月5日 於：オンライン開催

- ・2022年8月分 月次実績報告(施設・病院) / ガス・電気料金の推移
- ・人事関係(職員募集・2023年4月採用内定者状況・異動・正規転換等)について
- ・新型コロナウイルス感染症特別臨時手当について/通勤手当の適切な支給について
- ・ストレスチェックの受検結果と活用方法について/職員の業務災害(事故)報告について
- ・荒天時の施設運営と職員の勤務について

第7回 2022年11月2日 於：オンライン開催

- ・役員会(2022.10.17/10.26)報告
- ・2022年9月分 月次実績報告(施設・病院)
- ・給与規程、就業規則等の一部改正について
- ・2022年度第1次補正予算について
- ・賞与(冬季)支給について
- ・2023年度4月採用内定者数について

第8回 2022年12月7日 於：オンライン開催

- ・2022年10月分 月次実績報告(施設・病院)
- ・感染症予防対策の強化、感染症報告の変更点について
- ・年末年始における施設運営管理について
- ・職員の健康管理の徹底について
- ・職員の自転車運転安全指導について

第9回 2023年1月11日 於：オンライン開催

- ・2022年11月分 月次実績報告(施設・病院)
- ・就業規則及び給与規定等の改正案について
- ・2023年度所定労働時間/有給休暇の義務化について
- ・2023年度採用内定者研修について
- ・企業型確定拠出年金の加入・運用について
- ・職員の業務災害予防の取組みについて

第10回 2023年2月2日 於：オンライン開催

- ・2022年12月分 月次実績報告(施設・病院)
- ・ハラスメント防止と適切な業務指導について
- ・安全衛生管理基本計画について/2023年度自転車保険申込について
- ・社会保険等手続き等の電子申請の全施設導入について
- ・2023年度4月採用内定者数/2024年度4月採用関係日程について
- ・2023年度事業計画・当初予算ヒアリング日程について

第11回 2023年3月1日 於：オンライン開催

- ・役員会(2022.11.22/11.29/2023.1.27/2.16/2.24)報告
- ・2023年1月分 月次実績報告(施設・病院)
- ・給与規程等各規則の改正について
- ・新型コロナウイルス感染症のマスク着用等対応について
- ・辞令交付、定年退職者表彰等の日程について
- ・2023年度施設長等の人事異動/2023年度4月採用内定者数について
- ・2022年度第2次補正予算について
- ・職員の「心理的安全性」について

2. 各種委員会

2022年度事業計画の定めにより、下記の委員会を設け業務を遂行しました。

(1) 総合企画委員会

委員： ○ 神田 祐一 魚津 亮太 岡本 勝巳 山川 浩一
唐澤 江里子 浅見 文隆 荒井 隆夫 田代 秀之

本会の事業全般にわたる企画、立案、計画等基本的な事項について調査、審議しました。総合企画委員会については本会の重要事項について議論し、理事長へ意見を進達する機関としました。また他の委員会の所掌事務について必要な進行管理を行いました。

第1回 2022年4月6日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・役員会(2022.3.17/3.30)報告
- ・2022年2月分 月次実績報告(施設・病院)
- ・2022年度事業計画と当初予算について
- ・2022年度各委員会名簿、事務局事務分掌について

第2回 2022年5月11日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・2022年3月分 月次実績報告(施設・病院)
- ・給料明細書の電子化について
- ・従業員メンタルヘルスケア状況、職場ハラスメント相談窓口の設置及び相談状況について
- ・グループ別事業計画(進行管理表)について

第3回 2022年6月1日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・2021年度事業報告/決算報告
- ・給与規程、就業規則等の改正について
- ・賞与(夏季)の支給について
- ・正規職員離職率、障害者雇用について

第4回 2022年7月6日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・役員会(2022.5.18/6.13/6.30)報告
- ・2022年5月分 月次実績報告(施設・病院)
- ・規程の改正(安全運転管理規程、個人情報保護規程)について
- ・一時会計監査人の選定について
- ・長時間労働防止及び時間外労働の適正な取扱いについて
- ・ユニセフウクライナ緊急募金について

第5回 2022年9月7日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・役員会(2022.8.4/8.15)報告
- ・2022年7月分 月次実績報告(施設・病院)
- ・本会における生産性の向上と職員の働き方の変革についての提言
- ・ガス・電気料金高騰の推移

第6回 2022年10月5日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・2022年8月分 月次実績報告(施設・病院)
- ・同一労働同一賃金について
- ・定年制延長について
- ・施設整備進捗状況について

第7回 2022年11月2日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・役員会(2022.10.17/10.26)報告
- ・2022年9月分 月次実績報告(施設・病院)
- ・2023年度以降採用活動の事業計画案について/東北地域採用説明会の実施について
- ・収益事業について
- ・2022年度第1次補正予算について
- ・賞与(冬季)について

第8回 2022年12月7日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・2022年10月分 月次実績報告(施設・病院)
- ・就業規則及び給与規定等の改正案について
- ・社会保険等手続き等の電子申請の全施設導入について

第9回 2023年1月11日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・2022年11月分 月次実績報告(施設・病院)
- ・就業規則及び給与規程等の改正案について
- ・職員の業務災害予防の取組みについて

第10回 2023年2月2日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・2022年12月分 月次実績報告(施設・病院)
- ・ハラスメント防止と適切な業務指導について
- ・安全衛生管理基本計画について
- ・2023年度4月採用内定者数/2024年度4月採用関係日程について

第11回 2023年3月1日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・役員会(2022.11.22/11.29/2023.1.27/2.16/2.24)報告
- ・2023年1月分 月次実績報告(施設・病院)
- ・給与規程等各規則の改正について
- ・新型コロナウイルス感染症のマスク着用等対応について
- ・2023年度4月採用内定者数について
- ・2022年度第2次補正予算について

(2) 人事委員会

委員： ○魚津 亮太 神田 祐一 岡本 勝巳
唐澤 江里子 浅見 文隆 荒井 隆夫 田代 秀之
(グループ長からは理事長の指名する2名)

施設の幹部職員の任用・降格、職員の表彰・懲戒、採用、人材育成等、人事に関する必要事項を審議しました。

第1回 2022年5月25日

・就業規則 服務規律に反する行為 酒気を帯びての勤務について
けん責 1名

(3) 規程整備委員会

委員： ○魚津 亮太 山川 浩一
阿部 英子 柴田 聖子 工藤 かおる 山脇 啓子
田中 啓史 坂本 吉宏 渡邊 朝紀 倉井 絵理子 佐藤 孝夫

本会の組織、人事、給与及びその他諸制度に関する規程について検討し整備しました。

第1回 2022年4月22日 於：フジホーム 憩いの広場

・就業規則及び給与規程等の改正について
・人事考課者研修について
・月額9,000円相当の処遇改善の実施について
・定年制延長について
・同一労働同一賃金について

第2回 2022年5月27日 於：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール

・月額9,000円相当の処遇改善の実施について
・定年制延長について
・同一労働同一賃金について
・契約職員の再編について

第3回 2022年7月12日 於：原町高齢者複合施設 旧原町デイサービスセンター

・5月18日及び6月13日理事会報告
・同一労働同一賃金について(社労士解説)
・定年制延長について
・給与規程等事務取扱の作成について

第4回 2022年9月9日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・職員処遇改善手当の規程変更について
- ・最低賃金の改正について
- ・同一労働同一賃金について
- ・契約職員の人事考課について

第5回 2022年10月14日 於：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール

- ・理事会提出議案について
- ・定年制延長について
- ・再雇用職員への賞与の支給について
- ・人事考課規程及び要綱の改正について

第6回 2022年11月18日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・定年制延長について
- ・人事考課の評価反映時期の変更について
- ・同一労働同一賃金について
- ・運転手手当の創設について

第7回 2022年12月23日 於：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール

- ・理事会提出議案について
- ・契約職員の賞与の支給方法について
- ・定年制延長及び再雇用職員の賞与の支給について
- ・職員人事考課規程の改正について

第8回 2023年1月20日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・理事会提出議案について
- ・ハラスメントに関する規程の整理について
- ・新型コロナウイルス感染症対応要綱の改正について
- ・次年度事業計画について

第9回 2023年2月17日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・就業規則及び給与規程等の改正についての概要
- ・職員処遇改善手当の改正について
- ・職員人事考課実施要綱の改正について
- ・母性健康管理の措置について

第10回 2023年3月17日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・就業規則及び給与規程等の改正についての概要
- ・処遇改善年度末一時金について
- ・職員処遇改善手当について
- ・新型コロナウイルス感染症対応要綱の特別臨時手当について

(4) 研修委員会

委員： 魚津 亮太
○ 鎌田 弘道 鈴木 円香 清水 淳子 川村 純子 小金澤 康哲
山口 慎二 山下 修平 宮本 浩史 河野 直樹 内田 憲
福田 恭子 坂本 吉宏

本会職員の研修に関し、企画・実施しました。

第1回 2022年4月18日 於：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール

- ・年間の研修予定と分担の確認
- ・新任研修(2022.3)／メンタルトレーニング研修①の振り返り
- ・(オンライン)基礎研修の内容確認／考課者マネジメント研修の年間予定
- ・(オンライン)上級研修の必須項目と選択項目の調整(eラーニング)、理事長メッセージ動画の撮影

第2回 2022年5月27日 於：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール

- ・(オンライン)基礎研修／上級研修①の講師所感と振り返り
- ・(オンライン)中堅研修／施設マネジメント研修の内容確認
- ・考課者マネジメント研修①の振り返りと次回②(6月)の内容確認

第3回 2022年7月28日 於：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール

- ・(オンライン)中堅研修／施設マネジメント研修の振り返り
- ・上級研修のeラーニング受講状況／管理者画面の仕様について
- ・プレゼンテーション能力向上研修／新任フォローアップ研修／片付け研修のスケジュール確認

第4回 2022年8月12日 於：オンライン開催

- ・プレゼンテーション能力向上研修／新任フォローアップ研修／新任研修の内容確認

第5回 2022年8月19日 於：オンライン開催

- ・片付け研修の内容確認
- ・考課者マネジメント研修②の振り返りと次回③(8月)／④(10月)の内容確認

第6回 2022年11月4日 於：フジホーム 憩いの広場

- ・プレゼンテーション能力向上研修／片付け研修／新任フォローアップ研修の振り返り
- ・メンタルトレーニング研修②の振り返りと次回③(2月)の内容確認
- ・上級研修②③のeラーニング受講状況
- ・次年度の「研修デザイン」、研修計画の検討

第7回 2022年12月14日 於：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール

- ・上級研修①～③の振り返りと上級研修のフォローアップ研修の検討
- ・新任研修の内容確認(法務省矯正研修所の見学等)
- ・考課者マネジメント研修③④の振り返りと次回⑤(12月)の内容確認
- ・次年度の「研修デザイン」、研修計画の検討

第8回 2023年1月20日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・新任研修の内容確認、法務省矯正研修所見学の準備状況
- ・メンタルトレーニング研修③の内容確認
- ・次年度の「研修デザイン」、研修計画の最終確認

第9回 2023年2月10日 於：オンライン開催

- ・メンタルトレーニング研修③の振り返り
- ・新任研修の内容確認
- ・上級研修のフォローアップ研修の実施と分担について

第10回 2023年3月3日 於：原町ホーム 集会室

- ・考課者マネジメント研修⑤⑥の振り返りと次年度の展望(内容/日程/グループ分け等)
- 考課者マネジメント研修後の2024年度フォローアップ体制の検討
- ・法務省矯正研修所見学(新任研修)の内容確認

2022年度 法人研修実績

実施日	研修概要	目的
<p>4月18日(月) 09:30～11:30</p>	<p>課題別「メンタルトレーニング研修①」 会場：日本教育会館 8階(第2会議室) 対象：新卒採用職員等 参加：46名 内容： ・強くしなやかな心の創り方 ・FLOWな状態、自分の心の価値 ・FLOW Do It(ご機嫌よくやるべきことをやる) 講師：(株)エミネクロス スポーツドクター 辻 秀一 氏</p>	<p>・日常のストレスから回避できるセルフコントロール方法を取得する。 ・パフォーマンスを最大化するメンタルトレーニングを学ぶ。 ・仕事のモチベーションアップを図る。 ・セルフマネジメントと組織力向上を図る。</p>
<p>4月21日(木) A班 09:30～12:30 B班 14:00～17:00</p>	<p>階層別「考課者マネジメント研修①」 会場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対象：人事考課者・人事考課者に準ずる職員 参加：68名 内容： ・人事評価と人の成長、組織の成果 ・「人材力」「組織力」「関係力」 ・チームビルディングマネジメント 講師：(株)百人隊長 社会保険労務士 平井 利宗 氏</p>	<p>・人事評価は人の成長と組織(チーム)の成果を育むマネジメントシステムであることを理解する。 ・価値観の相違(人材力)、目的や目標(組織力)、内発支援型コミュニケーション(関係力)のフィードバックスキルを高める。</p>
<p>5月19日(木) 14:00～17:00</p>	<p>階層別「基礎研修」 開催：オンライン 対象：1級職員・非常勤職員等 参加：32名 内容： ・社会福祉法人に求められる役割、背景 ・コミュニケーションとは？ ・LIFOの自己診断における強みの確認 講師：(株)ビーコンラーニングサービス 井口 和之 氏</p>	<p>・自職場の役割認識、業務を円滑に遂行する「報連相」とコミュニケーションスキルの向上を図る。 ・人は必ずバイアス(信念、意見、心的態度、先入観等)の影響を受ける。自身と他者がどのようなバイアスを持っているか、自己理解と他者理解を促進する。</p>

実施日	研修概要	目的
<p>— 第1回目 — 5月26日(木) 10:00～17:00</p>	<p>階層別「上級研修」(全3回) 対 象：3級職員・主任・副主任</p> <p>会 場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 参 加：21名 内 容： ・環境変化への対応と業務遂行 ・MDCVSの考え方と実践 ・リーダーシップの鍛え方</p>	<p>・eラーニングを活用した反転学習 ・上級職員として法人、施設の理念と目標を実現するための環境整備につなげる。 ・自身の役割の認識と、メンバーや他部署へ働きかけができるリーダーシップを身につける。</p>
<p>— 第2回目 — 9月22日(木) A班 09:30～12:30 B班 14:00～17:00</p>	<p>開 催：オンライン 参 加：21名 内 容： ・働き方改革のアプローチ(ハーツバーグ欲求説) ・セルフエスティームとエンゲージメント ・心理的な安全と安心</p>	
<p>— 第3回目 — 12月8日(木) 10:00～17:00</p>	<p>会 場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 参 加：21名 内 容： ・反転学習とは ・人材育成と指導の視点 ・グロー(GROW)モデルのロールプレイ ・コーチとしての自己点検とトレーニングのコツ</p> <p>講 師：(株)ビーコンラーニングサービス 井口 和之 氏</p>	

実施日	研修概要	目的
6月16日(木) A班 09:30~12:30 B班 14:00~17:00	階層別「考課者マネジメント研修②」 会場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対象：人事考課者・人事考課者に準ずる職員 参加：65名 内容： ・人の行動にはすべて目的がある ・人間の関心や欲求は多種多様である ・考課者の価値観に左右されない評価をするために 講師：(株)百人隊長 社会保険労務士 平井 利宗 氏	・組織は多様な価値観の集合体であり、人の関心・欲求の相違を学ぶ。 ・考課者の陥りやすいヒューマンエラーの体系を知る。
6月23日(木) 14:00~17:00	階層別「中級研修」 開催：オンライン 対象：2級職員・非常勤職員等 参加：28名 内容： ・環境変化への対応と業務遂行 ・中堅職員に期待される5つの役割 ・チームの定義とチームワークのポイント 講師：(株)ビーコンラーニングサービス 井口 和之 氏	2級職員として、チームリーダーを補佐する役割を認識し、職場における業務を円滑に進めるための視点の啓発とスキルを向上する。
7月21日(木) 09:30~16:30	課題別「施設マネジメント研修」 会場：日本教育会館 8階(第2会議室) 対象：2級及び3級職員・非常勤職員等 参加：25名 内容： ・社会福祉法人を取り巻く環境と役割 ・ハラスメント発生のメカニズム ・自施設のリスクの洗い出しと対応策 ・人材育成の必要性和活性化された職場 講師：(株)ビーコンラーニングサービス 山下 浩 氏	・ハラスメント予防及びリスクマネジメントを通して人材育成のポイントを学ぶ。 ・ガバナンス上でのコンプライアンスの位置づけと背景を理解する。 ・自法人・自施設におけるコンプライアンスの定着度合いと求められるコンプライアンスを理解する。
8月25日(木) A班 09:30~12:30 B班 14:00~17:00	階層別「考課者マネジメント研修③」 開催：オンライン 対象：人事考課者・人事考課者に準ずる職員 参加：65名 内容： ・「目的」と「目標」の違いと組織力 ・個人と組織の目的・目標のワーク 講師：(株)百人隊長 社会保険労務士 平井 利宗 氏	・組織における目的と目標の違いを通して組織力を学ぶ。 ・部下の成果を評価できる考課者のスキルアップを図る。

実施日	研修概要	目的
9月15日(木) 09:30~16:30	課題別「プレゼンテーション能力向上研修」 会場：日本教育会館 8階(第2会議室) 対象：1級職員・非常勤職員等 参加：18名 内容： ・自己紹介スピーチ(現状把握と課題発見) ・目的の明確化、聴衆分析、興味を引く内容の作り方 ・プレゼンテーションの基本スキルと実践 講師：(株)クレスコ・パートナーズ 若林 郁代 氏(他2名)	・プレゼンテーションの目的を明確にし、相手に合わせ、説得ではなく納得させるプレゼンテーションスキルを身に付ける。 ・日常業務の申し送りや会議等の場面で、情報を分かり易く簡潔に、かつ興味深く伝えるスキルを身に付ける。
10月7日(金) A班 09:30~12:30 B班 14:00~17:00	階層別「考課者マネジメント研修④」 会場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対象：人事考課者・人事考課者に準ずる職員 参加：52名 内容： ・組織力で成果を出す ・目的・目標ワークの振り返りと共有 ・ポジティブアプローチの振り返りと共有 講師：(株)百人隊長 社会保険労務士 平井 利宗 氏	チームビルディングマネジメントを実践しながら継続的に成果を出す上で重要となる「組織力」と、組織の目的・目標について学ぶ。
②10月17日(月) 09:30~11:30 ③2月2日(木) 13:30~16:30	課題別「メンタルトレーニング研修②③」 会場：日本教育会館 8階(第2会議室) 対象：メンタルトレーニング研修受講者 参加：②28名／③15名 内容： ・強くなやかな心の創り方 ・自分の感情に気づき、ご機嫌の価値を知る ・機嫌よく過ごす＝FLOWな状態を創る 講師：(株)エミネクロス スポーツドクター 辻 秀一 氏	H30年度からR3年度のメンタルトレーニング研修受講者を対象に、実践してきた自己のパフォーマンスの最大化と仕事のモチベーションアップの取組みのフィードバックを行う。
10月17日(月) 13:30~16:30	課題別「片付け研修」 会場：日本教育会館 8階(第2会議室) 対象：全職員 参加：41名 内容： ・整理整頓はあなたの職場を劇的に変える！ ・仕組み化と習慣化、整理の4つのステップ ・確実に成果を得る3ステップ 講師：(株)スッキリ・ラボ 片付け士 小松 易 氏	片付けを通して、安全に作業の効率化を図ること、チームのコミュニケーションを活性化させることを学び、仕事の質の向上につなげる。

実施日	研修概要	目的
10月18日(火) 09:30~16:30	階層別「新任フォローアップ研修」 会場：日本教育会館 8階(第2会議室) 対象：2022年度新卒採用職員 参加：47名 内容： ・20秒スピーチ(名前・今の思いを一文字で紹介) ・職場でのコミュニケーションの振り返り ・自己管理と仕事で大切なこと 講師：(株)クレスコ・パートナーズ 栗原 道子 氏(他2名)	配属後約7カ月の職場での自身を振り返り、現在の自分自身の棚卸しを行うとともに、次のステップへ向けた目標設定を行う。
12月15日(木) A班 09:30~12:30 B班 14:00~17:00	階層別「考課者マネジメント研修④」 会場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対象：人事考課者・人事考課者に準ずる職員 参加：52名 内容： ・質問力と傾聴力&コーチングスキル ・やる気と内発性を引き出すGROWモデルとは ・人事考課制度を成功へ導く関係力とは 講師：(株)百人隊長 社会保険労務士 平井 利宗 氏	リーダーとしてチームのやる気を引き出し成果につなげる「関係力」を学ぶ。
2月16日(木) A班 09:30~12:30 B班 14:00~17:00	階層別「考課者マネジメント研修⑥」 会場：昭和郷高齢者複合施設 さくらホール 対象：人事考課者・人事考課者に準ずる職員 参加：52名 内容： ・人の強みを活かすリーダーシップ ・承認とフィードバック ・内発的な支援を実現するコーチング 講師：(株)百人隊長 社会保険労務士 平井 利宗 氏	施設の目的・目標と、そこで働く個人のキャリアや目標との交わりをいかに見出していくか、各参加者の考え方や視点を共有する。

実施日	研修概要	目的
<p>— 第1回目 — 3月6日(月) 09:30～16:30</p> <p>— 第2回目 — 3月7日(火) 09:30～16:30</p> <p>— 第3回目 — 3月10日(金) 09:30～16:30</p>	<p>階層別「新任研修」(全3回) 対 象：2023年度新卒採用者・正規転換職員</p> <p>会 場：日本教育会館 8階(第1会議室) 参 加：42名(新卒27名／正規転換15名) 内 容： ・ビジネスコミュニケーションとしてのマナーの重要性 ・身だしなみの考え方、チェックリスト ・ビジネスコミュニケーションスキルを磨く</p> <p>講 師：(株)クレスコ・パートナーズ 栗原 道子 氏(他2名)</p> <p>会 場：日本教育会館 8階(第1会議室) 参 加：40名(新卒25名／正規転換15名) 内 容： ・仕事の進め方(G-PDCAサイクルの明確化) ・訪問・来客マナー、施設訪問をイメージした実践</p> <p>講 師：(株)クレスコ・パートナーズ 栗原 道子 氏(他2名)</p> <p>会 場：AM)昭和郷高齢者複合施設 さくらホール PM)法務省矯正研修所 参 加：40名(新卒25名／正規転換15名) 内 容： ・職員の心得と諸規程について ・昭和郷と法務省矯正研修所の見学</p> <p>講 師：東京都同胞援護会 役職員 法務省矯正研修所 総務課長 小野 史博 氏</p>	<p>・学生からビジネスパーソンへの意識改革を図り、基礎力を習得する。 ・組織人としてあるべき行動、基本的ビジネスマナースキルを体得する。</p> <p>・基礎力を定着させ応用力を身に付ける。 ・報告連絡相談、訪問来客対応マナーを体得する。</p> <p>・職員の諸規程を理解する。 ・感染予防、腰痛予防を学ぶ。 ・法務省矯正研修所見学 出所者が犯罪に至った経緯と生活歴を深く理解して、今後の利用者支援につなげる。</p>
<p>3月16日(木) 15:00～16:40</p>	<p>階層別「上級研修アフターフォロー研修」 開 催：オンライン 対 象：上級研修受講者 参 加：20名 内 容： ・グループディスカッションと発表</p> <p>講 師：東京都同胞援護会 研修委員(6名)</p>	<p>3回目の研修で設定したグループ課題について、各施設での取組みを共有することで相乗効果を図り、自施設の施設マネジメントに活用する。</p>

2022年度 グループ別研修実績

・高齢者支援系

実施日	研修概要	目的
10月12日(水) ～12月16日(月)	介護職員初任者研修 開催：自宅学習26H、面接指導104H、実習14H 参加：4名 講師：本会職員	無資格の介護職員のレベルアップを図る。
2月20日(金) 15:30～17:00	中堅職員研修 開催：オンライン 参加：12名 講師：駒沢女子大学非常勤講師 永久 理恵 氏	行政による実地検査に対応するため、必要な知識を習得し、書類の管理方法等について学ぶ。
3月15日(水) 15:00～17:00	フレッシュマン研修 開催：オンライン 参加：4名	他施設の職員と交流を図り、自施設の取組みに活かす。
3月16日(金) 15:00～17:00	生活相談員等研修 開催：オンライン 対象：生活相談員、介護長、ケアマネージャー等 参加：15名	現在使用している介護ソフトをより効果的に活用するために情報の共有を図る。

・障害者支援系

実施日	研修概要	目的
7月30日(土) 8月20日(土) 10:00～17:00	新任職員接遇研修 会場：立川福祉作業所 対象：新任職員 参加：21名	基本的な接遇マナー、ビジネスマナー、コミュニケーション技法を学ぶ。
1月～3月	接遇マナー／メンタルケア研修 開催：オンライン 対象：全職員	・接遇マナーの重要性を全職員が学びサービスの質の向上を図る。 ・ストレスの構造を理解し、長引くコロナ禍におけるストレスの解消法を学ぶ。
通年	各種オンライン研修 会場：各施設 対象：全職員	オンライン研修を活用し、各職種における専門スキルの向上を図る。
通年	障害者虐待防止研修 会場：各施設 対象：全職員 講師：職員	グループ目標に掲げた虐待防止の取組みの強化を図り、身体拘束ゼロを目指す。

・保育支援系

実施日	研修概要	目的
4月16日(土) 9:30～11:00	「保育の基礎・危機管理の基礎」 会場：杉並区方南会館 参加：90名 講師：(株)アイギス 脇 貴志 氏	新任職員、経験の浅い職員を中心に保育園での危機管理の考え方や社会人としての基本について学ぶ。
6月11日(土) 9:30～11:30	「発達多様性の理解と支援」 開催：オンライン 参加：129名 講師：(一社)星と虹色な子どもたち代表 明星大学社会学部教授 星山 麻木 氏	子ども一人ひとりの特性を理解し、保育者が場面に応じた支援をするために大切なことを学ぶ。

・児童・女性支援系

実施日	研修概要	目的
5月20日(金) 14:00～15:00	ハラスメント研修 対象：全職員 参加：25名 講師：本会総務部 部長 魚津 亮太 氏	ハラスメントの定義と本会での事例をもとに理解を深め、日常的な高い意識と行動及び適切な人材育成と指導につなげる。
7月15日(金) 10:00～11:30	児童虐待防止研修 対象：全職員 参加：53名 講師：地域コミュニティ助産院こもれび家 助産師 高木 静 氏	日本で初めて望まぬ妊娠などにより生まれた子の命を守る「こうのとりのゆりかご」の立ち上げメンバーとして活躍した講師の経験から、子どもの福祉と女性の抱える課題を学び支援に活かす。
11月7日(月) 12:30～14:00	辞令検討研修 対象：全職員 参加：17名 講師：メンタルクリニックやまねこ 医師 田中 哲 氏	こどもの心の発達と支援について事例を通して学ぶ。

(5) 広報委員会

委員： 神田 祐一
○大堀 茂美 大越 亜紀子 小堀 和子 河野 雄太 浅見 友博
工藤 かおる 柿木 崇 本間 仁 池田 康子 原田 裕子
森田 学

第1回目は対面での会議を行いました。以降は感染対策の為にオンラインでの会議を主として行いました。また校正は委員各自で行い、委員長が取りまとめて入稿する形を取り、予定通りに発行することができました。

同援だよりの発行	フレッシュマン号(191号)	2022年 6月 1日
	盛夏号(192号)	2022年 7月15日
	秋季号(193号)	2022年 10月25日
	新春号(194号)	2023年 1月 5日

第1回 2022年4月27日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

・年間計画について
・フレッシュマン号の内容とスケジュールの確認

第2回 2022年6月9日 於：オンライン開催

フレッシュマン号の振り返り／盛夏号の内容とスケジュールの確認

第3回 2022年8月8日 於：オンライン開催

盛夏号の振り返り／秋季号の内容とスケジュールの確認

第4回 2022年9月28日 於：オンライン開催

秋季号の振り返り／新春号の内容とスケジュールの確認

(6) リスクマネジメント委員会

委員： ○岡本 勝巳
野田 泉子 川村 純子 池田 清彦 薄井 正和 山田 卓磨
山中 誠一 三瓶 達也 飯島 一憲 宮崎 明美 川畑 亮介

施設運営におけるリスクマネジメントについて検討し改善しました。

第1回 2022年4月27日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

・2022年度重点項目確認について
・Office365進捗状況／Windowsアップデート／電子申請について
・新型コロナウイルス感染症・災害対策BCPIについて

第2回 2022年5月30日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

・DXインフラ基盤 (office365)／Office365切替後の取組み／Windowsアップデートについて

第3回 2022年6月22日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・メール切替進捗状況について
- ・電子申請について
- ・エモテットについて
- ・新型コロナウイルス感染状況について

第4回 2022年7月20日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・Office365スケジュール／Windowsアップデートについて
- ・電子申請について
- ・エモテットについて
- ・新型コロナウイルス感染状況について

第5回 2022年8月24日 於：オンライン開催

- ・メール切替進捗状況について
- ・新型コロナウイルス感染状況について

第6回 2022年9月27日 於：オンライン開催

- ・メール切替進捗状況について

第7回 2022年10月24日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・メール切替進捗状況について
- ・ネットワーク機器更改／DXインフラ基盤構築について
- ・障害者施設の不適切ケアについて

第8回 2022年11月24日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・Microsoft Teamsの活用方法について
- ・メール切替進捗状況について

第9回 2022年12月21日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・ネットワーク機器更改について
- ・メールの利用方法(旧アカウントの削除方法／施設アドレスの仕分けルールの設定等)について

第10回 2023年1月25日 於：原町高齢者複合施設 地域交流室

- ・次年度DX構築事業計画について
- ・Microsoft Teamsの活用方法について
- ・安全運転講習会について
- ・新型コロナウイルス感染状況について

第11回 2023年2月28日 於：オンライン開催

- ・今後の方針、ロードマップについて
- ・Microsoft Teamsの共有について

VII 業務の適正を確保するための体制及びその運用状況の概要

本会は、2017年6月12日開催の理事会において、理事の職務執行が法令・定款に適合すること及び業務の適正を確保するための体制の整備に関し、法令に基づき「内部管理体制の基本方針」を決定しており、その内容は次のとおりです。

1. 経営に関する管理体制
2. リスク管理に対する体制
3. コンプライアンスに関する管理体制
4. 監査環境の整備（監事の監査業務の適正性を確保するための体制）

基本方針に準拠するために、2017年10月25日開催の理事会において以下の規程を決定し整備しました。

1. 定款細則
2. 倫理規程
3. 情報公開規程

Ⅷ 事業報告の付属明細書

2022年度事業報告には、「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため、社会福祉法施行規則第2条の25第3項に規定する事業報告の付属明細書は作成していません。